

58

58-64



1200701673209



始



27.10. 9

二 4500



系統解剖學



二村鎮次郎著

解剖學講義總目次

緒言

一丁

第一編 骨學

三丁

各論

六丁

第一章 頭蓋頭

六丁

後頭骨

蝴蝶骨(或八楔狀骨)

顱顱骨

顱頂骨

前頭骨(或額骨)

第二章 顏面骨

篩骨

鼻骨

次

目

55-6

Handwritten notes and scribbles in the top left corner.

甲 上肢骨

(一) 上肢帶 七五丁

(a) 肩胛骨 七五丁

(b) 鎖骨 七六丁

(二) 上膊骨 七六丁

(三) 前膊骨 七七丁

(a) 尺骨 七七丁

(b) 撓骨 七八丁

乙 下肢骨

(一) 下肢帶 八〇丁

腕骨(或膀骨又ハ無名骨) 八〇丁

(a) 腸骨 八一丁

(b) 坐骨 八二丁

(c) 耻骨 八二丁

淚骨 二

鋤骨 二

甲介骨 二

上顎骨 二

口蓋骨 三

頤骨 三

下顎骨 三

舌骨 三

頭蓋骨全體ニ就テ 四七丁

脊柱全體ニ就テ 六九丁

胸骨 七〇丁

肋骨 七一丁

胸廓 七三丁

第三章 四肢骨 七四丁

第三章 肋骨ト胸椎及ビ胸骨トノ結合 九八丁

第四章 上肢ニ屬スル關節及ビ靱帶

(甲) 上肢帶 一〇〇丁

(乙) 肩胛關節 一〇〇丁

(丙) 肘關節 一〇一丁

(丁) 前膊骨相互ノ結合 一〇二丁

(戊) 手關節 一〇二丁

(己) 指掌關節 一〇二丁

(庚) 指關節 一〇二丁

第五章 下肢ノ關節及靱帶

(甲) 下肢帶 一〇四丁

(乙) 髌關節(大腿關節或ハ髌白關節) 一〇五丁

(丙) 膝關節 一〇六丁

(丁) 下腿骨相互ノ結合 一〇七丁

○ 第二編 關節及靱帶學

關節ノ種類 九〇丁

各論

○ 第一章 頭蓋ノ關節及ビ靱帶 九三丁

第二章 脊柱ノ靱帶及關節 九四丁

骨盤 八三丁

(一) 大腿骨 八三丁

(二) 下腿骨 八五丁

(a) 脛骨 八五丁

(b) 腓骨 八五丁

(四) 足骨 八六丁

足根骨(或ハ跗骨) 八六丁

中足骨或ハ蹠骨及ビ趾骨 八八丁

八九丁

(戊)足關節

第三編 筋學

總論

各論

頭筋

皮筋

(一)顱頂筋

(二)外耳筋

(三)眼瞼筋

(四)鼻筋

(五)口筋

咀嚼筋

頸筋

一〇七丁

一〇九丁

一五丁

一五丁

一五丁

一五丁

一六丁

一七丁

一八丁

一九丁

二〇丁

二三丁

二五丁

五〇

淺層ニ屬スルモノ

○ 淵頸筋或ハ頸皮下筋及舌骨上筋

胸鎖乳嘴筋

舌骨下筋

舌骨上筋

深層ニ屬スルモノ

A、外側群

B、内側群

胸筋

淺層

深層

腹筋

腹部後側ニアル筋

背筋

五一

二五丁

二五丁

二六丁

二六丁

二八丁

三〇丁

三〇丁

三四丁

三二丁

三二丁

三五丁

三六丁

四一丁

四三丁

筋膜

第一層 一四四丁

第二層 一四六丁

上肢筋 一四七丁

肩筋 一四九丁

上膊筋 一五一丁

前膊筋 一五四丁

手筋 一五六丁

下肢筋 一五六丁

膀筋或ハ腕骨筋 一五九丁

大腿筋 一六二丁

下腿筋 一六六丁

足筋 一六八丁

第四編 内臓學

消化器

口腔 一七三丁

口腔附屬物 一七三丁

口腔腺 一七七丁

舌 一八二丁

齒牙 一八八丁

咽門及ヒ軟口蓋 一八八丁

咽頭 一九一丁

食道 一九四丁

胃 一九六丁

腸 二〇一丁

小腸 二〇三丁

大腸 二〇三丁

呼吸器

肝臟 二〇六丁

脾臟 二二一丁

脾臟 二二二丁

鼻 二二五丁

喉頭 二三二丁

氣管及氣管枝 二四三丁

肺臟 二四五丁

胸膜 二五〇丁

甲狀腺 二五三丁

胸腺 二五五丁

泌尿器

腎臟 二五六丁

輸尿管 二六一丁

第五編 脈管學

膀胱 二六二丁

副腎 二六三丁

生殖器

腹膜 二六四丁

血管系 二六五丁

心臟 二六六丁

心臟 二六九丁

血管淋巴管及神系 二七五丁

心囊 二七六丁

肺循環 二七七丁

體循環 二七八丁

大動脈 二八〇丁

上行大動脈 二八〇丁

大動脈弓 二八〇丁

○第六編 神經學

總頸靜脈	三〇二丁
總顏面靜脈	三〇二丁
後顏面靜脈	三〇三丁
前顏面靜脈	三〇四丁
頸部ノ皮下靜脈	三〇四丁
內頸靜脈	三〇五丁
鎖骨下靜脈	三〇九丁
奇靜脈及平奇靜脈	三〇九丁
下大靜脈	三〇九丁
門脈	三一〇丁
總腸骨靜脈	三一〇丁
內外二腸骨靜脈	三一〇丁
淋巴管系	三一〇丁
○第六編 神經學	三一八丁

○	無名靜脈	三〇二丁
○	靜脈	三〇一丁
	外腸骨動脈	三〇〇丁
	內腸骨動脈	三〇〇丁
	總腸骨動脈	三〇〇丁
	中薦骨動脈	二九九丁
	腹部大動脈	二九六丁
	胸部大動脈	二九五丁
	鎖骨下動脈	二九四丁
	眼動脈	二九四丁
	內頸動脈	二九二丁
	外頸動脈二終末枝	二八六丁
	外頸動脈	二八一丁
	總頸動脈	二八一丁

脊髓 三一九丁

腦髓 三三二丁

延髓(或未腦) 三三四丁

後腦 三三五丁

菱形側狹部 三三六丁

第四腦室 三三七丁

中腦 三三八丁

間腦 三三九丁

終腦 三四〇丁

側腦室 三四一丁

胼胝體 三四九丁

末梢神經 三五二丁

嗅神經 三五三丁

視神經 三五四丁

目次終

動眼神經 三五四丁

滑車神經 三五五丁

三叉神經 三五六丁

顏面神經 三六七丁

舌咽神經 三七八丁

迷走神經 三七八丁

副神經 三九五丁

舌下神經 三九五丁

背髓神經 三七六丁

背髓神經一般分枝狀態 三七七丁

58-64

解剖學講義

醫學博士 二村領次郎述



齒 科 解 剖 學

本講義ハ齒科醫タラント欲スル人々ノ爲ニ述ブル者ナレバ此目的ニ向ツ
 テ密切ナル關係ヲ有スル處ハ詳述シ關係ノ薄キ處ハ畧述シ以テ學生諸氏
 ガ徒ラニ腦力ヲ消費スルコトヲ避ケント欲ス讀者幸ニ之ヲ諒セヨ。
 又學名ノ下ニ英學名ヲ記入セリ然レモ吾人醫師ガ普通用ノル學名ハ獨學
 名ナレバ學名ト其下ニ記入セル英學名トハ一致セザル所甚ダ多シ之レ亦
 讀者ノ諒セラレシコトヲ望ム。

解剖學 Anatomy ハ形態學ノ一科ニシテ生活體ノ形狀及ヒ構造ヲ研究スル學
 ナリ。此目的ヲ達スル爲ニ吾人ハ生活體ノ分解ヲ爲シ以テ各機關ノ構造及ビ各
 部位ニ於ケル諸物體相互ノ位置ノ關係ヲ研究ス。而シテ吾人ノ研究ハ管ニ肉眼
 ヲ以テ視得ル者ノミナラズ肉眼ヲ以テ視得ザル所ノ微細ナル者ニモ及ブ。故

解剖學講義

解剖學講義

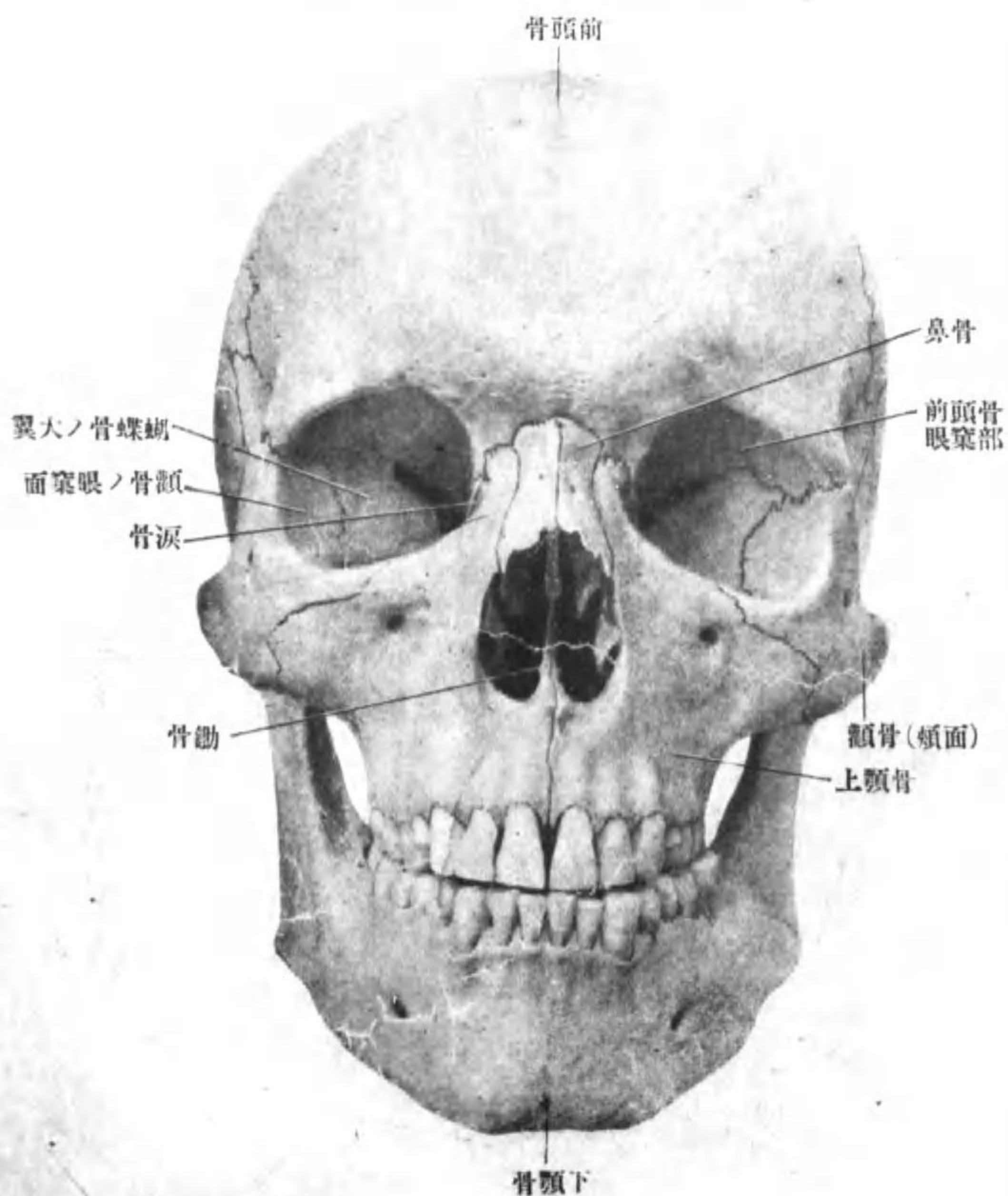
ニ補助器械トシテ刀、鉗ノ類ノ外ニ顯微鏡ヲ用ユ。此顯微鏡ニ依リ研究スル解剖學ノ部分ヲ組織學或ハ顯微鏡的解剖學 Histology or microscopical anatomy ト云フ。

吾人醫師ガ主トシテ研究スル者ハ人體ナルヲ論ヲ俟タズ。然レモ吾々人間ニ最高等ノ動物ニシテ從ツテ最モ複雑ナル構造ヲ有ス。此複雑ナル構造ヲ有スル者ノミニ就テ研究スルルハ種々理解シ難キ點ニ遭遇ス。故ニ比較的人間ニ近クシテ且人間ヨリモ簡單ナル構造ヲ有スル動物ニ就キテ研究シテ得タル結果ヲ以テ人間ニ於ケル理解シ難キ點ヲ推測スルヲ必要トス。

解剖學ニハ系統解剖學或ハ記載解剖學 Systematical or descriptive anatomy ト局處解剖學 Topographical anatomy トヲ區別ス。系統解剖學トハ人體ヲ種々ノ系統ニ分チ各系統ニ從ツテ順序正シク研究スル仕方ニシテ局處解剖學ニ比較スレバ純學術的ナリ。之ニ反シテ局處解剖學ハ實用ヲ主トシ人體ヲ數多ノ部分ニ分チ其各部分ニ在ル物體ニ就キ研究スル者ニシテ實地醫學特ニ外科學ト密接ナル關係ヲ有スルガ故ニ之ヲ亦外科解剖學 Surgical anatomy トモ云フ。

系統解剖學ニハ次ノ諸系統ヲ區別ス。

第一圖 (面前) 骨蓋頭



- (一) 骨學 Osteology
- (二) 靱帶學 Syndesmology
- (三) 筋學 Myology
- (四) 脈管學 Angiology
- (五) 內臟學 Splanchnology
- (六) 五官器學或ハ感覺器學 The Lesson of sensualorgans
- (七) 神經學 Neurology

第一篇 骨學 Osteology.

吾人が一定ノ體形ヲ有スルヲ得ル所以ハ其内部ニ骨アルガ故ニシテ骨ハ吾人ノ身體ヲ構成スル諸組織中最モ堅キ者ニシテ其數ハ約二百個存在シ凡テノ骨ハ一定ノ法則ニ依リ互ニ相連結シテ骨骼ヲ作レリ。

骨ノ形狀ハ千變萬化ナレモ大體ニ於テハ之ヲ扁平骨、短骨及ビ長骨或ハ管狀骨ノ三種ヲ區別ス。此内チ扁平骨ニ屬シタル者ハ頭蓋骨ノ大部分、短骨ニ屬スル

者ハ椎骨或ハ脊椎、長骨ニ屬スル者ハ胸骨、肋骨、四肢ニ屬シタル骨ノ大部分ナリ。然レ此區別ハ人爲的ノ者ナルガ故ニ其間ニ種々ノ移行狀態及ビ混合狀態ニ在ル者有ルハ自然ノ勢ナリ。又此三種ノ外骨ノ内部ニ空氣ヲ入ル、腔ヲ有スル骨アリ此種ノ骨ヲ含氣骨ト云フ。

骨ノ内部ニハ一般ニ大小種々ノ間隙存在シ其内ニ骨髓ヲ有ス。此骨髓ニハ赤色ヲ帶ビタル者ト黄色ヲ帶ビタル者トノ二種アリ其黄色ヲ有スル者ヲ黄色骨髓ト云ヒ赤色ヲ有スル者ヲ赤色骨髓ト云フ。幼年ニ在リテハ骨髓ハ皆赤色骨髓ナレ其後骨髓内ニ脂肪ガ蓄積スルガ故ニ漸次ニ黄色ニ變化シ大人ニ在リテハ骨髓ノ大部分ハ黄色ヲ呈スルニ至ル換言スレバ黄色骨髓ト成ル。

又骨ノ表面ハ強硬ナル結締織膜ニ依リテ被ハル此膜ハ骨膜 Perosteum ト稱シ骨ノ營養ニ重大ナル關係ヲ有スル者ニシテ骨ガ病氣ニ罹レル際骨膜ニ變化無キ時ハ容易ニ治癒スレ其骨膜ニ變化有ルキハ骨ノ變化ハ甚ダ少キモ治癒スルノ頗ル困難ナリ。

骨ニハ其狀態ニ依リ緻密骨ト海綿骨トヲ區別ス。前者ハ骨質ノ緻密ナル者

ニシテ長骨ニ於テハ中央部、短骨及ビ扁平骨ニ於テハ周圍部ヲ占ム。海綿骨トハ數多ノ小間隙ヲ有スルガ爲ニ骨質ガ海綿様ヲ爲ス者ニシテ長骨ニ於テハ兩端部短骨及ビ扁平骨ニ於テハ中心部ヲ占ム。二種共ニ有機物ト無機物トカ今日尙吾人ニ不明ナル狀態ヲ以テ相混合シテ成レリ。然レ一定ノ方法ニ依リ骨ノ形狀ニハ少シモ變化ヲ生ズルヲナク此兩者ヲ分離スルヲ得其方法ハ有機物

ノミヲ得ントスルキハ骨ヲ酸類中ニ浸スニ在リテ例ヘバ骨ヲ稀鹽酸、稀硝酸等中ニ浸ス時ハ無機物ハ酸中ニ溶解シ跡ニ有機物ノミヲ殘ス。此殘リタル有機物ハ軟骨ニ似タル性質ヲ有シ彈力性ニ富ミ容易ニ曲リ且刀ニテ切斷スルヲ得。又無機物ノミヲ得ントスル時ニハ骨ヲ燃燒スルニ在リテ骨ヲ燃燒スル時ハ有機物ハ燃エテ跡ニ無機物ノミヲ殘ス。此殘リタル無機物ハ外見上元トノ骨ト今ク同一ノ形ヲ有シ堅ケレ非ニ脆ク容易ニ破壊ス。

長骨ニハ通常中央部即チ骨體ト兩端即チ骨端トノ二部ヲ區別シ此等ノ骨ハ骨ガ發育シツ、有ル間ハ軟骨盤ニ依リ互ニ距テラル。此軟骨盤ヲ骨端軟骨ト稱シ骨ガ延長スルノニ關シ重要ナル關係ヲ有ス。即チ骨ガ延長スル間ハ此

各論 頭蓋骨

盛シニ軟骨ヲ生ジ出來タル軟骨ト周圍部ヨリ漸次ニ化骨シ之ニ依リテ骨ヲシテ延長セシム。此骨端軟骨ハ身體ノ發育ガ全ク終リタル後二三年ニシテ全ク消失ス。

骨ハ周圍ニ在ル骨膜ヨリ血管ヲ受ク此血管ヲ營養血管 Vasa nutriticia ト名ケ其者ガ骨内ニ入ル所ヲ營養孔 Foramen nutritium ト名ク其數ハ長骨ニ於テハ兩端ニ在ル海綿狀部ニハ小ナル者ガ澤山有レ凡骨體ニハ大ナル者ガ小數ニ在リ而シテ骨體ニ在ル營養孔ノ存在場所ハ殆ンド常ニ一定シ其ノ位置ヲ知ルコトハ實地醫學上ニ甚ダ必要ナリ。

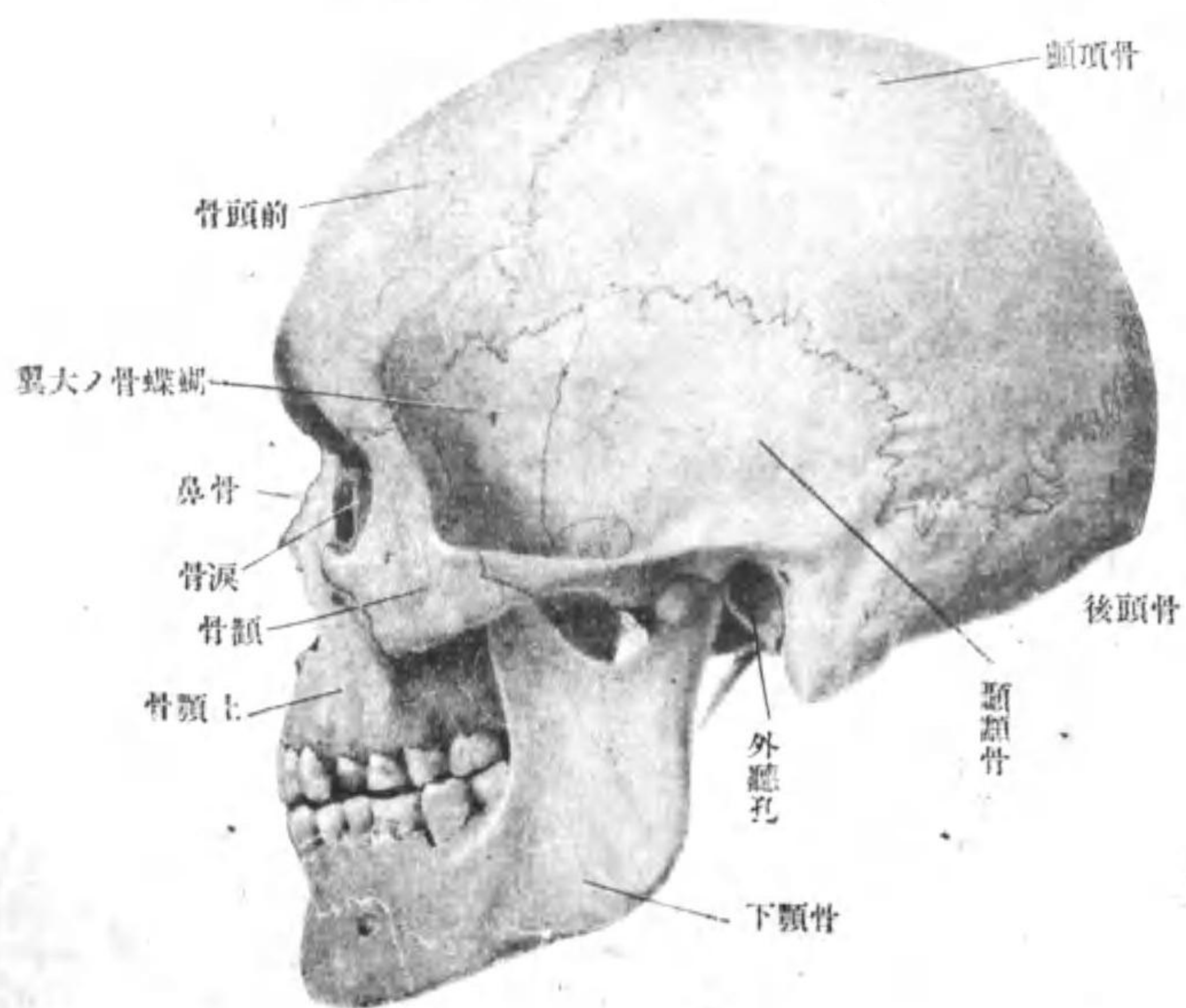
各論

骨ニハ軀幹骨 The bones of the trunk ト四肢骨 The bones of limbs トヲ區別シ軀幹骨ノ上端ハ膨大シテ頭蓋骨 The skull ヲ爲ス故ニ此部分ハ軀幹骨ト區別ス。

第一章 頭蓋骨 The Skull

此者ハ神經系ノ上端即チ腦髓及ヒ腦髓ト密接ナル關係ヲ有スル五官器ノ容

第二圖 (面側) 頭蓋骨



器及ビ保護器タル作用ヲ爲シ且消化器ノ上端部ヲ有スル部ニシテ十五種廿キ
 個ノ骨ヨリ成リ之ニ腦髓ヲ包ム所ノ腦頭蓋 Cerebral Cranium ト顔面ヲ構成スル
 所ノ顔面頭蓋 Visceral Cranium トノ二部ヲ區別ス此二部ニ屬スル骨名ヲ擧グレバ
 次ノ如シ。

腦頭蓋ニ屬スル者。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| (一) 後頭骨
The Occipital | (二) 蝶骨
The Sphenoid |
| (三) 顳骨
The temporal Bones | (四) 頂骨
The Parietal |
| (五) 前頭骨或ハ額骨
The Frontal | (六) 篩骨
The Ethmoid |
| 顔面頭蓋ニ屬スル者 | (七) 鼻骨
The Nasal |
| (七) 鼻骨
The Nasal | (八) 涙骨
The Lacrimal |
| (九) 鋤骨
The Vomer | (十) 下甲介骨
The inferior Turbinal |
| (十一) 顴骨
The Malar | (十二) 上顎骨
The Maxilla |
| (十三) 口蓋骨
The palatae Bones | (十四) 下顎骨
The Mandible or lower jaw |
| (十五) 舌骨
The Hyoid | |

頭蓋骨

蝶骨

頂骨

篩骨

6 ps.

頭蓋骨

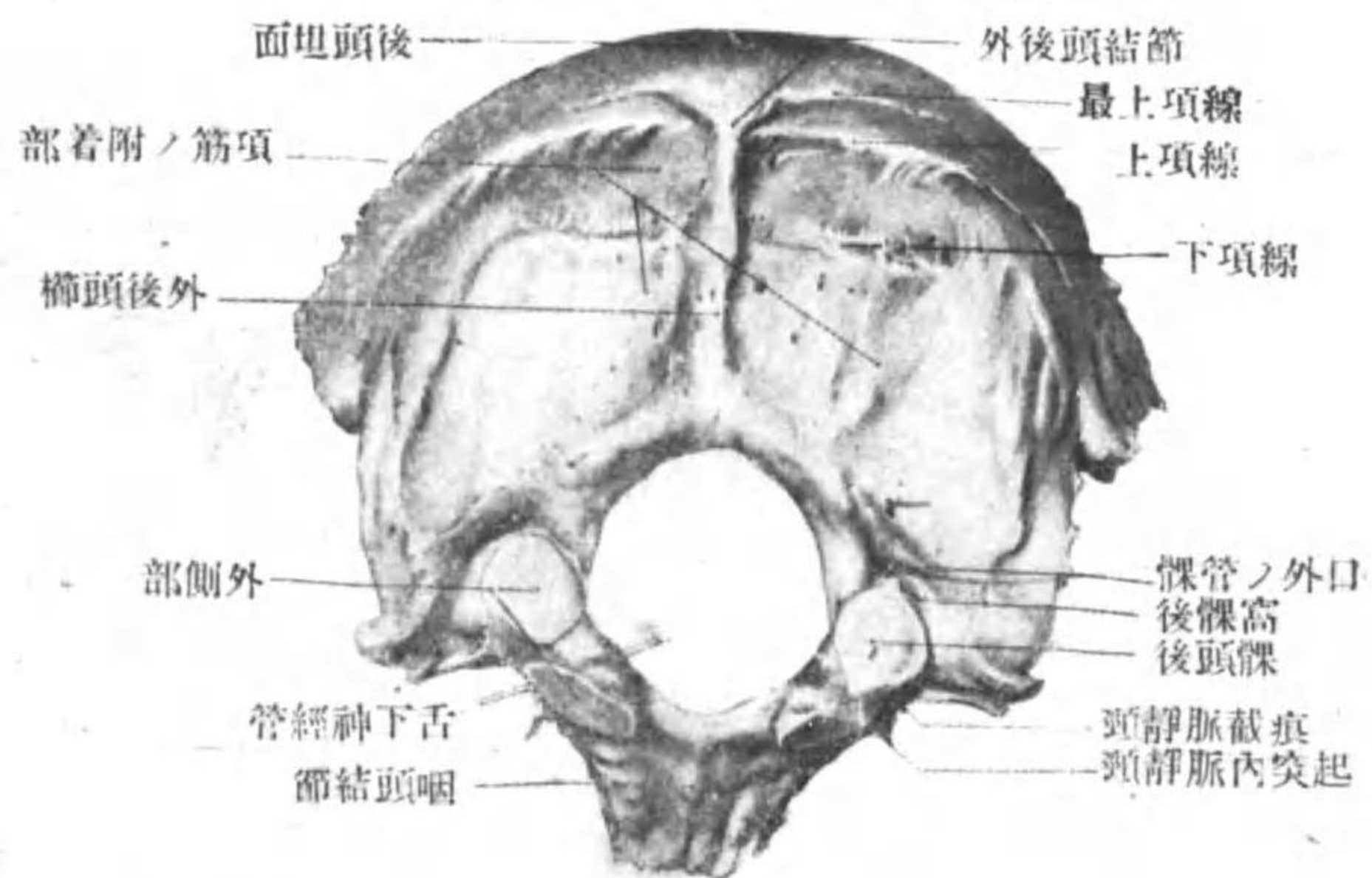
後頭骨 The occipital

此骨ハ頭蓋ノ後頭部ヲ作ル骨ニシテ其後下部ニ一ノ大ナル孔ヲ有ス之ヲ大後頭孔 Foramen occipitale magnum ト稱シ頭蓋腔ト脊椎管トヲ結合スルモノシテ脊髓ハ此所ヲ通ジテ腦髓ト結合ス此孔ニヨリ此骨ヲ基底部 Basal occipital 或ハ體外側部 Ex occipital 及ビ後頭鱗或ハ鱗狀部 Squamo-occipital ノ二部ノ區別ス

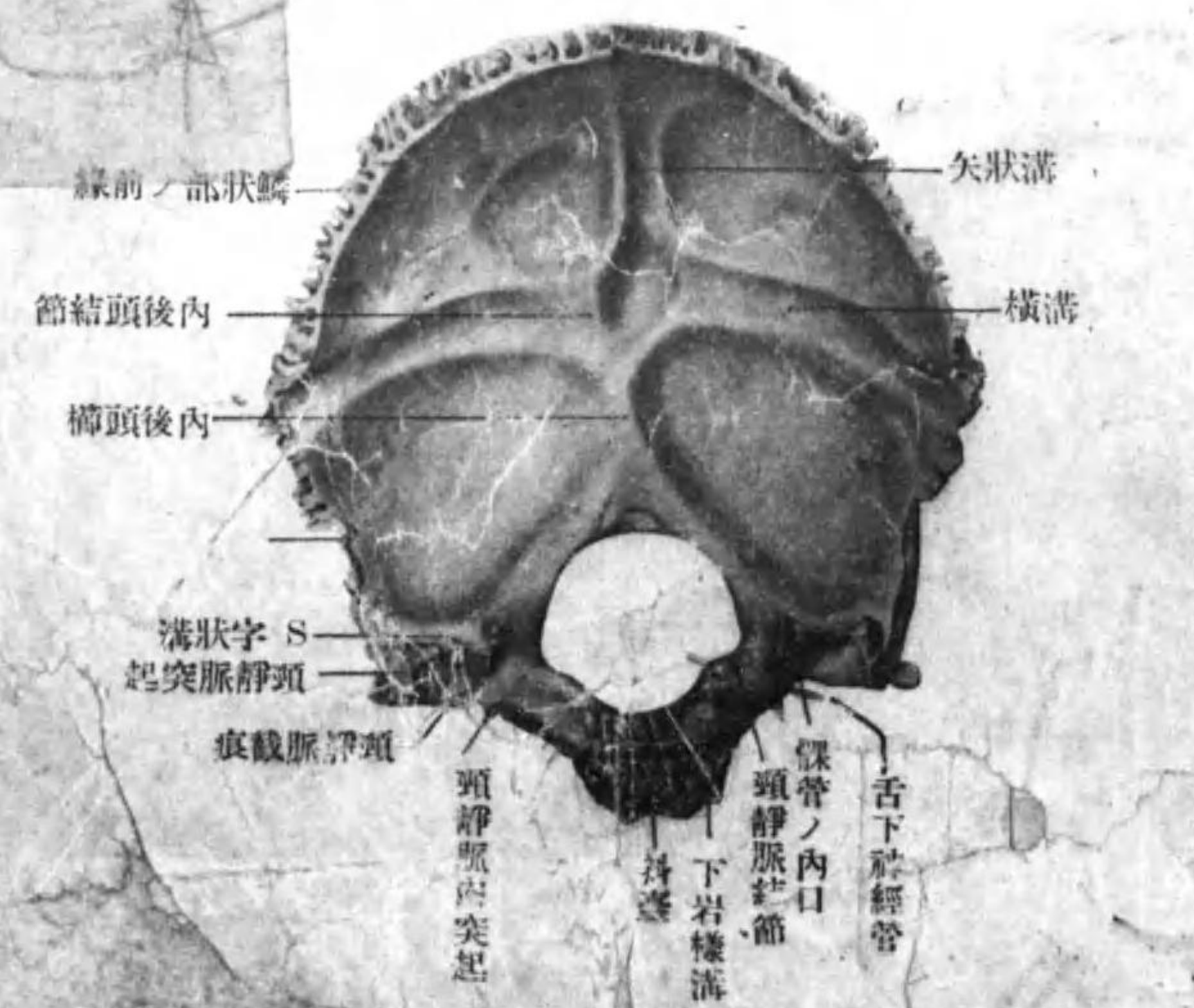
A. 基底部 The Basal-occipital ハ大後頭孔ノ前部ヲ占メ楔狀ヲナシ其前端ハ厚ケレドモ後方ニ至ルニ從ヒ漸次薄クナル之レニ上下前ノ三面及ビ兩側縁ヲ區別ス。前面ハ約四角形ヲナシ蝴蝶骨體ト結合ス下面或ハ外面ハ中央ニ稍々隆起シタル所ヲ有ス之レヲ咽頭結節 Pharyngeal tubercle ト稱シ上咽頭收縮筋ノ附着スル所ナリ其兩側ニハ稍々粗ナル所アリテ深頸筋ノ附着スル所ヲ示セリ上面ハ稍々陥凹シ其上ニ延髓及ビ橋髓ヲ乗ス其兩側ニハ淺キ溝ヲ有シ顛顛骨岩様部ノ下縁トノ間ニ一溝ヲ作ル之ノ溝ヲ下岩様溝 The Groove of the anterior petrosal Sinus ト稱シ其内ニ下岩様竇ヲ入ル兩側縁ハ顛顛骨岩様部ト結合ス

外側部 The Ex-occipital ハ大後頭孔ノ兩側ヲ占メ之レニ内外ノ二面及ビ外側縁

第三圖 後頭骨ノ外面



第四圖 後頭骨ノ内面



下面

後頭窩

とくは

上より名をよむ

上面

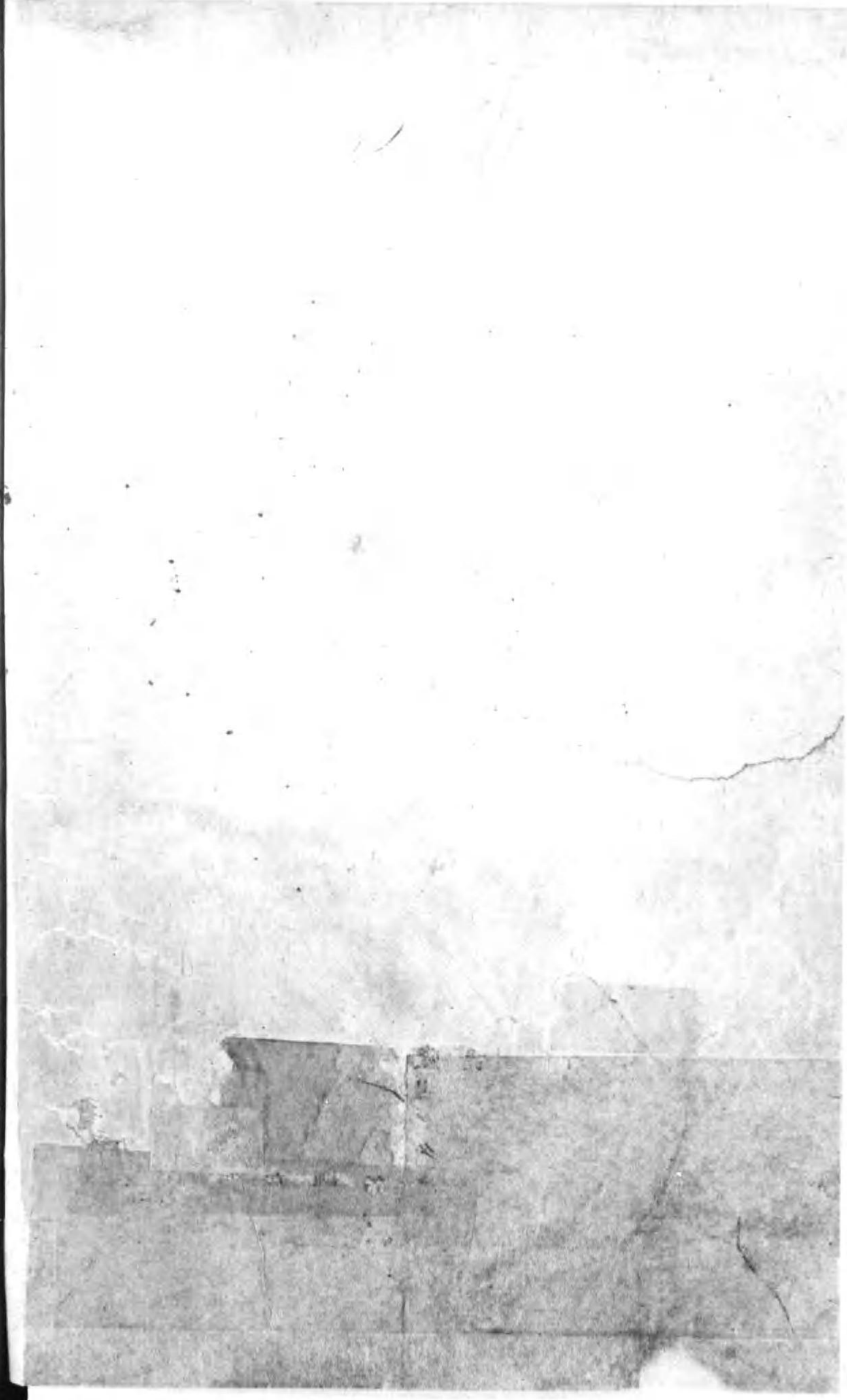
とくは

解剖學

9

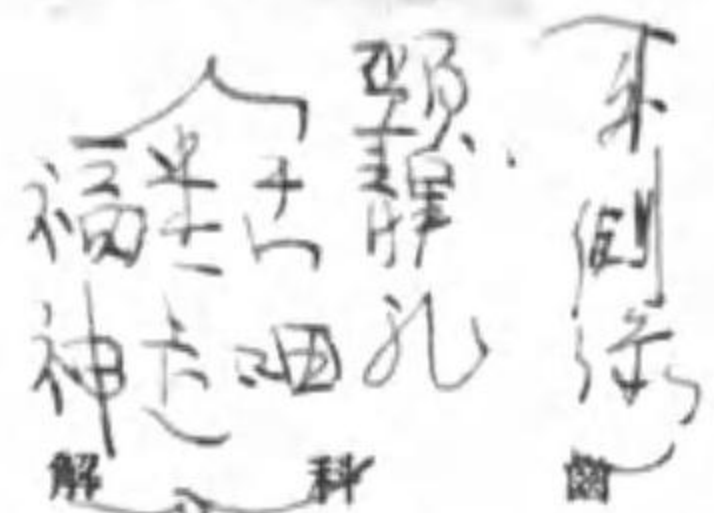
ヲ區別ス。外面即チ下面ニハ大後頭孔ノ兩側ニ長橢圓形ノ關節面存在ス之レヲ後頭髁 The occipital condyle ト稱シ載域ノ上面ニ存在スル關節面ト結合スル所ニシテ頭蓋骨ハ此者ニ依リ脊椎ト結合ス其關節面ハ前後左右共ニ凸面ヲ呈シ其軸ハ後外側ヨリ前内側ニ走ル此關節面ノ前後兩側ハ稍々陷凹ス之レノ前髁窩及ビ後髁窩 The anterior and posterior condyloid Fossa ト稱シ後髁窩ニハ孔存スル所アリ此者ハ導血管ノ通ズル所ニシテ其前端ハ頸靜脈截痕ニ開ク後頭窩ノ上方ニハ横走セル管アリ之レヲ舌下神經管 The Hypoglossal canal ト稱シ同神經ノ通ヅル所ナリ内面或ハ上面ハ後頭髁ノ上方ニ當ル所ニ稍々走ル所アリ此所ヲ頸靜脈隆起ト稱シ其外側ニハ一大溝アリ此者ハS字狀溝 The groove of sigmoid Sinus ト稱シS字狀靜脈竇ノ入ル所ナリ外側緣ニハ大ナル截痕アリ之レヲ頸靜脈截痕 The jugular notch ト稱シ顛顚骨岩様部ニアル同名截痕ト合シ一大孔ヲ作ル此者ヲバ頸靜脈孔 The Jugular foramen ト稱ス此頸靜脈截痕ノ前部ニハ一突起アリ之レヲ頸靜脈内突起 The intrajugular process ト稱シ顛顚骨岩様部及靜脈截痕ニアル同名ノモノト相對シ之レニ依リテ頸靜脈孔ヲ前後ノ二部ニ分

頭蓋骨



頭蓋骨

ツ。其前方ノ小ナルモノハ神經ノ通ヅル所ニシテ舌咽神經、迷走神經及ビ副
 ヲ通ゼシム、後方ニアル大ナルモノハ靜脈ノ通ズル所ニシテ内頸靜脈球
 入ル。頸靜脈截痕ノ後側ニハ突出シタル部分アリ之レヲ頸靜脈突起 The
 Process ト稱シ其下面ハ稍々隆起シ稀ニハ甚シク隆起スルコトアリ此
 ヲ副乳嘴突起 The par-mastoid process ト稱ス。



鱗狀部或ハ後頭鱗 The Squamo-occipital ハ大後頭孔ノ後側ニアル鱗狀ノ部分ニ
 シテ之レニ内外ノ二面ヲ區別ス。外面ニハ中央部ニ近キ所ニ一突起アリ之レヲ
 外後頭結節 The external occipital protuberance orinion ト稱シ此者ヨリ下方及ビ左右
 ニ向ツテ線狀ノ隆起存在ス。下方ニ向ツテ出デタル線ヲ外後頭櫛 The external
 occipital crest ト稱シ項靱帶ノ附着スル所ナリ。左右ニ向ツテ出デタル線ヲ上項線
 The superior nuchal line ト稱シ其上下ニハ殆ンド之ト並行スル線アリ其下方ノモ
 ノヲ下項線 The inferior nuchal line ト稱シ上方ノモノヲ最上項線 The nuchal line ト
 稱ス是等ノモノハ筋肉ノ附着スル爲メニ出來タルモノニシテ上項線ヨリ下方
 ニテハ項筋ガ附着シ上項線ト最上項線トノ間ニハ僧帽筋ガ附着ス。内面ニハ十

字形ノ隆起アリ之レヲ十字形隆起 The crucial ridges ト稱シ其中央部ニハ外面ニ
 アル外後頭結節ニ當ル所ニ内後頭結節 The internal occipital protuberance アリテ之
 レヨリ上下左右ニ出デタル四脚中、上左右ニ出テタルモノハ其上ニ溝ヲ有スレ
 ドモ下方ニ向ヒタルモノハ溝ヲ有セズ。其下方ニ出デタルモノヲ内後頭櫛 The
 internal occipital crest ト稱シ小腦鎌狀膜ノ附着スル所ナリ。左右ニ出デタル溝ハ横
 溝 The Groove for lateral Sinus ト稱シ横竇ヲ入ル、所ニシテ其兩緣ノ隆起シタル
 所ニハ小腦天膜ガ附着ス。上方ニ出デタル溝ハ矢狀溝 The Groove for sagittal Sinus
 ノ後端ヲナシ多クハ右側ノ横溝ニ連ナレドモ稀ニハ左方ノ横溝ニ連ナルコト
 アリ此矢狀溝ハ上矢狀竇ヲ入ル、所ニシテ其兩緣ニハ大腦鎌狀膜ガ附着ス。此
 ノ十字狀ノ隆起ニヨリテ後頭骨ノ内面ハ四陷凹ニ分タル其上方ニアル一對
 上後頭窩 The superior occipital fossa 或ハ腦髓窩 The cerebral fossa ト稱シ大腦ノ後
 葉ヲ入ル、所ナリ。下方ノ一對ヲ下後頭窩 The inferior occipital fossa 或ハ小腦窩 The
 cerebellar fossa ト稱シ小腦ヲ入ル、所ナリ。



蝶形骨或ハ楔狀骨 The sphenoid

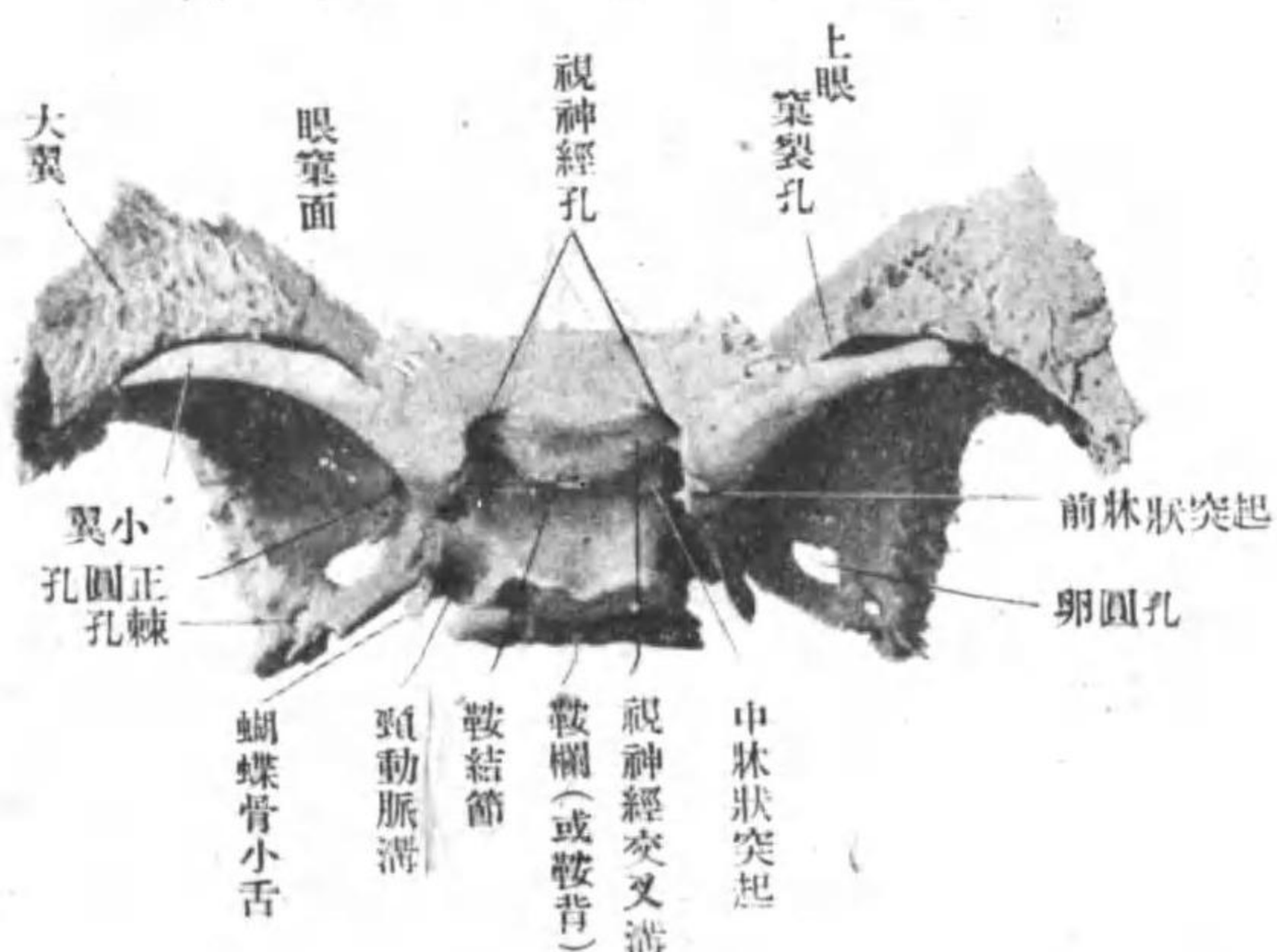
頭蓋骨

頭蓋骨

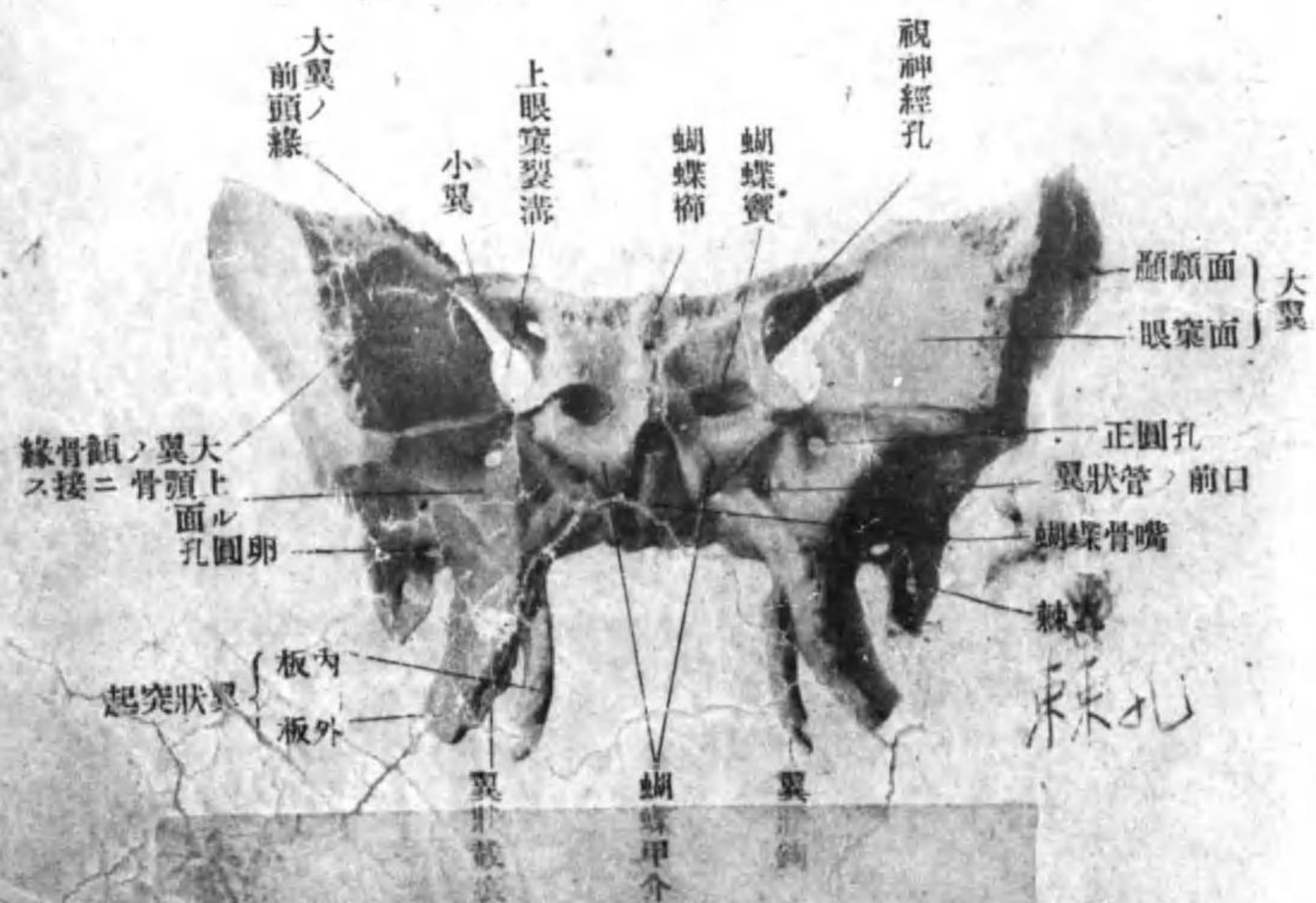
此骨ハ頭蓋底ノ中央部ヲ作ルモノニシテ隨ツテ多クノ骨ニ接ス即チ後方ハ後頭骨及ビ顛顛骨岩様部ニ接シ上側ハ顛顛骨鱗狀部顛頂骨前頭骨ニ接シ前側ハ篩骨鋤骨口蓋骨上顎骨及ビ顛骨ニ界ス之レニハ體大翼小翼及ビ翼狀突

四部ヲ區別ス。
 體 The body 此者ハ中央部ヲ占メ立方形ヲナシ之レニ上下前後及ビ兩側ヲ區別ス。上面ハ腦髓ニ面スルガ故ニ腦面トモ稱シ其中央部ハ陷凹ニ此ハ垂體窩 The pituitary ト稱シ下垂體ヲ入ル、所ニシテ其前後ハ高クナリ格ニヲナスガ故ニ之レヲ土斯古鞍 The turcic saddle ト稱ス、而シテ前面ノ隆起ヲ鞍結節 The Olivary eminence ト稱シ其兩端稍々突出スルコトアリ之レヲ中牀狀突起 The middle clinoid process ト稱ス。此鞍結節ノ前ニハ橫溝アリ之レヲ視神經交叉溝 The Groove for optic chiasma ト稱シ視神經交叉ノ入ル所ニシテ其前端ハ一ノ孔ニヨリテ眼窠ニ連ル此者ヲ視神經孔 The optic foramen ト稱シ視神經及ビ眼動脈此ノ内ヲ通ズ尙其前方ハ再ビ稍高クナレリ之ヲ蝴蝶隆起 Jugum sphenoidale ト稱シ其前縁ハ前頭骨及ビ篩骨ニ連リ兩側端ハ小翼ニ連ル下垂體窩ノ後ニアレ隆起

第五蝶骨ノ上面



第六蝶骨ノ前面



ヲ鞍背又ハ鞍欄 The Dorsum ephippii ト稱シ其兩端ハ棘狀ヲナシ後外方ニ突出ス
之レヲ後牀狀突起 The posterior clinoid processes ト稱ス其レヨリ後方ハ斜面ヲナシ
後頭骨體ノ内面ニ連レリ體ノ兩側ガ大翼ニ連ナル所ニハ前後ニ走ル溝アリ之
ノ溝ヲ頸動脈溝 The carotid groove ト稱シ其内ニ内頸動脈海綿樣竇ヲ入ル。

後面ハ四角形ヲナシ後頭骨ノ體ニ連ナル。
前面ハ鼻腔ニ向ヒニ孔存在ス此孔ハ蝴蝶竇 The Sphenoidal sinuses ノ入口ニシ

テ蝴蝶竇ノ大サニハ種々アリ甚ダシキ時ニハ後頭骨體ノ内部ニ侵入ス而シ
テ蝴蝶竇ノ入口ノ下部ハ骨ノ薄板ニヨリテ閉サル又兩側ノ蝴蝶竇ハ中隔ニ
リ隔テラル此ノ中隔ハ前面ニ於テハ櫛狀ヲナシテ隆起シ下方柱ニシテ成
下端ハ下面ヨリ來ルモノト合シテ嘴狀ヲナス此者ヲ蝴蝶嘴 The sphenoidal
ト稱ス。

下面ハ稍々粗ニシテ其前部ノ中央線ニハ櫛狀隆起アリテ其前端ハ蝴蝶
作レリ。

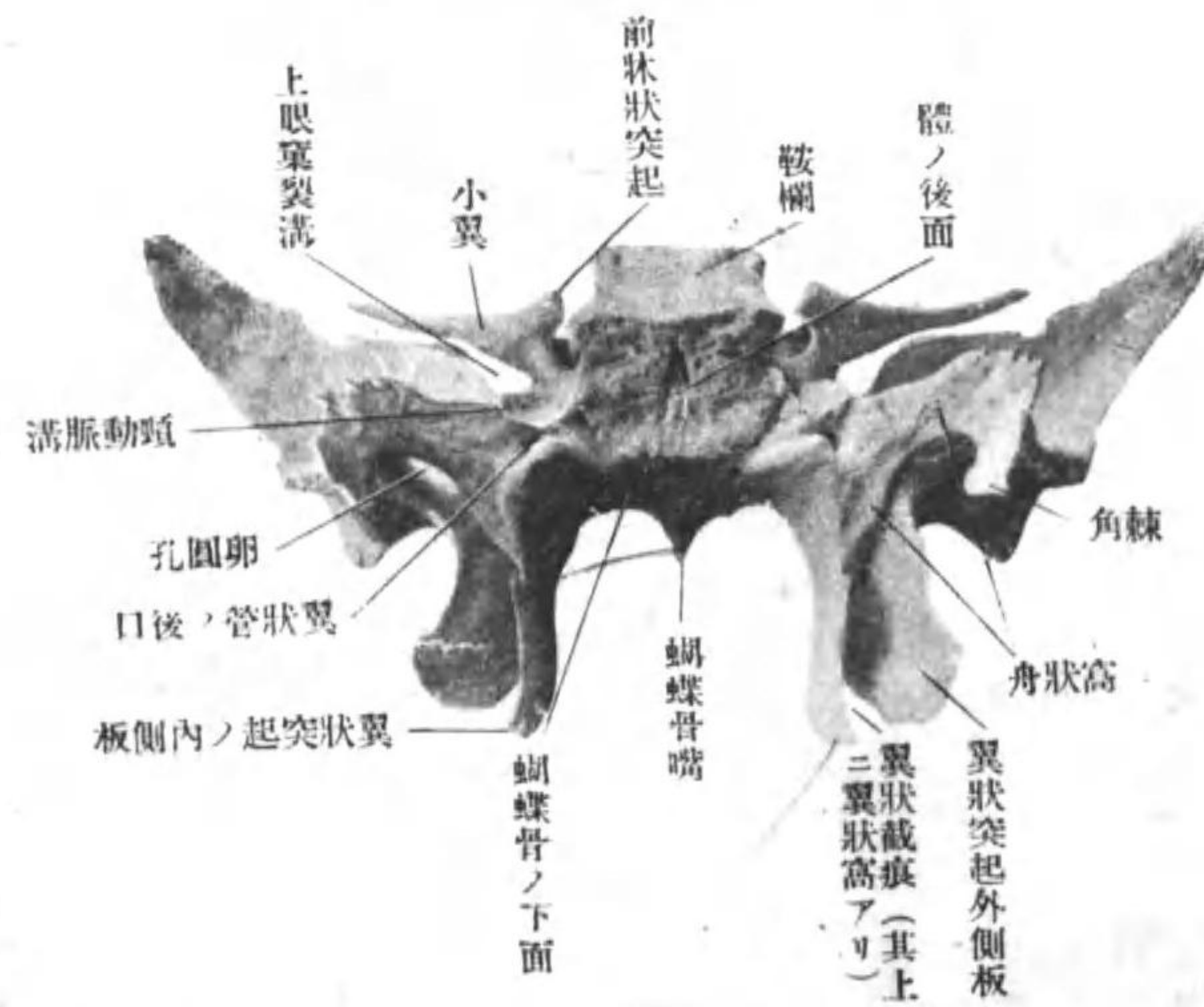
大翼或ハ顛顛翼 The Greater or temporal wings。此者ハ蝴蝶骨體ノ兩側ヨ

頭蓋骨

頭蓋骨

ニ向ツテ出デタル者ニシテ之レニ上前外ノ三面、上下後ノ三縁ヲ區別
 頭蓋腔ニ向ヒ一般ニ陷凹シ其基ニ於テ三孔ニヨリ突カル其最モ前方
 ノヲ正圓孔 Foramen rotundum ト稱シ三叉神經第二枝ノ通ヅル所ナリ其
 ルモノヲ卵圓孔 Foramen ovale ト稱シ三叉神經ノ第三枝其内ヲ
 アル孔ヲ棘孔 Foramen spinosum ト稱シ中硬腦膜神經及ビ同名動脈ノ通
 ナリ其他此面ニハ腦髓ノ表面ニ一致シテ出來タル隆起及ビ壓痕及ビ硬
 脈ニヨリテ出來タル溝ヲ示ス前面ハ約四角形ヲナシ滑カニ眼窠外壁
 部分ヲナス外面ハ外方ニ向ヒ前後ニ走レル一楯ニヨリ上下ニ分タル楯
 楯ヲ顛顛下楯 The infratemporal crest ト稱シ之レヨリ上方ニア
 内壁ノ一部ヲナシ下方ニアル部分ハ顛顛下窩ノ上壁ヲナス上下後ノ三縁ハ各
 々内外ノ二部ニ分タル即チ上縁ノ内側部ハ小翼トノ間ニ土眼窠裂溝ヲ界シ外
 側部ハ前頭骨及ビ顛頂骨ト結合ス下縁内側部ハ上顎骨體トノ間ニ下眼窠裂溝
 ヲ界シ外側部ハ頰骨ト結合ス後縁ハ外側部ハ顛顛骨鱗狀部ニ接シ内側部トノ
 間ニ後方ニ出タル突起ヲ有ス之レヲ角棘 The alar spine ト稱ス内側部ハ更ニ

第七 蝶骨ノ後面圖



内外ノ二部ニ分レ其内側部ヲ以テ顛顛骨岩様部ノ尖端トノ間ニ不規則ナル形ヲ有スル孔即チ破裂孔 Foramen lacerum ヲ境シ外側部ヲ以テ顛顛骨岩様部ニ稱ス

小翼或ハ眼窠翼 The lesser or orbital wings 此者ハ蝴蝶隆起ヨリ左右ニ出デ其上
面ハ滑カニシテ前頭蓋窩底ノ後部ヲナシ下面ハ上眼窠裂ヲ境ス前縁ハ眼
骨ノ眼窠部ト結合シ後縁ハ銳縁ヲナシ其内側端ノ蝴蝶隆起ニ移行スル所
後方ニ向ツテ出デタル突起アリ之ヲ前牀狀突起 The anterior clinoid process ト云
而シテ此小翼ガ體ニ連ナル所ニハ視神經孔アリテ視神經及ビ眼動脈ガ此
通過ス。

翼狀突起 The pterygoid processes 此者ハ蝴蝶骨體及ビ大翼ノ根部ノ下ヨリ出
内外ノ二骨板 The internal and external pterygoid plate ヨリナル其内板ハ外板ニ比
レバ長クシテ且ツ先端鉤狀ニ曲ル之レヲ翼狀鉤 Hamular process ト稱シ其上
溝存在シ口蓋帆張筋ヲシテ此内ヲ通ベシム外板ハ内板ヨリモ廣クシテ且短
其端稍々外方ニ曲レリ此内外二板ノ基所ニハ之レヲ前後ニ貫ケル管アリ之

頭蓋骨

根

テ其内部ニ聽官ノ最モ必要ナル部ヲ有シ其外面ノ下端ニ一大孔ヲ有ス之ヲ外
 聽孔 The external auditory porus ト稱シ其内部ハ外聽道 The external auditory meatus ニ
 連ル。此外聽孔及ビ外聽道ヲ界トシテ此骨ヲ鱗狀部、乳嘴部、岩樣部及ビ鼓室部ノ
 四部ニ區別ス

鱗狀部 Pars squamosa 此部ハ此骨ノ外側部ヲ作り後側ハ乳嘴部ニ連リ内側ハ岩樣
 部ニ連レリ。其形狀ハ鱗狀ヲナシ之レニ内外ノ二面ヲ區別スルコトヲ得。先ヅ外
 面ニ就キテ述ブレバ此面ノ下部ニハ一長突起存在ス之レヲ頰骨突起 The zygoma
 ト稱シ頰骨ノ顛顛突起ト合シ頰骨弓ヲ作ル。頰骨突起ノ元ハ上下ノ二脚ニ分レ
 上脚ハ弓狀ヲナシテ曲リ其先キハ顛頂骨ニ存在スル上下ノ二顛顛線ニ連ル下
 脚モ弓狀ヲナシ前方ニ曲リ其先キ、蝸蝶骨大翼ノ外側面ニアル顛顛下窩ニ連
 ル。此二脚ノ間ノ後部ニハ下顎骨ノ髁狀突起ノ入ル陷凹部アリ之レヲ下顎窩
 The mandibular fossa ト稱シ其前部ニハ稍々高クナリタル所アリ之レヲ關節隆起
 或ハ結節 The articular eminence ト稱シ口ヲ開キタル時ハ髁狀突起ノ頭ガ其上ニ
 乗ル。尙其前方ハ稍々平坦ナル所アリテ顛顛下窩ノ上蓋ノ一部分ヲナセリ。其他

此者ニ上下前後ノ四角、或ハ縁上前、上後、下前及ビ下後ノ四面トヲ區別ス。其内
 上上前後ノ二面ハ内方即チ頭蓋腔ノ方ニ向ヒ下前、下後ノ二面ハ外面ニ向ヒ。四
 角ノ中上角ニハ一溝アリ之レヲ上岩様溝 The groove for inferior petrosal sinus ト稱
 シ上岩様竇ヲ入ル、所ニシテ其後端ハS字狀溝ニ連ル。後縁ニモ後頭骨體トノ
 間ニ一溝アリ之レヲ下岩様溝 The groove for superior petrosal sinus ト稱シ下岩様
 ヲ入ル。前後ノ二角ニ就テハ別ニ述ブル所ナシ。

① 四面ノ中チ前上面ハ中頭蓋窩ノ後部ヲ作り其尖端ニ近キ所ニ一ノ陷凹部
 リ之レヲ三叉神經壓痕 Impressio trigemini ト稱シ三叉神經ノ根部及ビ半月狀神
 節或ハガッセル氏神經節ノ乗ル所ナリ。其後外方ニハ二溝殆ンド並行シテ走ル。其
 内側ニアルモノヲ大淺岩様溝 The groove for greater petrosal nerve ト稱シ同名神
 ヲ入ル、所ニシテ其後端骨内ニ入ル孔ヲ顔面神經裂孔 Hiatus canalis facialis
 Ilopi ト稱シ其先キハ顔面神經管ニ連ル。外側ニアルモノヲ小淺岩様溝 The
 ve for lesser petrosal nerve ト稱シ同名神經ノ通スル所ニシテ其後端ノ骨中ニ入
 ル所ヲ鼓室小管上口 A apertura superior canaliculi tympanici ト稱ス。之等ノモノノ後側

頭蓋骨

ニハ弓狀ニ隆起シタル所アリ之レヲ弧形隆起 *Eminentia arcuata* ト稱シ上半規管ニヨリ出來タルモノナリ。此ノ隆起ト鱗狀岩様縫合トノ間ニ骨ノ稍薄キ所アリ。此所ハ鼓室ノ蓋ヲナス所ナルガ故ニ之レヲ鼓室蓋 *Tegmen tympani* ト稱シ甚シキ時ニハ骨ノ缺損シタルコトアリ。此時ニハ容易ニ鼓室内ニアル疾患ハ腦腔ニ傳染ス。上後面ハ後頭蓋窩ノ前部ヲ作り其ノ中央ニ一大孔ヲ有ス之レヲ肉聽道孔 *The internal auditory meatus* ト稱シ其ノ内部ハ内聽道ニ連ル。内聽道ハ顔面神經ノ入ル所ニシテ其底ニ澤山ノ孔ニ依リ貫カレタル薄板アリ之レヲ篩板 *Lamina cribrosa* ト稱ス。此内聽孔ノ後ニハ三物體アリ第一ニハ上縁ニ近キ所ニ裂孔狀ノ陷凹部アリ之ヲ孤下窩 *Fossa ul arcuata* ト稱シ上前面ニアル弧形隆起ノ下ニ入ル所ナリ。其下ニハ尙一ノ裂溝狀ノ陷凹部アリ之レヲ前庭導水管外口 *Articulaxterna aqueductus vestibuli* ト稱シ前庭窟ノ開ク所ナリ。尙此者ノ下ニテ後縁ニ當ル所ニ一陷凹部アリ之レヲ蝸牛殼小管外口 *Apertura externa canaliculi cochleae* ト稱ス。

前下面及ビ後面ノ二面ハ頭蓋底ノ外面ニ向ヒ判然タル境ナク其中央部ニ一

孔存在ス之レヲ頸動脈管外口 *The external orifice of the carotid canal* ト稱シ内頸動脈ノ通ズル所ニシテ此管ハ骨中ニ於テ前方ニ曲リ岩様部ノ尖端ニアル孔即チ頸動脈管内口 *The internal orifice of the carotid canal* ニ開ク。此者ノ前外側ニハ前縁ニ當ル所ニ一管アリ之レヲ筋喇叭管 *Canalis musculotubarius* ト稱シ不完全ナル中隔ニヨリ上下ノ二部ニ分ル其上部ハ鼓膜張筋ノ通スル所ニシテ下部ハ耳喇叭ノ骨部ニ當ル所ナリ。頸動脈管ノ後側ニハ一長突起存在ス之レヲ莖狀突起 *The styloid process* ト稱シ莖狀舌筋、莖狀舌骨筋、莖狀咽頭筋、莖狀下顎韌帶及ビ莖狀舌骨韌帶之レニ附着ス。此ノ莖狀突起ト乳嘴突起トノ間ニ一孔アリ之レヲ莖狀乳嘴孔 *The stylomastoid foramen* ト稱シ顔面神經ノ出ヅル所ナリ。此ノ孔ノ後側ニ於テ乳嘴突起ノ基ニ一截痕アリ之レヲ乳嘴截痕 *The digastric groove* ト稱シ二腹腹ノ後腹ノ出ル所ナリ。此截痕ノ後内側ニハ前ノ者ヨリモ淺キ溝アリ。此者ハ頭動脈ノ通ズル所ナリ。此等ノモノノ後内側ニ於テ岩様部ノ後縁ニ當ル所ニ一大截痕アリ之レヲ頸靜脈截痕 *The jugular notch* ト稱シ後頭骨ニアル同名モノト合シテ頸靜脈孔 *The jugular foramen* ヲ作ル。此ノ截痕ノ一部分ハ著シク陷

頭蓋骨

凹ス此處ヲ頸靜脈窩 The jugular fossa ト稱シ其内ニ内頸靜脈球ヲ容ル。其他此頸靜脈截痕ノ前部ニハ一突起アリ之レヲ頸靜脈内突起 The infrajugular process ト稱シ後頭骨頸靜脈截痕内ニ在ル同名ノモノト相對シテ頸靜脈孔ヲ前後ノ二部ニ分ツ其前部ハ舌咽神經迷走神經及副神經ノ通ズル所ニシテ後部ハ内頸靜脈通ズル所ナリ。頸靜脈截痕ノ前部ニハ三角形ノ陷凹部アリ之レヲ岩様小窩 nula petrosa ト稱シ舌咽神經ノ岩様神經節ノ入ル所ニシテ其上端ニハ一小管開口ス此者ヲ鼓室小管下口 Apertula inferior canaliculi tympanici ト稱ス。

鼓室部 Pars tympanica 此部ハ外聽道及ビ鼓室ノ下壁ヲナス部分ニシテ約四角形ノ骨ヨリ成リ其下面ハ稍陷凹シ上面ハ外聽道ニ向フ側ハ寬狀ヲナシ外聽道ノ前後後ノ三壁ヲナス。此ノ部分ノ外端ノ上面ニハ鼓膜ノ附着スル溝存在スル之レヲ鼓膜溝 The groove for the tympanic membrane ト稱ス。

此ノ顛顛骨ノ内部ニハ乳嘴部及ビ岩様部内ニ空氣ヲ入ルル腔アリ。其岩様部内ニアルモノヲ鼓室 The tympanum ト稱シ聽管ノ重要ナル部分ヲナス(詳細ハ略ス)乳嘴部内ニアル者ヲ乳嘴蜂巢 The mastoid cells ト稱シ通常細管ニヨリ鼓室ニ

連レドモ其上部ニ有ルモノハ直接ニ鼓室ニ連レリ之レヲ鼓室竇 The mastoid antrum ト稱ス。其他此骨中ニハ澤山ノ神經或ハ血管ノ通ズル管アリ此等ノ管ノ主要ナルモノニハ次ノ者アリ。

(1) 顔面神經管 Canalis facialis, Fallopii 此者ハ顔面神經ノ通ズル所ニシテ顔面神經ハ初メニ於テハ聽神經ト共ニ岩様部ノ後上面ニアル内聽孔ヲ通ジ内聽道ニ入り其底ニ至レバ其處ニアル篩板ニ存在スル孔ヲ通ジテ顔面神經管内ニ達ス。顔面神經管ハ此孔ニ始マリ殆ンド直角ニ後外方ニ曲リタル後ニ鼓室ノ上後壁ニ弓狀ヲナシテ曲リ其下端ハ莖狀乳嘴孔ニ開ク。此顔面神經管ヨリハ二枝ヲ出ス其一枝ハ顔面神經管ノ初メノ曲リタル所即チ顔面神經管 Genus canalis facialis ノ前側ヨリ出デ骨質ヲ貫キツツ前方ニ走り其先キ岩様部ノ前上面ニ存在スル大淺岩様神經溝ニ連ル此處ハ大淺岩様神經ノ通ズル所ナリ。第二枝ハ顔面神經管ノ將サニ莖狀乳嘴孔ニ開カントスル所ニ其前側ヨリ出デ鼓室ニ至リ次ニ鼓室内ヲ通ジテ前方ニ走り遂ニハ鼓室部ノ岩様部トノ間ニ存在スル岩様鼓室裂孔或ハグレーセル氏裂孔 The petrosus

頭蓋骨

nic or Glaserian fissure ヲ通シテ頭蓋底ニ出ヅ此管ヲ鼓索神經小管 Canaliculus tympanicus ト稱シ鼓索神經ノ通ズル所ナリ。

(2) 鼓室小管 Canaliculus tympanicus 此管ハ岩様部ノ下面ニ存在スル岩様小窩ノ上端ヨリ出テ鼓室内ニ入り次ニ鼓室壁ニ存在スル溝或ハ管ヲ通シテ其上壁ニ達シ次ニハ鼓室ノ上壁ヲ貫キテ岩様部ノ前上面ニ存在スル鼓室小管上口ヲ通リテ其先キハ小淺岩様神經溝ニ連ル。此所ハ鼓室神經及ビ其續キナル小淺岩様神經ガ通過スル所ナリ。

(3) 頸動脈管 Canalis caroticus 此者ハ内頸動脈ノ通ズル所ニシテ岩様部ノ下面ニアル頸動脈管外口ヨリ始リ岩様部内ヲ通り其先キハ岩様部ノ尖端ニ存在スル頸動脈管内口ヨリ出テ蝸蝶骨體ノ兩側ニ存在スル頸動脈溝ニ連ル。

(4) 乳嘴小管 Canaliculus mastoideus 此者ハ頸靜脈窩内ニ存在スル乳嘴孔ニ始マリ次ニ乳嘴小管トナリテ顔面神經管ノ將ニ莖狀乳嘴孔ニ出デントスル所ノ横骨質ヲ貫キツツ走リ其先キハ鼓室部ト乳嘴部トノ間ニ在ル鼓室乳嘴縫合 The tympanomastoid fissure ニ開ク此處ハ迷走神經ノ枝ナル耳殼枝カ通ズ

△0

ル所ナリ。

顱頂骨 The parietal

此骨ハ顱頂部ノ兩側ニ位スル扁平四角形ノ骨ニシテ之レニ上下前後ノ四縁及ビ内外ノ二面ヲ區別ス上縁ハ兩側ノモノ正中線ニ於テ互ニ結合ス前縁ハ前頭骨或ハ額骨ト結シ後側ハ後頭骨ノ鱗狀部ト結合シ下縁ハ前中後ノ三部ニ分レ前部ハ蝸蝶骨大翼ノ上端ト結合シ中央部ハ顱顱骨ノ鱗狀部後部ハ乳嘴部ト結合ス外面ハ一般ニ凸面ヲ呈シ其中央部ハ殊ニ隆起ス此ノ部分ヲ顱頂隆起 The parietal eminence ト稱シ其下部ニハ殆ド平行シタル二線アリ之レヲ上顱顱線及ビ下顱顱線 The superior and inferior temporal ridge ト稱シ前者ハ顱顱筋膜後者ハ顱顱筋ノ附着スル所ナリ其他此面ノ上縁ニ近キ所ニハ一二ノ孔存在スルコトアリ此者ヲ顱頂孔 The parietal foramen ト稱シ顱頂導血管ノ通過スル所ナリ内面ハ一般ニ陷凹シ殊ニ外面ニアル顱頂隆起ニ對スル所ハ著シク陷凹ス其他此面ニハ一般ニ腦髓ノ表面ニヨリテ出來タル指狀壓痕腦隆起及ビ血管ニヨリテ出來タル硬腦膜動脈溝表ハレ殊ニ動脈溝ハ著シ又此ノ骨ノ上縁ニ近キ所及ビ後

頭蓋骨

頭蓋骨

下角ニ近キ所ニハ溝存在ス其上縁ニアルモノヲ矢狀溝 The sagittal groove
シ兩側ノモノノ合シタル時ハ著シク現ハル此所ハ矢狀竇ヲ入ルル所トシテ下
角ニ存在スルモノハ横溝ノ一部分ナリ。

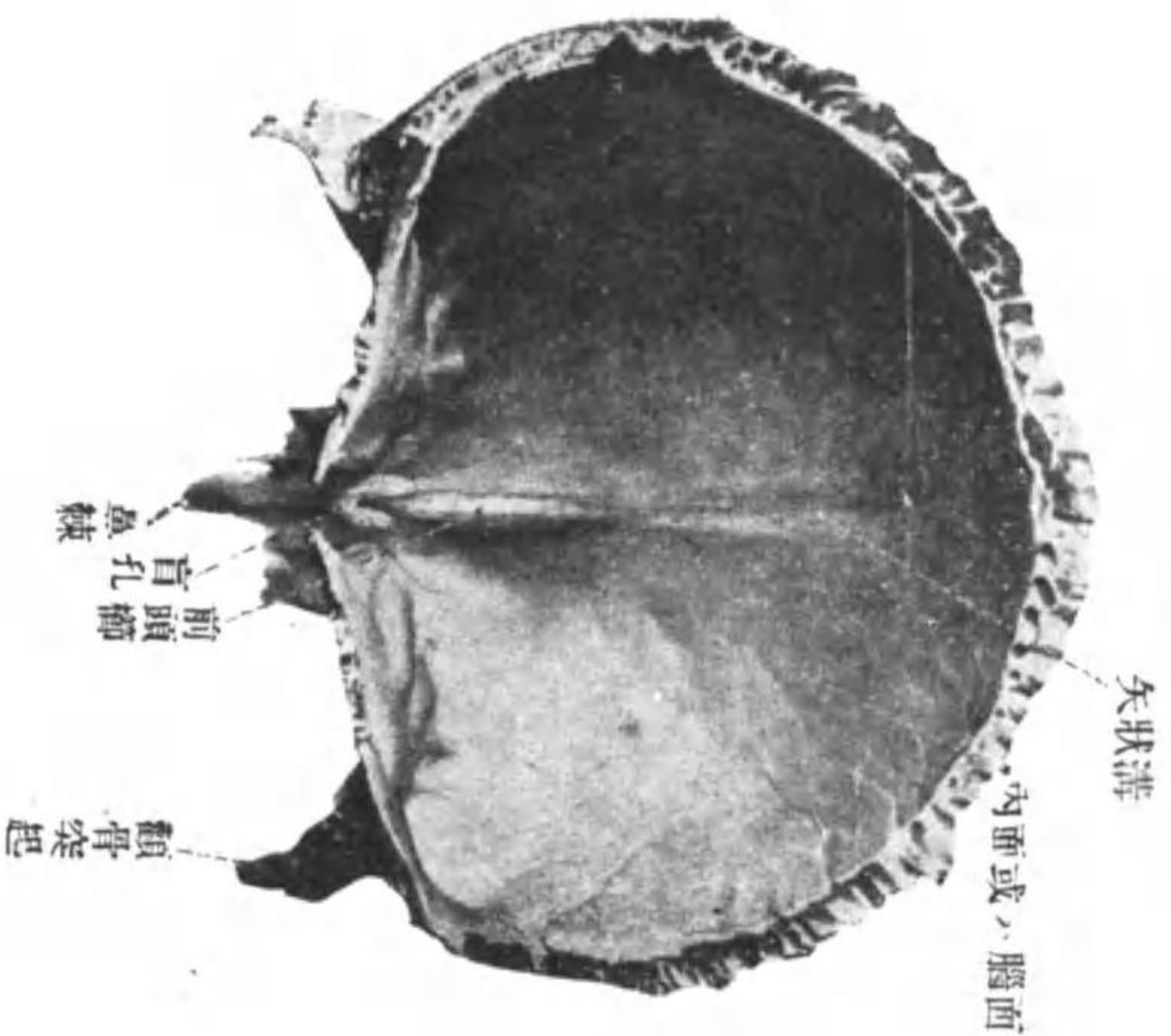
前頭骨或ハ額骨 The frontal

此骨ハ頭蓋ノ前頭部ヲ作ル骨ニシテ前頭鱗或ハ鱗狀部眼窩部及ヒ鼻部ノ
三部ヲ區別ス。

前頭鱗 Squama frontalis 或ハ鱗狀部 Pars squamosa 此部分ハ前頭部ヲ作り其前頭
面ハ額ノ兩側ニ當リ各一隆起ヲ示ス之レヲ前頭隆起 The frontal eminence ト云フ。
其下側ニハ弓狀ノ隆起アリ之レヲ眉弓 The superciliary ridge ト稱シ眉ノアル所ニ
シテ兩側ノ眉弓ノ間ハ稍平坦ナリ此所ヲ眉間 The glabella ト稱ス其下部ハ眼窩
ノ上縁ヲナス之レヲ上眼窩縁 The supraorbital ridge ト稱シ内側ヨリ外側ニ至
ルニ從ヒ漸次ニ鋭クナリ其外端ハ額骨ニ向ツテ突出ス故ニ此部分ヲ額骨突起
The zygomatic process (or the external angular process) ト稱ス額骨突起ノ後縁ハ著シク
突出ス此所ヲ顙額櫛 The temporal ridge ト稱シ顙額線ノ初メニシテ其先キハ顙頂

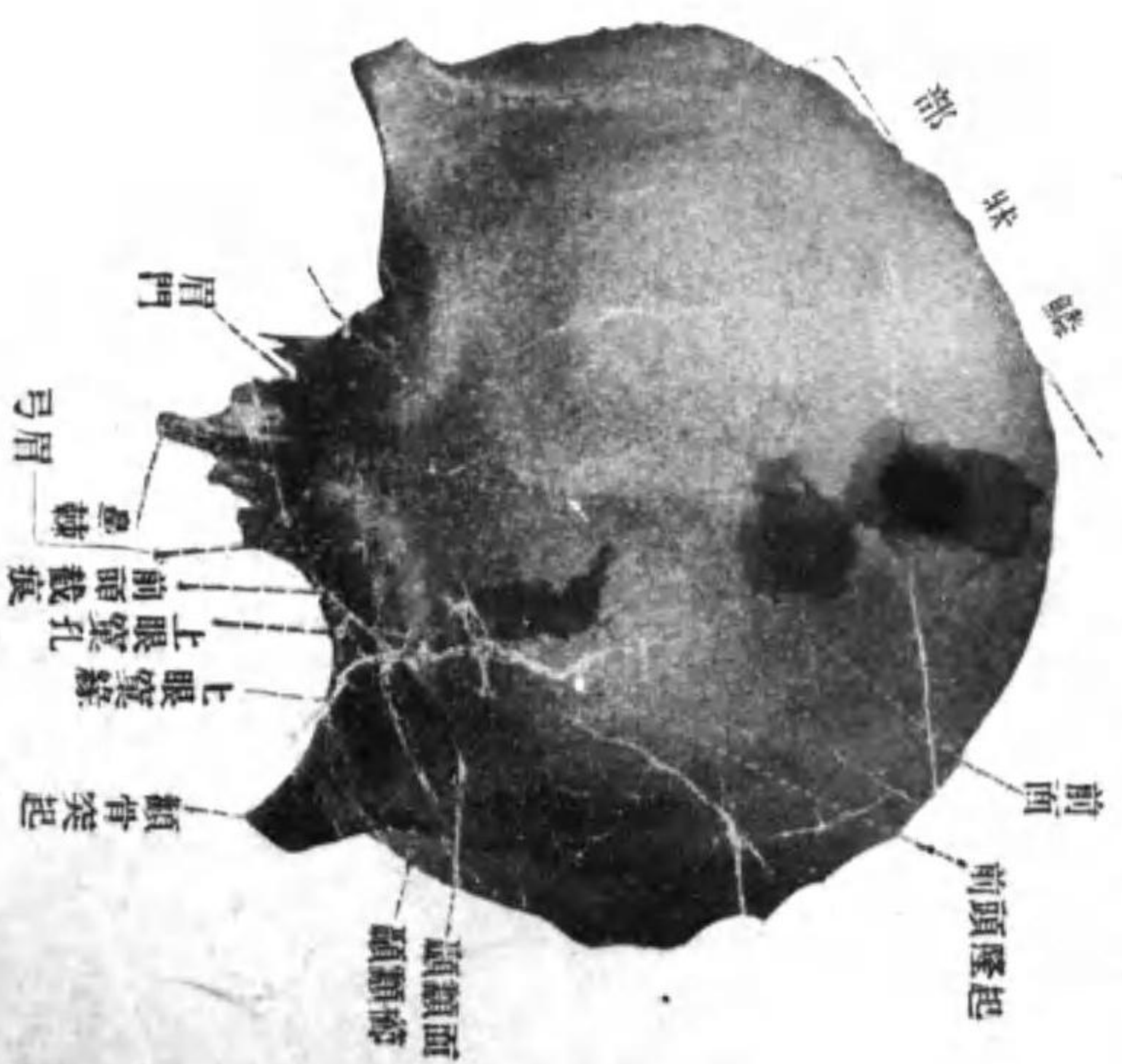
第十圖

前頭骨内面



第十一圖 (By Spalteholz)

前頭骨外面



骨ニアル上及び下顛顛線ニ連ル。此顛顛櫛ヨリ下ニアル部分ハ顛顛窩壁ノ一ツヲナス。其他上眼窠縁ノ内側ニハ一截痕或ハ孔アリ之ニ前頭截痕或ハ孔即チ腦髓ニ向ヒタル面ハ腦ノ表面ニ一致シテ出來タル指狀壓痕及び腦隆起ノニ正中線ニ一櫛ヲ示ス之レヲ前頭櫛 The frontal ridge ト稱シ其下端ハ左右ノ部ニ分レ筋骨篩板ニアル鷄冠トノ間ニ一孔ヲ挾ム之レヲ盲孔 Foramen cecum ト稱シ其先キハ閉塞サル。又前頭櫛ノ上部ノ上ニハ溝存在ス此者ハ矢狀溝ノ前端ナリ。

眼窠部 Partes orbitales 此部ハ眼窠ノ上壁ヲナス部分ニシテ鼻部兩側ニ存在シ其眼窠ニ向ヒタル面ハ一般ニ陥凹シ殊ニ外側部ノ額骨突起ニ近キ所ハ深ク陥凹ス此所ヲ淚腺窩 The lacrymal fossa ト稱シ淚腺ヲ入ルル所ナリ内側部ニ於テ前頭截痕ノ稍内側ニ當ル所ニ一小陥凹部アリ之レヲ滑車窩 The trochlear fossa ト稱シ滑車ノ附着スル所ニシテ其後側或ハ外側ニハ棘狀ノ突起アルコトアリ其外此ノ眼窠部ノ下縁カ篩骨紙樣板ト結合スル所ニハ二截痕アリテ篩骨紙樣板

頭蓋骨



頭蓋骨

ノ同様ノ者ト合シテ孔ヲ作ル之ヲ前篩骨孔及ビ後篩骨孔 The anterior and posterior or ethmoidal foramina ト稱シ同名神經及ビ同名動靜脈ノ通ズル所ナリ上面即チ腦髓ニ向ツタル面ハ稍隆起シ指狀壓痕及ビ腦隆起ヲ殊ニ著シク現セリ。

鼻部 Pars nasalis 此部ハ兩側ノ眼窠部ノ間ニ存在スル馬蹄形ノ部分ニシテ其中央部ニ截痕アリ之レヲ篩骨截痕 The ethmoidal notch ト稱シ篩骨篩板ガ箱入スル所ナリ此者ノ兩側ニハ篩骨蜂窠ニヨリ出來タル澤山ノ陷凸部アリ前端ニハ突起アリテ下方ニ突出ス之レヲ鼻棘 The nasal spine ト稱シ其前面ニハ鼻骨ガ附着シ兩側ニハ上顎骨ノ前頭突起ガ附着ス此者ノ後外部ヨリハ深ク骨中ニ陷凹シタル部分アリ此者ヲ前頭竇 The frontal sinuses ト稱シ左右ニ一箇宛存在シ薄キ骨板ニヨリ隔テラル然シテ此骨板或ハ中隔ハ正中線ニ位セズシテ一方ニ偏シタルコト多キガ故ニ左右ノ前頭竇ハ必ズシモ同大ナラズ

篩骨 The ethmoid

此者ハ鼻骨格ノ主要部ヲ作ルモノニシテ之レニ篩板篩骨板及ビ外側部或ハ篩骨回廊ノ三部ヲ區別ス。

圖 五 十 第

(圖型模半) 面後ノ骨篩

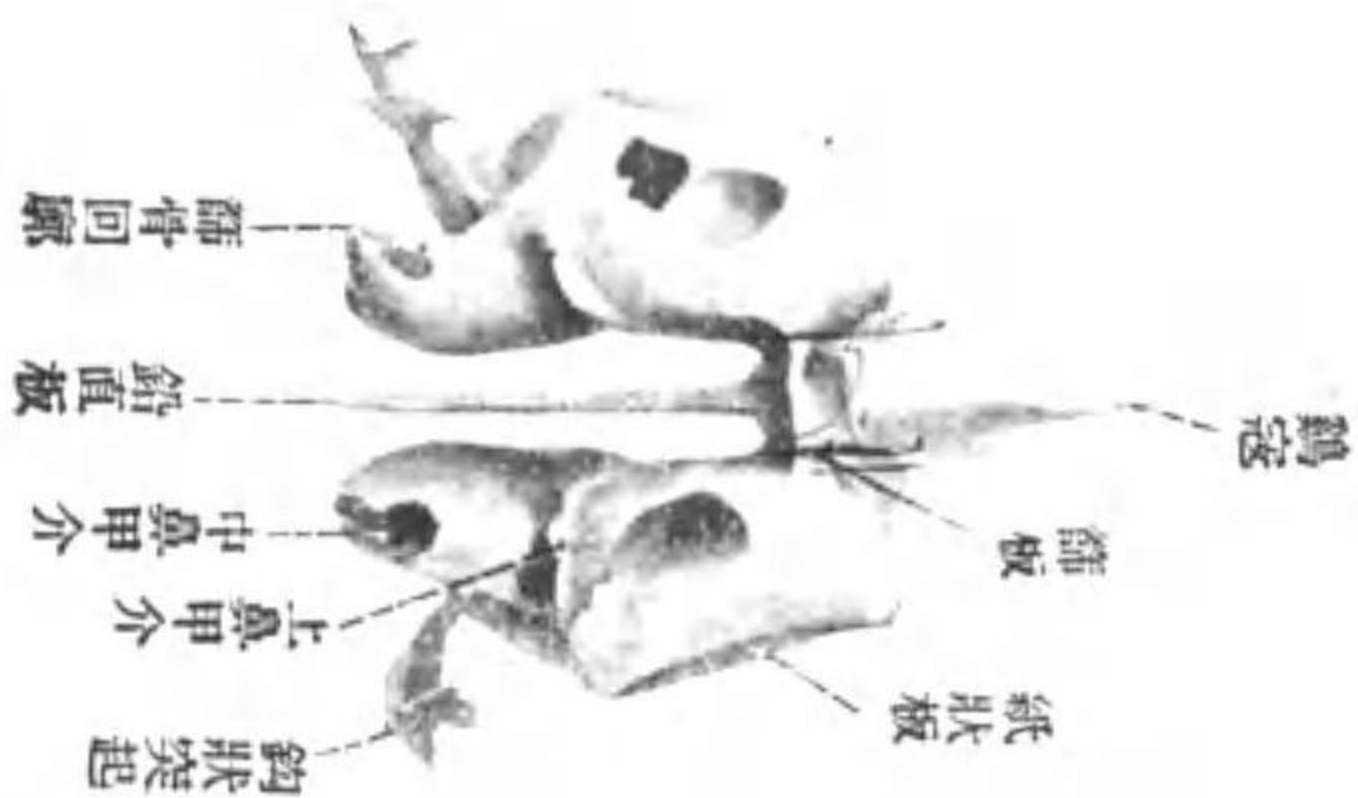
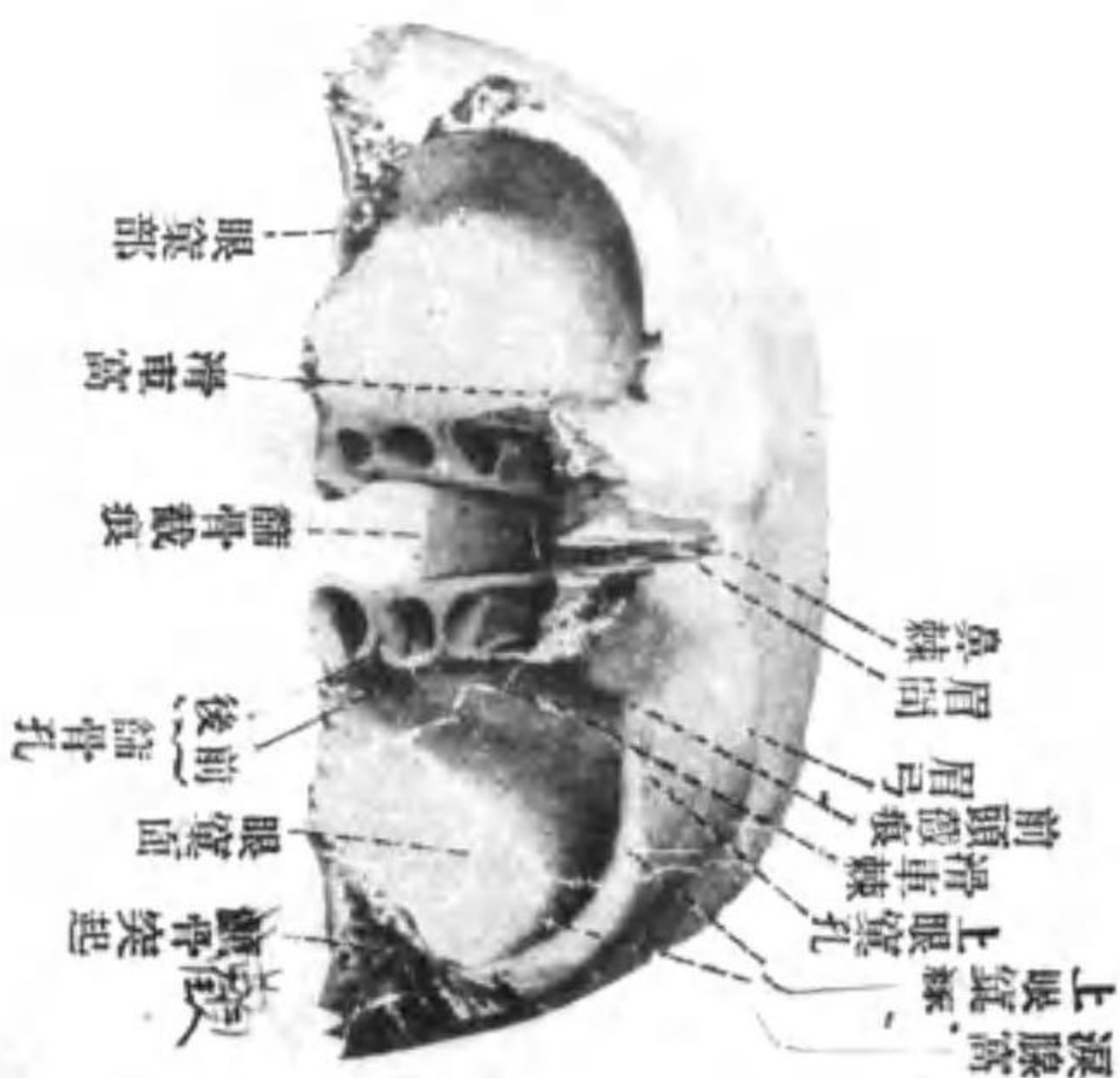


圖 四 十 第

(By Spalteholz, 面下ノ骨頭前)



篩板^⑤ The cribriform plate 此者ハ兩側ノ外側部ヲ互ニ結合スル薄キ骨板ニシテ
 鼻腔ノ上蓋ヲナシ前頭骨ノ鼻部ニアル篩骨截痕ニ箱入シ其上面ハ頭蓋腔ニ面
 ス此篩板ニハ澤山ノ孔ガ存在シ嗅神經ノ纖維ヲシテ其中ヲ通ゼシム
 此部ノ上面ノ正中線ニハ一大凸起アリ之ヲ鷄冠 Crista galli ト稱シ其前端ハ
 左右ノ二部ニ分レ前頭骨ノ鱗狀部ノ内面ニアル前頭櫛ト下端トノ間ニ盲孔ヲ
 挾ム。

鉛直板^⑥ The perpendicular plate 此者ハ兩側ノ鼻腔ノ中隔ヲナス扁平骨ニシテ其
 前縁ハ前頭骨ノ鼻棘及ビ鼻骨ニ接シ下縁ハ軟骨性鼻中隔ニ連リ後下側ハ鋤骨
 後上側ハ蝶形骨體ノ前面ニ連レリ此骨ノ兩面ニハ上部ニ澤山ノ微細ナル溝或
 ハ管アリ此者ハ嗅神經ノ纖維ノ通ズル所ナリ。

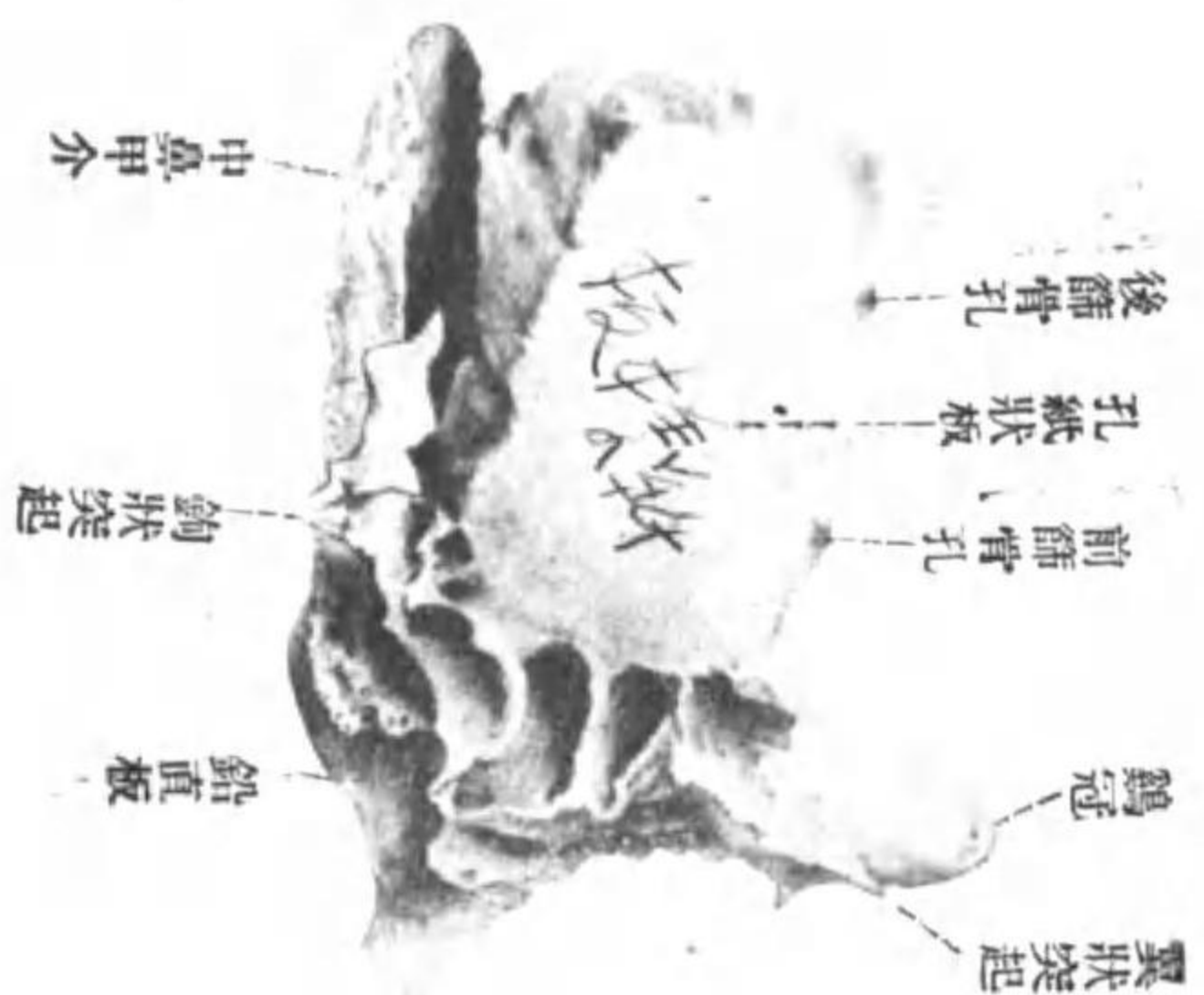
篩骨回廊^⑦ 或ハ外側部^⑧ The labyrinth or lateral mass
 此者ハ鼻腔ノ兩側壁ヲナス所ニシテ其内ニハ澤山ノ空氣ヲ入ルル腔ヲ有ス
 此腔ヲ篩骨蜂窠 The ethmoidal cells ト稱シ甚ダ薄キ骨板ニヨリ互ニ隔テラル此部
 ノ外面ハ眼窠ニ面シ紙ノ如キ薄キ骨板ニヨリテ被ハル此レヲ紙樣板 Lamina papy-

頭蓋骨

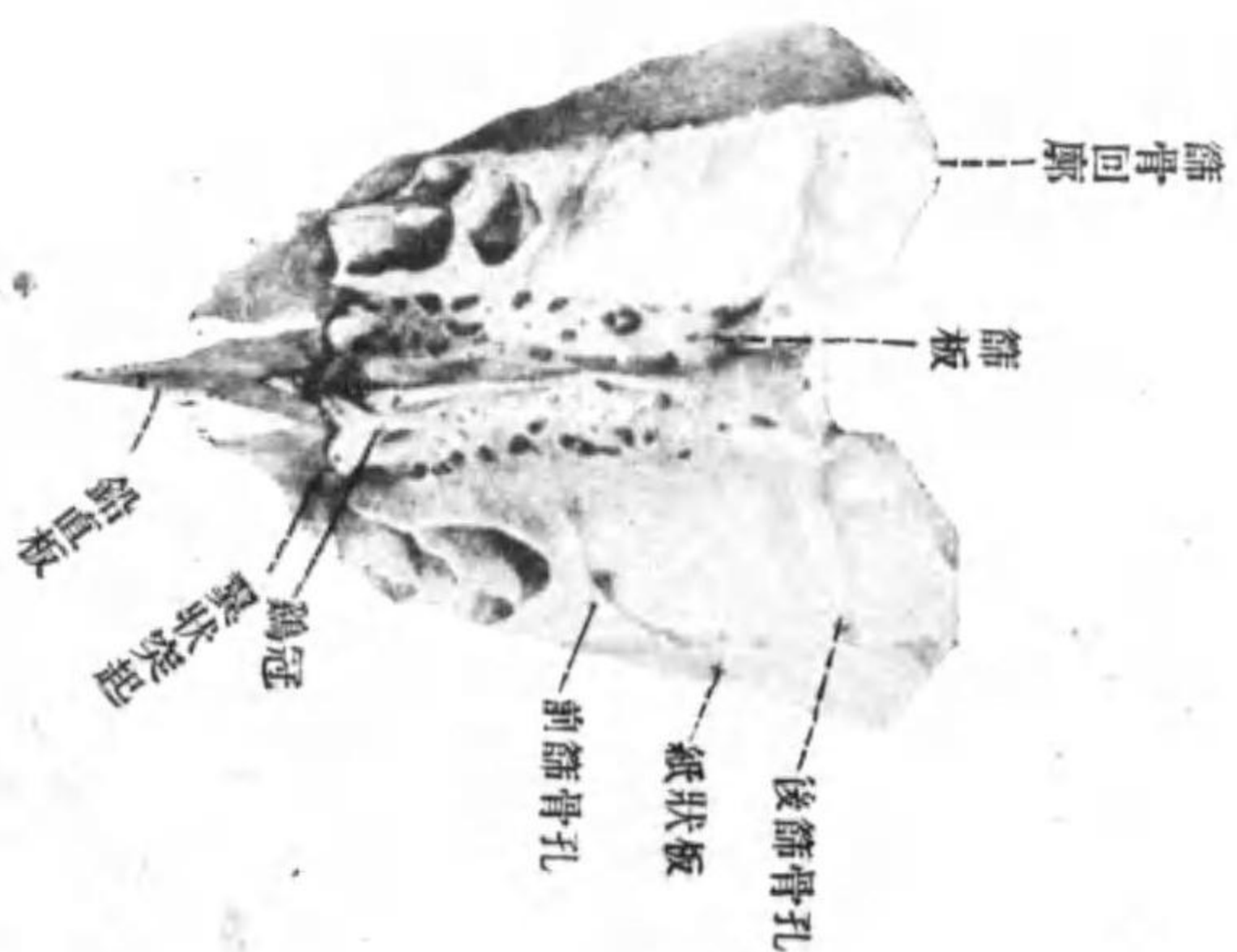
pyraea or of planum ト稱シ其上縁ノ前頭骨眼窠部ト結合スル所ハ前後ノ二孔ヲ有ス之レヲ前篩骨孔及ビ後篩骨孔ト稱ス。内側面ハ一般ニ粗ニシテ一ノ陷凹部ニ依リ上下ノ二部ニ分タル其上部ヲ上鼻甲介 The superior turbinal 下部ヲ中鼻甲介 The middle turbinal ト稱シ此ノ二部ヲ界スル陷凹部ヲ上鼻道 The superior meatus ト稱ス。中鼻甲介ノ下ハ甚シク陷凹ス此所ヲ中鼻道 The middle meatus ト稱ス。其他上鼻甲介ノ後部ハ屢一陷凹ニ依リテ更ニ上下ノ二部ニ分ルルコトアリ此時ニハ此陷凹部ヲ最上鼻道 The supreme meatus ト稱シ其レヨリモ上部ニアル部分ヲ最上鼻甲介 The supreme turbinal ト稱ス。又篩骨回廊ノ上端ヨリハ後方ニ向ツテ一突起ヲ出ス之レヲ鉤狀突起 The unciform process ト稱シ下鼻甲介骨ト結合シテ上竇ノ入口ノ一部分ヲ閉ヅ。

篩骨内ニアル篩骨蜂窠ハ外側ヨリ見ル時ハ紙様板ガ小ナルガ故ニ全部之レニヨリテ被ハレズシテ其周圍部ニ在ルモノハ周圍ニアル骨ニ向ツテ膨出シ他ノ骨ニヨリテ被ハル。故ニ篩骨蜂窠ノ周圍部ニアルモノヲ其被ハレタル骨ニヨリ前頭蜂窠、淚骨蜂窠、上顎蜂窠、口蓋蜂窠及ヒ蝴蝶蜂窠ト稱ス。

第十圖 第七圖 篩骨外側面



第十圖 第六圖 篩骨上面



(By Spalteholz)

鼻骨 The Nasal

此骨ハ鼻背ヲ作ル骨ニシテ不正ナル四角形ヲナシ其上端ハ狭ケレドモ厚クシテ前頭骨鼻部ノ前端ニ附着シ外側部ハ上顎骨ノ前頭突起ニ附着シ内側ハ兩側ノモノ相接シ下端ハ薄クナリテ梨子狀孔ヲ上方ヨリ界ス。此骨ニハ内面ニ一二ノ縱溝アリ此者ハ前鼻神經ニヨリテ出來タルモノニシテ其他一二ノ小孔アリ此者ハ鼻骨ノ内外兩側ニアル血管ガ互ニ結合スル所ナリ。

涙骨 The Lacrimal

此骨ハ眼窠内壁ノ前部ヲナス小骨ニシテ上顎骨前頭骨及ビ篩骨ノ紙狀板ノ間ニ位シ其前部ニ一ノ陷凹部ヲ有ス之レヲ涙溝 The Lacrimal Sulcus ト稱シ上顎骨ノ前頭突起ニアル同名ノモノト合シテ涙囊窩 The Lacrimal fossa ヲ涙囊ヲ容ルル所ナリ。此涙溝ノ後縁ヲ後淚槽ト稱シ其下端ハ鉤狀ヲニ曲レリ此所ヲ涙骨鉤 The Lacrimal hamulus ト稱シ他ノ骨ト合シタル壁ノ一部分ヲ作ル。以上ハ外面ニシテ内面ハ篩骨蜂巢ニヨリテ出來タルナル陷凹部存在ス。

鋤骨 The Vomer

頭蓋骨

頭蓋骨

此者ハ鼻中隔ノ後部ヲナス扁平骨ニシテ其前縁ハ斜メニ前下方ニ走リ
 ヲ以テ篩骨ノ鉛直板ト結合シ下部ヲ以テ鼻中隔ノ軟骨部ト結合ス。上縁ハ
 ノ二部ニ分レ蝴蝶骨體ト結合シ其間ニ蝴蝶骨嘴ヲ狭ム此部分ヲ鋤骨翼
 vomeris ト名ク。後縁ハ比較的厚クシテ殆ンド鉛直ニ立テ兩側ノ後鼻孔ヲ界ス。ア
 縁ハ鼻樑ト結合ス此骨ノ左右兩面ハ殆ンド滑カニシテ極メテ微細ナル神經ノ
 通ズル一二ノ溝ヲ示スノミ。

甲介骨 The inferior turbinal

此者ハ鼻腔ノ側壁ニ附着シ下鼻道ヲ上方ヨリ界ス。其形ハ中鼻甲介ト同一ニ
 シテ其上面ハ鼻腔ノ上壁ノ方ニ向ヒ下面ハ下鼻道ニ向フ。此者ニ體ト三個ノ突
 起トヲ區別ス。體ハ其上縁ノ前後兩端ヲ以テ上顎骨及ピ口蓋骨ノ甲介樑ト結合
 ス。三個ノ突起ハ共ニ上縁ヨリ出デ其前後ニアルモノハ上方ニ出ヅレドモ中央
 ニアルモノハ下方ニ曲レリ。其最モ前方ニアルモノヲ淚骨突起 The lacrymal pro-
 cess ト名ケ他ノ骨ト結合シ鼻淚管ノ内壁ノ一部分ヲナス。中央ニアリテ下方ニ
 向テ出ヅルモノヲ上顎突起 The maxillary process ト名ケ上顎竇ノ入口ノ一部分ヲ

上面(眼窩)
 下面(鼻面)
 後面(顛面)
 前面(上縁)

閉ヅ。最モ後方ニ在リテ上方ニ出ヅル者ヲ篩骨突起 The ethmoidal process ト名ケ篩
 骨ノ鈎狀突起ト結合ス。

上顎骨 The maxilla

此骨ハ顔面ノ主要部ヲ爲ス者ニシテ體前頭突起、額骨突起、齒槽突起及ピ口蓋
 突起ノ五部ヲ區別ス。

① The body. 此部ハ半圓柱形ヲ爲シ其凸面側ハ外方ニ向ヒ内部ニ上顎竇或ハ
 ハイモル氏竇 Sinus s. antrum maxillaris, Highmor, ト稱スル一大腔ヲ有ス。此部ニ外面
 後面或ハ顛面、下面、上面或ハ眼窩面及ピ内面或ハ鼻面ノ四面ヲ區別ス。

② 前面ハ其上縁ノ眼窩面ニ連ル所ヲ下眼窩緣 Margo infraorbitalis ト稱シ其ノ少シ
 下方ニ一大孔アリ此者ヲ下眼窩孔 The infraorbital foramen ト名ケ下眼窩管ノ出口ニ
 シテ神經及ピ血管ガ此所ヲ通ジテ顔面ニ出ヅ。此者ヨリ稍下方ニ陥凹シタル所
 アリ此所ヲ犬齒窩 The canine fossa ト名ケ犬齒筋ノ出ヅル所ナリ此等ノモノヨリ
 前方ニハ一大截痕アリ之ヲ鼻截痕 The nasal notch ト名ケ梨子狀孔ノ外下壁ヲナス。
 ③ 顛面。下面ハ顛面下窩ノ前壁ニシテ一般ニ凸面ヲ呈ス故ニ之レヲ上顎隆起

頭蓋骨

リ小骨板突出ス此者ハ涙骨月影 *Lamella lacrimalis* ト名ケ他ノ骨ト結合シタル時
 ニハ鼻涙管壁ノ一部分ヲナス。後側ハ比較的滑ニシテ口蓋骨ノ鉛直板ト結合ス
 ル所ヲ爲シ一ノ溝ヲ有ス此者ハ翼狀口蓋溝 *The pterygo-palatinal groove* ト名ケ口
 蓋骨及ビ翼狀突起ニアル同名ノモノト合シテ翼狀口蓋管 *The pterygo-palatinal*
canal トナル此管ハ翼狀口蓋窩ヨリ出ヅル血管及ビ神經殊ニ口蓋神經及ビ下行
 口蓋動靜脈ノ通ズル所ナリ。

前頭突起 *The frontal process* 此者ハ體ノ前上側ヨリ前頭骨ノ鼻部ニ向ツテ出タ
 ル突起ニシテ其上端ハ前頭骨ノ鼻部ノ前部ニ附着シ前側ハ鼻骨ト結合シ後側
 ハ涙骨ト結合ス之ニ内外ノ二面ヲ區別ス其外面即チ顔面ニ向ツタル方ニハ後
 縁ニ近キ所ニ一溝アリ之レヲ涙溝 *The lacrimal groove* ト名ケ涙骨ニアル同名ノモ
 ノト合シテ涙囊窩 *The fossa for lacrimal sac* ヲ作ル此ノ涙囊ノ前側ニハ一櫛ア
 リ之レヲ前涙櫛 *The anterior lacrimal ridge* ト名ク内面ハ二ツノ前後ニ走レル線
 アリ其上方ニアルモノヲ篩骨櫛 *The ethmoidal ridge* 或ハ中甲介櫛 *the ridge for*
middle turbinat ト名ク篩骨ノ中鼻甲介ノ前端ト結合スル所ナリ其下方ニアルモノ

頭蓋骨

ヲ甲介櫛 The ridge for inferior turbinal ト名ケ下甲介骨ノ前端ガ附着スル所ナリ。
 額骨突起 The malar process。此者ハ額骨ノ方ニ向ツテ出タル突起ニシテ其面ハ
 約三角形ノ粗面ヲナシ額骨ノ上顎突起ト結合ス此突起ノ下縁ハ櫛狀ニ下方ニ
 向ツテ隆起シ體ノ前面ト顛顚下面トノ界ヲナス。

齒槽突起 The alveolar process。此者ハ體ノ外側部ノ下端ヨリ出タル突起ニシテ
 弓狀ヲナシテ曲リ其下縁ニハ齒根ヲ入ルル陷凹部ヲ有ス之ヲ齒槽 The Alveoles ト
 稱シ其數ハ時期ニヨリ異リ齒ヲ完全ニ備ヘタル大人ニテハ八個アリテ犬齒ニ
 屬シタル者ガ最モ深ク大白齒ニ屬シタル者ガ最モ廣シ。此齒槽ハ薄キ骨板ニヨ
 リ互ニ距テラル此骨板ヲ齒槽中隔 Septum alveolare ト名ク。齒槽ノ存在スル所ヲ
 外面ヨリ見レバ多小隆起ス此者ヲ齒槽隆起 The alveolar eminence ト稱シ犬齒ニ
 屬シタル者ガ尤モ著シク其次ニ著シキハ門齒ニ屬シタル者ナリ而シテ門齒ニ
 屬シタル隆起ノ上方ニハ稍陷凹セル所アリ之ヲ門齒窩 The incisive fossa ト稱シ
 上唇門齒筋ノ起ル所ナリ。此齒槽突起ノ中門齒ヲ有スル部ハ發生學上ヨリ見
 レバ獨立ノ骨ヲナス此骨ヲ門齒骨(顎間骨) The incisive bone or praemaxillary トモ稱

頭蓋骨

シ此ノ部分ガ他ノ部分ト結合スル所ニハ若キ人ノ骨ニ於テハ縫合存在ス此者
 ヲ門齒縫合 The incisive suture 或ハ上顎々門縫合 The maxillo-praemaxillary suture ト
 名ケ通常門齒ト犬齒トノ間ヲ通ジテ横走ス此者ハ老ヒタル人ニハ不明瞭ナル
 コト多シ又兩側ノ門齒縫合ト正中口蓋縫合ト交叉シタル所ニハ下面ヨリ見ル
 時ニハ一ノ孔存在ス之レヲ門齒孔 The incisive foramen ト名ケ門齒管 The incisive canals
 或ハステノン氏管 The stenson's canal ノ下口ナリ。凡ソ門齒管ニハ鼻腔面ヨリ見ル
 時ニハ左右ノ二個アリテ各鼻中隔ノ外側ニ存在シ此骨ヲ貫ク間ニ漸々ニ合シ
 テ蹙ニハ一孔トナリ口蓋ニ開ク此ノ口ハ即チ門齒孔ナリ門齒管ハ人間ニ於テ
 ハ柔軟組織ニヨリ滿サレ其内ヲ神經及ビ血管ガ通過ス。

口蓋突起 The palatine process。此者ハ齒槽突起ト體トノ間ヨリ水平ニ内方ニ向
 ツテ出タルモノニシテ骨ノ薄板ヨリナリ正中線ニ於テ兩側ノモノガ合ス此
 合シタル所ハ口腔ノ方ニ於テハ縫合ヲナス故ニ之ヲ正中口蓋縫合 The naso-pa-
 latine suture ト稱ス鼻腔ノ方ニ於テハ櫛ヲナス之レヲ鼻櫛 The nasal crest ト稱シ
 其門齒骨ニ屬シタル部分ハ殊ニ高クナレリ此所ヲ門齒櫛 The incisive crest ト稱

頭蓋骨

シ其前端ハ突出ス此者ヲ前鼻棘 The anterior nasal spine ト名ク。又此部分ノ後縁ハ口蓋骨ノ水平部ノ前縁ト合シ一ノ縫合ヲ作ル之レヲ口蓋横縫合 The transverse palatine suture ト名ク。其他其部分ノ鼻腔ニ向ヒタル面ハ一般ニ滑カニシテ平カナレトモ口腔ニ向ヒタル方ハ粗ニシテ稍陷凹シ兩側ノ口蓋突起ガ合シタル時ハ著シク成レリ之ヲ口蓋窩 The palatine fossa ト云ヒ其外側部ノ齒槽突起ニ近キ所ニハ前口蓋神經及ビ大口蓋動脈ノ通ズル微細ナル溝或ハ管アリ。

上顎竇 Sinusmaxillaris

或ハハイモリー氏竇 Anterum Highmori。此者ハ上述ノ如ク上顎骨體內ニ在リテ空氣ヲ以テ充サレタル腔ニシテ其形狀ハ稍錐體狀ヲ爲シ錐體ノ底ハ鼻腔ノ方ニ向ヒ頂ハ頰骨突起ノ方ニ向ヘリ。此者ニ上下内外ノ四壁ヲ區別ス。上壁ハ下眼窠底ヲ爲ス骨板下壁ハ口蓋突起ヲ爲ス骨板外壁ハ前面及ヒ頰顛下窩ニ向フ骨板内壁ハ鼻腔ニ向フ骨板ヨリ成ル。内壁ノ後部ニハ此者ノ入口即チ上顎竇裂孔ヲ有ス此裂孔ハ不規則ナル形狀ヲ爲シ他ノ骨ト結合シタル時ニハ口蓋骨ノ鉛直板篩骨ノ鉤狀突起及ビ下鼻甲介

圖 一 十二 第

(by Spalteholz) 面内ノ骨蓋口

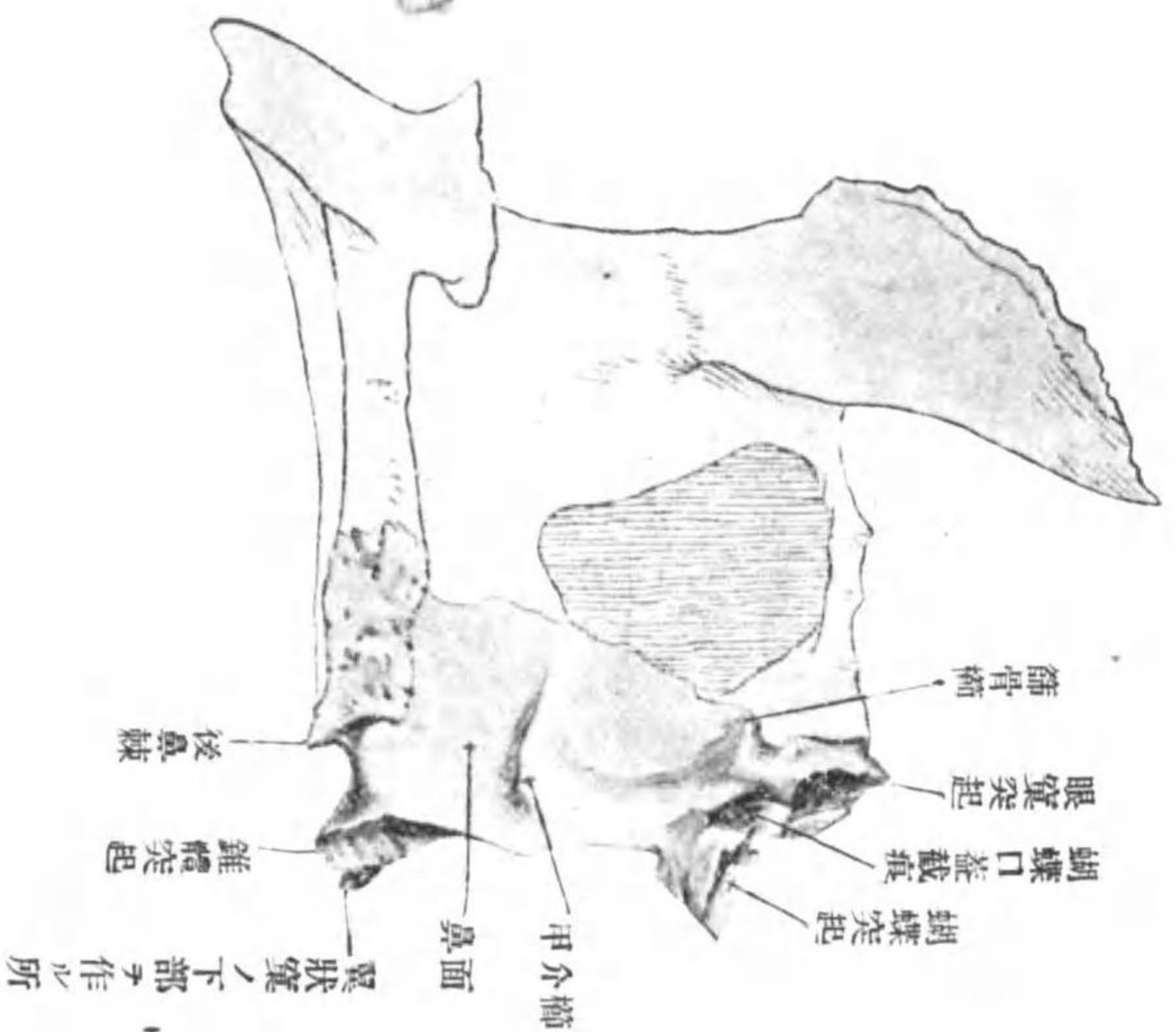
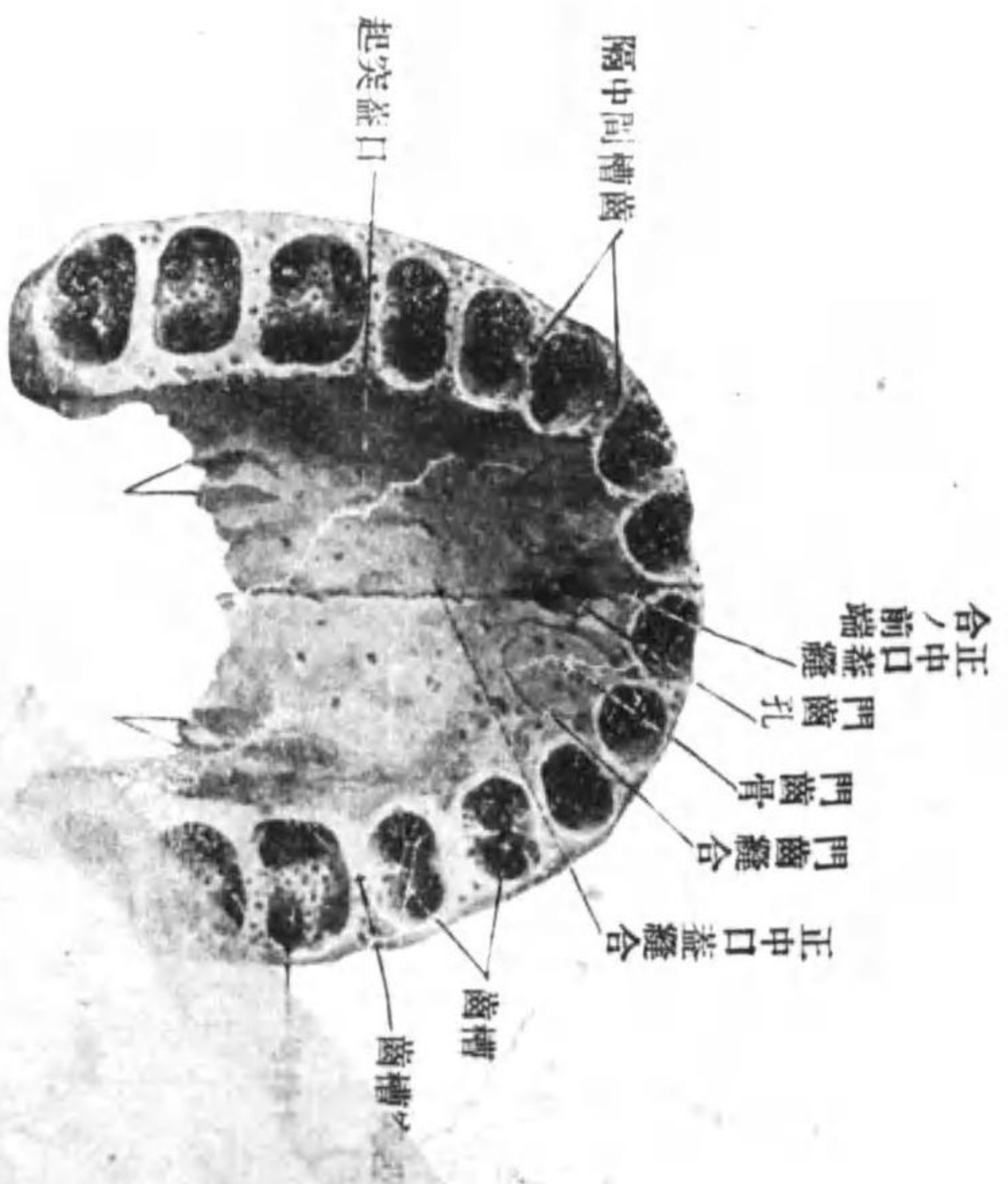


圖 一 十二 第

(by Spalteholz) 面下ノ骨顎上



骨ノ上顎突起及ビ篩骨突起ニ依リ一部分閉塞セララルガ故ニ著シク小トナル。而シテ此等ノ諸骨ガ附着シタル時ニ於テモ上顎竇裂孔ハ尙甚ダ不規則ナル形狀ヲ有シ粘膜ガ之ヲ被フニ至ツテ初メテ圓形ノ孔ヲ爲スニ至ル。

上顎竇ノ形狀ハ上述ノ如キモ其大サハ年齡ニ依リ著シキ差異有ル者ニシテ若キ時ニ於テハ小ニシテ其壁ガ厚キモ成長スルニ隨ヒ其壁ヲシテ薄ク成ラシムルト同時ニ竇自身ハ漸々ニ大キク成リ老人ニ至レバ甚シク大ト成リ甚シキ時ニハ顚骨中ニ迄侵入スルコトアリ。

又上顎竇ノ底ヲ見ル時ハ通常甚ダ平坦ニシテ大白齒ノ根ニ依リ生ジタル隆起ヲ有ス而シテ大抵ノ場合ニ於テハ竇ト齒根トノ間ニ甚ダ薄キ骨板有リテ之ヲ距ツレトモ稀ニハ此骨板ガ在存セザルガ爲ニ齒根カ直チニ竇中ニ突出スルコトアリ。齒中最モ上顎竇ト密接セル關係ヲ有スル者ハ第一第二ノ二大白齒ナレトモ他ノ齒ニ於テモ或ル特別ノ場合ニ於テハ其齒槽ガ竇ト交通スルコト有ル者ナリ。其他竇ノ天床ノ前部ニ於テハ下眼窠管ニ依リ出來タル隆起アリ。

異常。上顎竇ハ通常單一ナル腔ヲ有スル者ナレトモ稀ニハ骨板ニ依リ數

頭蓋骨

頭蓋骨

房ニ分レタルコト及ビ骨板ニ依リ數陷凹ニ分レタルコトアリ。

口蓋骨 The palate Bone

此骨ハ硬口蓋ノ後部及ビ鼻腔側壁ノ後部ヲナス扁平ナル骨ニシテ水平板ト鉛直板トノ二部ガ殆ンド直角ニ合シテ成ル。地平板ハ硬口蓋ノ後部ヲ作ル部ニシテ上顎骨ノ口蓋突起ノ後側ニ連リ其間ニ横口蓋縫合ヲ作り兩側ノ地平板ガ合シタル所ハ正中線ニ在リテ口腔ニ向ツタル方ニハ正中口蓋縫合ヲ作り鼻腔ニ向ツタル方ニハ鼻樑ヲ作ル。此鼻樑ノ後端ハ後方ニ突出ス之ヲ後鼻棘 The posterior nasal spine ト名ク鉛直板ハ上顎骨體ノ鼻腔面ニ附着シ其内面即チ鼻腔ニ向ヒタル面ニハ二櫛突出ス其上方ニアルモノヲ篩骨櫛 The ethmoidal ridge (or crest) ト名ケ篩骨ノ中鼻甲介ノ後端ト結合スル所ナリ。下方ニアルモノヲ甲介櫛 The turbinal crest (or ridge) ト名ケ下甲介骨ノ後端ガ附着スル所ナリ。外面ニハ一溝アリ之レヲ翼狀口蓋溝 The pterygo-palatine groove ト名ケ他ノ骨ト結合シタル時ニハ上顎骨及ビ蝴蝶骨翼狀突起ニアル同名ノ溝ト合シテ翼狀口蓋管 The pterygo-palatine canal ヲ作ル此管ノ下口ハ水平板ノ外側ニアル大口蓋孔 The greater pa-

圖 三十二 第

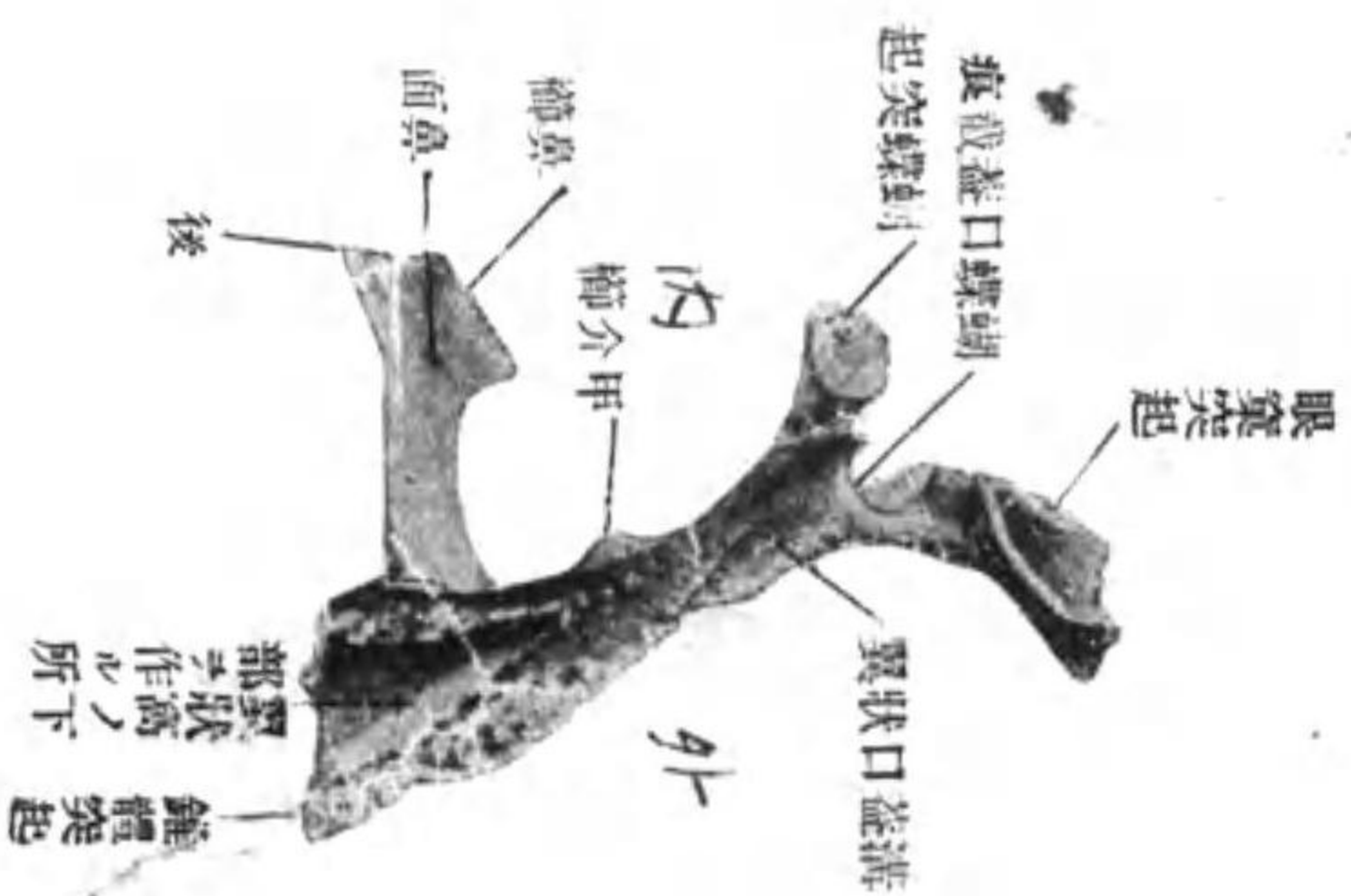
面外ノ骨蓋口



(by Spalteholz)

圖 三十二 第

面後ノ骨蓋口



(by Spalteholz)

latine foramen ナリ又此ノ管ノ後側ヨリハ二枝ヲ出ス之レヲ口蓋管 The palatine canal
 ト名ケ錐體突起ノ下面ニアル孔即チ小口蓋孔 The smaller palatine foramina ニ
 開ク此ノ鉛直板ニハ三突起アリテ上端ヨリ二個下端ヨリ一個出ツ上端ヨリ出
 ズル突起中前方ニ出タル者ヲ眼窠突起 The orbital process ト名ケ眼窠ノ方ニ出テ
 上顎骨體眼窠面ノ後内角ノ上ニ乗リツ其尖端ハ篩骨ノ後下部ニ結合ス故ニ
 其篩骨ニ向ヒタル面ニハ篩骨蜂窩ニ依リテ出來タル陷凹アリ後方ニ向ツテ出
 タル突起ヲ蝴蝶骨突起 The sphenoidal process ト名ケ蝴蝶骨體ノ下面ト結合ス此
 ノ二突起ノ間ニ一大截痕アリ之ヲ蝴蝶口蓋截痕 The sphenopalatine notch ト名ケ
 他ノ骨ト結合シタル時ニハ孔トナル之ヲ蝴蝶口蓋孔 The sphenopalatine foramen
 ト名ケ翼狀口蓋窩ト鼻腔トヲ結合スル重要ナル孔ヲナシ上後鼻神經及ヒ蝴蝶
 口蓋動靜脈ガ此所ヲ通シテ鼻腔内ニ入ル下方ヨリ出タル突起ヲ錐體突起 The
 pyramidal process or the tuberosity ト名ケ鉛直板ト水平板トガ合シタル後側ヨリ出
 テ蝴蝶骨ト結合シタル時ニハ其翼狀突起ニアル翼狀截痕内ニ筈入シ以テ翼狀
 窩ノ下部ヲ完成ス。

頭蓋骨

頭蓋骨

顴骨 The Malar

此者ハ頰ノ最高部ヲナス約三角形ノ骨ニシテ之ニ三突起三面及び三櫛ヲ區別ス。
 三突起ハ之ヲ上顎突起前頭蝴蝶突起及ヒ顛顛突起ト名ケ上顎突起ハ上顎骨ニ
 向ツテ出デ上顎骨ノ顛骨突起ト結合ス前頭蝴蝶突起ハ上方ニ出デ前頭骨ノ顛
 骨突起及ビ蝴蝶骨ノ大翼ト結合ス顛顛突起ハ顛顛骨ノ方ニ出デ顛顛骨ノ顛骨
 突起ト結合シテ蝴蝶骨ヲ作ル。
 三面ハ之ヲ頰面眼窠面及ビ顛顛面ト名ケ頰面ハ外方ニ向ヒ一般ニ凸面ヲ呈
 シ眼窠面ハ眼窠ニ向ヒ稍々陷凹シ眼窠外壁ノ一部分ヲナシ顛顛面ハ顛顛窩ニ
 向ヒ稍々凹面ヲ呈シ顛顛窩ノ前壁ヲ爲ス三櫛ハ棘骨ガ合シタル所ニ出來ルモ
 ノニシテ頰面ト眼窠面ト合シタル所ハ眼窠ノ下外縁ヲナシ顛顛面ト頰面ト合
 シタル所ハ顛顛突起ニヨリ上下ノ二部ヲ分タル其上部ハ顛顛窩ノ前縁ノ一部
 分ヲナシ下部ハ顛顛下窩ヲ前ヨリ界ス顛顛面ト眼窠面トカ合シタル所ハ下眼
 窠裂溝ノ外側ヲ界シ蝴蝶骨大翼ト結合ス。
 此骨ハ一管ニヨリテ貫カル此管ヲ顛骨管 The malar canalト名ケ眼窠面ニアル



孔即チ顛骨眼窠孔 The malar-orbital foramenニ始リ骨中ニ於テ二枝ニ分レ其一ハ頰
 面ニアル孔即チ顛骨顔面孔 The malar-facial foramenニ開ク他ノ一ハ顛顛面ニアル孔
 即チ顛骨顛顛孔 The malar-temporal foramenニ開ク此管ハ顛骨神經ノ通ズル所ナリ。

下顎骨 The Mandible

此者ハ顔面ノ下部ヲ作り左右ノ二關節ニヨリ頭蓋底ト結合スル骨ニシテ之
 レニ體及ビ枝ノ二部ヲ區別ス。

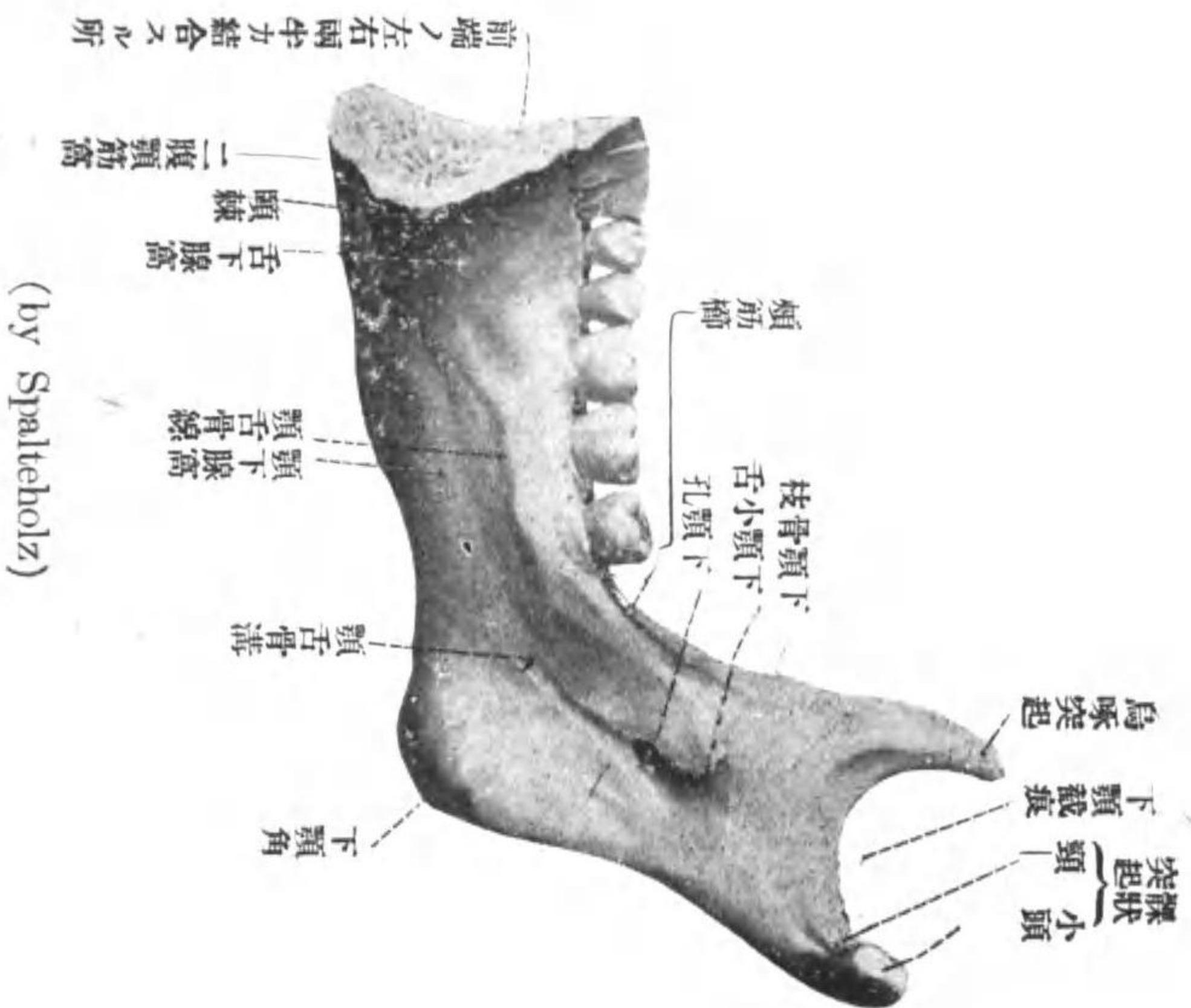
體 The body ハ發生學上ヨリ見ル時ハ左右ノ兩半分ヨリ成リ此兩半分ガ正中
 線ニ於テ癒合シ一個ト成リタル者ニシテ出來上リタル状態ニ於テハ此者ハ中
 央部ヲ占メ馬蹄形ニ曲レリ此者ニ上下ノ二縁及ビ内外ノ二面ヲ區別ス上縁ハ
 齒槽緣 The alveolar border ト名ケ齒槽ヲ有ス其状態ハ上顎骨ニ於ケル齒槽突起
 ト全ク同一ニシテ各齒槽ハ齒槽中隔ニヨリ互ニ距テラレ外面ニハ齒槽ニ一致
 シテ齒槽隆起ヲ示ス下縁ハ一般ニ圓クナリ其前部ニテ正中線ノ兩側ニ稍隆起
 シタル所アリ之レヲ頤結節 Tuberculum mentaleト名ク外面ニハ正中線ニ一隆起ア
 リ之レヲ頤隆起 Prothuberantia mentalisト名ケ頤 Chinヲ生ズル所ナリ其兩側ハ稍

頭蓋骨

陷凹セリ此所ヲ頤窩 The mental fossa 或ハ大齒窩 The incisive fossa ト稱シ頤筋ノ出ツル所ナリ其兩側ニハ外側小白齒ノ下ニ當ル所ニ一孔アリ之ヲ頤孔 The mental foramen ト名ケ頤動靜脈及ビ頤神經ノ出ツル所ナリ其後側ニハ斜ニ上外方或ハニ上後方向ツテ上リ枝ノ前縁ニ至レル線アリ之レヲ斜線(外科線) The oblique line or the external oblique line ト名ク内面或ハ後面ハ正中線ヲ兩側ニ棘狀ノ突起アリ之ヲ頤棘 The genial spine or tubercle ト名ケ頤舌筋及ビ頤舌骨筋ノ起ル所ナリ其下側ニハ稍陷凹シタル所アリ之ヲ二腹顎筋窩 The digastric fossa ト名ケ二腹顎筋ノ前端ガ附着スル所ナリ頤棘ノ外側ニハ斜ニ後上方ニ走り枝ノ前縁ニ至ル線アリ之ヲ顎舌骨線(内斜線) The mylo-hyoid or internal oblique line ト名ケ顎舌骨筋ノ出ヅル所ナリ此線ノ下方ニハ之レト殆ンド平行シテ走り其後端ハ枝ノ内面ニアル下顎孔ニ至レル溝アリ之ヲ顎舌骨溝 The mylo-hyoid groove ト名ケ同名ノ神經及ビ血管が通過スル所ナリ顎舌骨線ノ前端ノ前上方及ビ下方ニハ稍陷凹シタル所アリ其前上方ノモノヲ舌下腺窩 The sublingual fossa 下方ノモノヲ顎下腺窩 The submaxillary fossa ト名ケ共ニ同名ノ腺ヲ入ルル所ナリ。

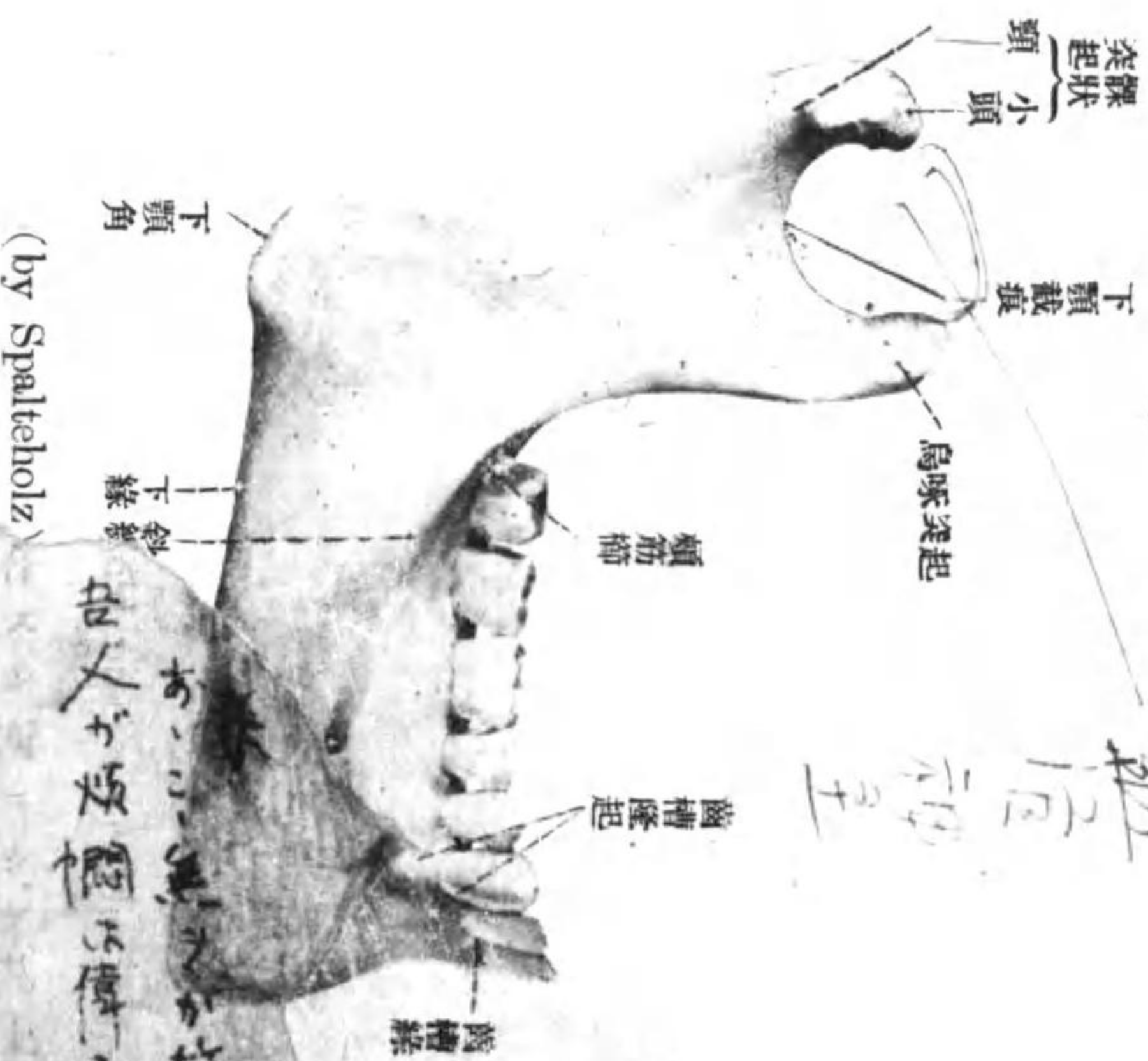
圖五十二 第一

面内ノ骨顎下



圖四十二 第一

面外ノ骨顎下



下顎枝^②

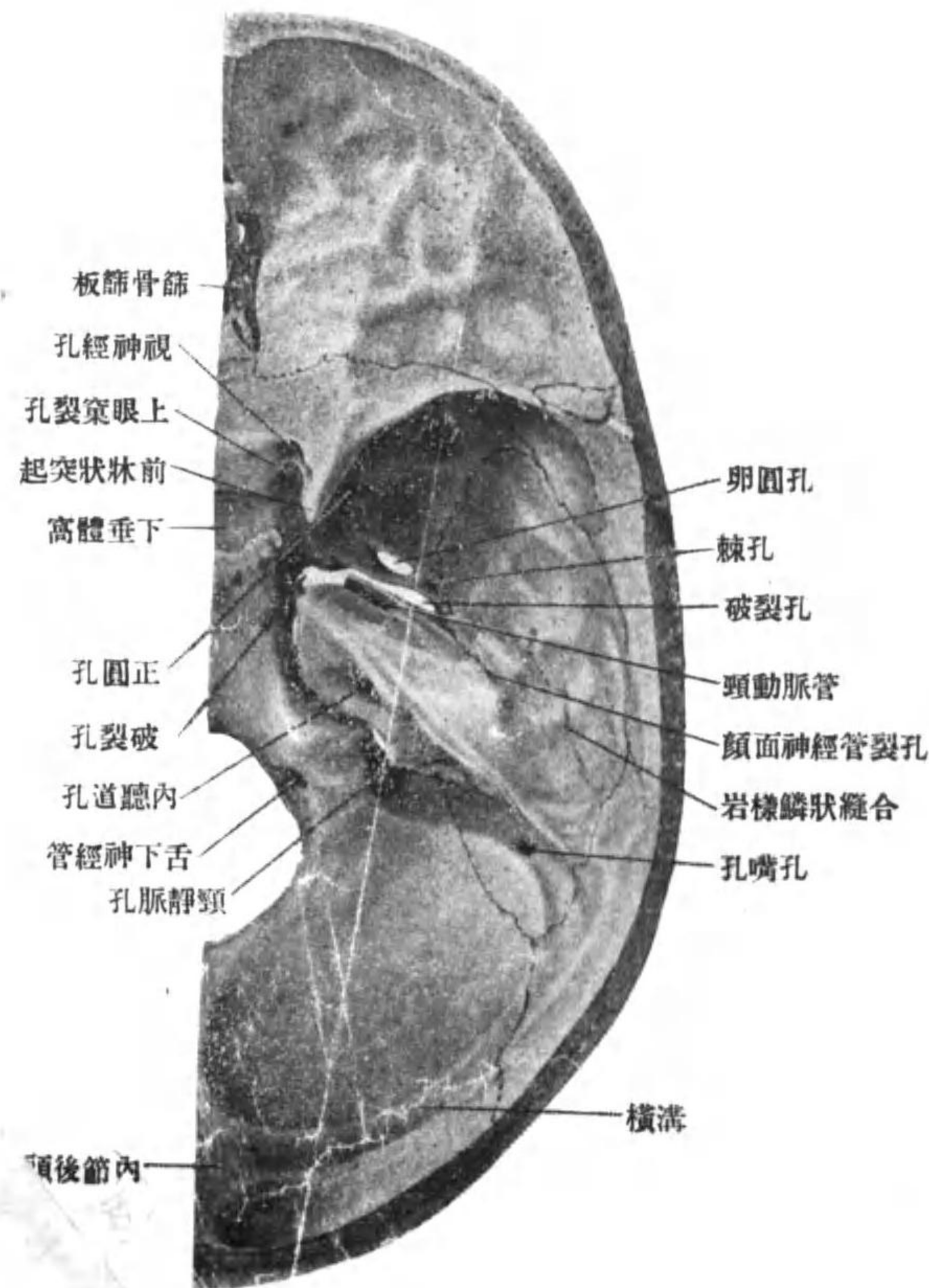
Ramus mandibulae 此部分ハ體ノ後端ヨリ後上方ニ出タル部分ニシテ其體ニ連ナル所ハ角ヲナス此ノ所ヲ下顎骨角 The mandibular angle ト稱シ此角ハ初生兒ニ於テハ鈍角ナレドモ成長スルニ從ヒ漸次ニ直角ニ近寄り又老年ニナリテ齒牙ガ脱落シタル時ハ齒槽突起ハ消失スルガ故ニ此角ハ再ビ鈍角トナル。此者ニハ内外ノ二面及ビ上端ヲ區別ス。其外面ハ下顎角ノ所ニ當リ稍粗ナル所アリ之レヲ咬筋凸起 Tuberositas masseterica ト名ケ咬筋ノ附着スル所ナリ。内面ハ中央部ニ一大孔アリ之ヲ下顎孔 The mandibular foramen ト名ケ下顎管ノ入口ナリ。此ノ孔ノ前内側ニ舌狀ノ突起アリ之ヲ下顎小舌 Lingula mandibulae 或ハ下顎棘 The mandibular spine ト稱シ蝴蝶下顎韌帶ノ附着スル所ナリ尚ホ下方ニ於テ下顎角ノ内面ニ於テハ粗ナル所アリ之レヲ翼狀凸起 Tuberositas pterygoidea ト名ケ内翼狀筋ノ附着スル所ナリ。上端ハ一大截痕ニヨリテ前後ノ二部ニ分ル其前部ヲ鳥喙突起 The coronoïd process ト名ケ其名ノ如ク鳥喙狀ヲ爲シ頰顯筋ノ附着スル所ヲ爲ス。後方ニアル突起ヲ髌狀突起或ハ後頭髌 The condyloid process or The menibular condyle ト名ケ頰顯骨ニアル下顎窩ト關連ニヨリ結合スル所ニシテ其上

頭蓋骨



圖 六 十 二 第

半 右 ノ 面 内 底 蓋 頭



(by Heizmanu)

頭 蓋 骨

端ハ横椭圆形ヲナス此所ヲ頭 The Headト稱シ其次キノ部分ハ稍細シ此所ヲ頸 The neckト稱ス頸ノ前内側ハ稍陷凹ス之ヲ翼狀窩 The pterygoid fossaト稱シ外翼狀筋ガ附着スル所ナリ此ノ二突起ヲ隔テタル截痕ヲ下顎截痕或ハS字狀截痕 The mandibular or sigmoid notchト名ク前縁ハ内外ノ二櫛ニ分レ其下端ハ最後齒ヲ狹ミ其外櫛ヨリハ頬筋ノ一部分ガ起レリ。

下顎管ハ下顎骨ノ大部分ヲ貫ケル管ニシテ其後端ハ下顎枝ノ内面ニアル下顎孔ニ始マリ内面ニ在ル顎舌骨線ト殆ンド同一ノ所ヲ齒槽突起ノ下ニ滑ヒテ前方ニ走リ其前端ハ此骨ノ前端ニ達ス此管ハ此ノ經過ノ間ニ齒槽ヲ養フ神經及ビ血管ノ枝ガ通ズル澤山ノ小枝及ビ頤孔ヲ通リテ下顎骨ノ前面ニ出ヅル大ナル枝ヲ出ス此ノ頤孔ヨリ出ヅル枝ヲ出シタル後ハ下顎管ハ著シク細クナル此ノ所ヲ門齒管 The incisive canalト云フ其故ハ門齒ノ下ヲ通ズルガ故ナリ而シテ此下顎管ハ下齒槽神經及ビ同名動靜脈ノ通ズル所ナリ。

舌 骨 The Hyoid

此者ハ舌根内ニ存在シ甲狀軟骨ト頤トノ中間ニ其位置ヲ占ム之レニ體大角

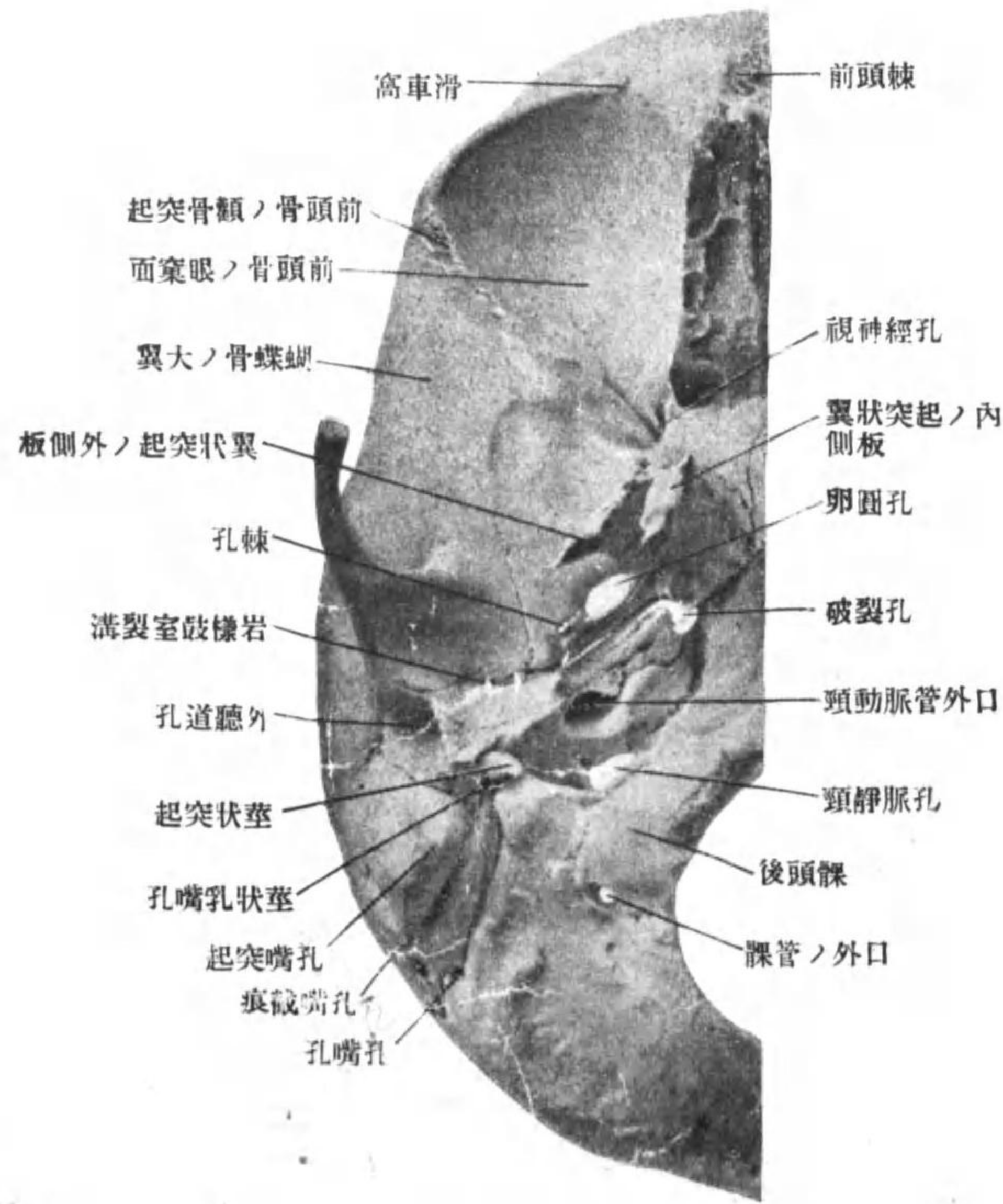
及ヒ小角ノ三部ヲ區別ス。體 The body ハ中央部ノ最モ太キ部分ヲナシ其前面或ハ外面ハ一般ニ凸面ヲ呈シ澤山ノ筋ガ附着スルガ爲メニ粗面ヲナスモ大體ニ於テ縱横ニ走レル各一隆起ニ依リ上下左右ノ四部ニ分タル而シテ縱横ノ隆起ガ交叉スル所ニハ一突起有リテ稀ニハ三四「ミリメートル」ノ長サニ達スルコトアリ。内面ハ著シク陷凹セリ。大角 The greater cornua ハ體ノ兩側ヨリ出テ斜ニ後上方ニ向ヒテ突出ス而シテ其尖端ハ通常結節狀ニ膨大ス。小角 The lesser cornua ハ大角ニ比スレバ著シク小ニシテ大角小角トノ結合部ノ上側ヨリ後上方ニ向ツテ突出シ其尖端ニハ莖狀下顎韌帶ガ附着セリ。

頭蓋骨全體ニ就テ

頭蓋骨ニハ腦頭蓋 Cranium cerebrale ト顔面頭蓋 Cranium viscerale トノ二部ヲ區別シ。腦頭蓋ノ内ニハ腦ヲ入ルル腔即チ頭蓋腔 The cranial cavity 存在シ。顔面頭蓋ニハ眼窠 The orbita 鼻腔 The nasal cavity 口腔 The oral cavity 顛顛窩 The temporal Fossa 顛顛下窩 The infratemporal fossa 及ヒ翼狀口蓋窩 The pterygo-palatinal fossa 存在ス。腦頭蓋ト顔面頭蓋トノ間ヲ頭蓋底 Basis crani ト名ケ頭蓋底ヨリ上ニアル頭蓋骨

頭蓋骨

ノモルタ見ヲ半右ノ面外底蓋頭リ去ヲ蓋頭面顔



(by Heizmanu)

頭 蓋 骨

ノ部分ヲ頭蓋冠 Calvaria ト名ク。頭蓋底ノ位置ハ外面ニ於テハ外後頭結節ヨリ始マリ乳嘴突起ノ内面外聽道孔ノ上縁下顎窩ノ上側顛額下嵴等ヲ經テ眼窠ノ上縁及ビ鼻骨ノ上端ニ至ル線ニヨリ定メラル。

頭蓋冠ハ外面ハ滑カニシテ兩側部ニ上顛額線及ビ下顛額線ト稱スル二弓狀線存在ス此者ハ前端ハ前頭骨ノ顛額嵴ニ初リ顛頂骨ヲ經テ顛額骨ノ岩様部ニ至ル。此ノ二線ノ内上顛額線ハ顛額筋膜ガ附着スル所下顛額線ハ顛額筋ノ上端ガ附着スル所ナリ。之レヨリ下方ハ顛額坦面ト名ケ顛額窩ノ内壁ヲ爲シ顛額筋ノ附着スル所ナリ。顛額線ヨリ上ニアル部ヲ前中後ノ三部ニ分チ前部ハ額或ハ前頭中央部ハ顛頂後部ハ後頭ト名ク。内面ハ腦髓ノ表面ニ一致シタル指狀壓痕腦隆起及ビ硬腦膜内ニアル動脈ニヨリテナレル溝即チ硬腦膜動脈溝ヲ示ス。

頭蓋底ニモ内外ノ二面ヲ區別ス。内面ハ二横嵴ニヨリ前中後ノ三部即チ前頭蓋窩中頭蓋窩及ビ後頭蓋窩 The anterior middle and posterior cranial cavity ノ三部ヲ區別ス。此ノ三部ノ内テ前中ノ二頭蓋窩ノ界ヲナス横嵴ハ蝴蝶骨ノ蝴蝶隆起及ビ蝴蝶骨小翼ノ後縁ヨリナリ中後ノ二頭蓋窩ヲ界スル横嵴ハ鞍背及ビ顛額骨

岩様部ノ上縁ヨリナル。凡ソ頭蓋底ニハ内外二面ヲ互ニ交通セシムル數多ノ孔有リテ之レニハ次ノ者アリ。

(1) 前頭蓋窩ニ於テハ中央部ニ篩骨篩板存在シ其孔ニヨリ前頭蓋窩ト鼻腔トヲ交通セシム而シテ此孔ハ嗅神經纖維ガ通ズル所ナリ。

(2) 中頭蓋窩ニ於テハ(a)視神經及ビ眼動脈ヲ通ズル視神經孔及ビ(b)滑車神經動眼神經、外旋神經、眼神經(三叉神經第一枝)及ビ上眼靜脈ヲ通ズル上眼窩孔ニヨリ眼窠ト交通シ(c)上頸神經(三叉神經第二枝)ガ通ズル正圓孔ニヨリ

口蓋窩ニ交通シ(d)下頸神經(三叉神經第三枝)ノ通ズル卵圓孔及ビ(e)棘孔神經及ビ中硬腦膜神經ガ通ズル棘孔ニヨリ頭蓋底ノ外面ニ交通シ(f)顛顛骨岩様部ノ尖端ニアル頸動脈管内口ニヨリ頸動脈管ヲ通リテ頭蓋ノ下面ニニヨリ閉サレ孔ヲナサズ。

(3) 後頭蓋窩ニ於テハ(a)中央ニアリテ神經中樞ノ通ズル大孔即チ大後頭ヨリテ脊推管ニ通ジ(b)大後頭孔ノ兩側ニアリテ舌下神經ノ通ズル舌下

頭蓋骨

頭蓋骨

管ト(c)尙ホ其外側ニアリテ舌咽神經、迷走神經、副神經及ヒ内頸靜脈ガ通ズル
 内頸靜脈孔トニヨリ頭蓋底ノ下面ニ通ジ。(d)顛顛骨ノ岩樣部ノ後面ニアリテ
 顔面神經及聽神經ノ通ズル内聽道ニヨリ内耳ニ通ズ。(e)其他後頭骨ノ兩側部
 ヲ貫スケル顛管ハ頭蓋ノ内外兩面ニアル靜脈ヲ互ニ結合スル者ナリ。
 外面ニモ内面ニ於ケルガ如ク前中後ノ三部ヲ區別ス。此三部中中部ト後部ト
 ノ境ハ大後頭孔ノ前緣ヨリ乳嘴突起ニ至ル線ニヨリ決定シ中部ト前部トノ境
 ハ咽頭結節ノ前ヨリ蝴蝶骨翼狀突起ノ外側大翼ノ前緣、上眼窠緣ヲ經テ鼻根ニ
 至ル線ニヨリ決定ス。而シテ後部ハ項筋ノ附着スル所ニシテ中央部ハ脊柱ノ前
 側ニアル深頸筋ノ停止聽管ノ主要ナル部分及ビ下顎骨ノ關節窩ノアル所ニシ
 テ前部ハ顔面頭蓋ト結合スル所ナリ。
 頭蓋ノ内面ニハ靜脈竇ノ通ズル溝アリテ一系統ヲナス。此ノ溝ノ主ナルモノ
 ニハ矢狀溝及ビ橫溝アリ。矢狀溝ハ上矢狀竇ノ通スル所ニシテ前頭骨鱗狀部ノ
 内面ニアル前頭溝ニ始マリ顛頂骨ノ内面ニアル矢狀溝ヲ經テ後頭骨ノ内後頭
 結節ニ達シ多クハ右側ノ橫溝ニ連リ稀ニハ左側橫溝ニ連ル。橫溝ハ橫竇ノ通ズ

眼窠 The Orbit

ル所ニシテ後頭骨ノ内後頭結節ニ始マリ横走シ顛頂骨ノ後下角顛顛骨ノ乳嘴
 部ヲ經テ再ビ後頭骨ノ鱗狀部ニ返リ遂ニハ頸靜脈孔ニ開ク。此橫溝ガ顛頂骨ノ
 内面ヨリ頸靜脈孔ニ至ル迄ノ間ハS字形ニ曲ル故ニS字狀溝ト名ク

此者ハ眼球ヲ入ル、陷凹部ニシテ其形ハ四角錐狀ヲナシ錐體ノ基底ハ前方ニ
 向ヒ尖端ハ蝴蝶骨小翼ノ下ニアル視神經孔ニ達ス。此者ニハ上下内外ノ四壁ヲ
 區別ス。上壁ハ前頭骨ノ眼窠部及ビ蝴蝶骨小翼ヨリナリ。内壁ハ上顎骨ノ前頭突
 起、淚骨、篩骨紙樣板及ビ蝴蝶骨ノ體ヨリナル。下壁ハ上顎骨ノ體及ビ顛顛骨ノ一部
 ヲヨリナリ。外壁ハ顛顛骨ノ大部分及ビ蝴蝶骨大翼ノ眼窠面ヨリナル。此ノ眼窠ト
 ノ者トノ交通ハ次ノ如シ

- (a) 視神經孔及ビ上眼窠裂孔ニヨリ頭蓋腔ニ通ジ
- (b) 下眼窠裂孔ニヨリ翼狀口蓋窩及ビ顛顛下窩ニ通ジ
- (c) 淚囊窩及ビ鼻淚管ニヨリ鼻腔ニ通ジ
- (d) 顛顛骨ノ内面ニアル顛骨眼窠孔ニヨリ顛骨管ヲ經テ頰面及

頭蓋骨

ス之ヲ上鼻道、中鼻道及ビ下鼻道ト名ケ最上甲介存在スル時ニハ此者ト上甲介トノ間ニ存在スル溝ヲ最上鼻道ト名ク此等ノ諸甲介ハ鼻腔ヲ全ク滿サズシテ其内側、前側、後側及ビ上側ニ間隙ヲ有ス其上鼻道ノ上ニテ蝴蝶骨體ノ前ニ存在スル間隙ヲ蝴蝶篩骨窪 *Recessus sphenothmoidalis* ト名ケ蝴蝶竇ノ開ク處ナリ。各甲介ノ後側ニ存在スル間隙ヲ鼻咽頭道 *Meatus nasopharyngeus* ト名ケ其上端ニ蝴蝶口蓋孔アリ。各甲介ト中隔トノ間ニ存在スル間隙ヲ總鼻道 *Meatus narium communi* ト名ケ各甲介特ニ中甲介ノ前側ニ在ル間隙ヲ中鼻道前房ト云フ。其他中鼻道ノ前端ニハ稍陷凹セル處アリテ中甲介ノ外側ヲ通ジテ前上方ニ上ル此處ヲ漏斗 *Theinfundulum* ト名ケ前頭竇ガ其上端ニ開ケリ。

○鼻腔内ニハ篩骨蜂窠及ビ三副鼻腔即チ蝴蝶竇、前頭竇及ビ上顎竇ガ開口ス。就中篩骨蜂窠ノ後上部ニ存在スルモノハ上鼻道ニ開キ篩骨蜂窠ノ前下部ニ存在スルモノ上顎竇及ビ前頭竇ハ中鼻道ニ開口ス。其外鼻腔ト他部トノ交通 (1) 篩骨篩板ニ在ル數多ノ小孔ニ依リ頭蓋腔ニ連リ、(2) 門齒管ニヨリ口腔ニ連リ、(3) 鼻淚管ニヨリ眼窠ニ開キ、(4) 蝴蝶口蓋孔ニヨリ翼狀口蓋窩ニ連ル。而シテ此等ノ諸

頭蓋骨

頭蓋骨

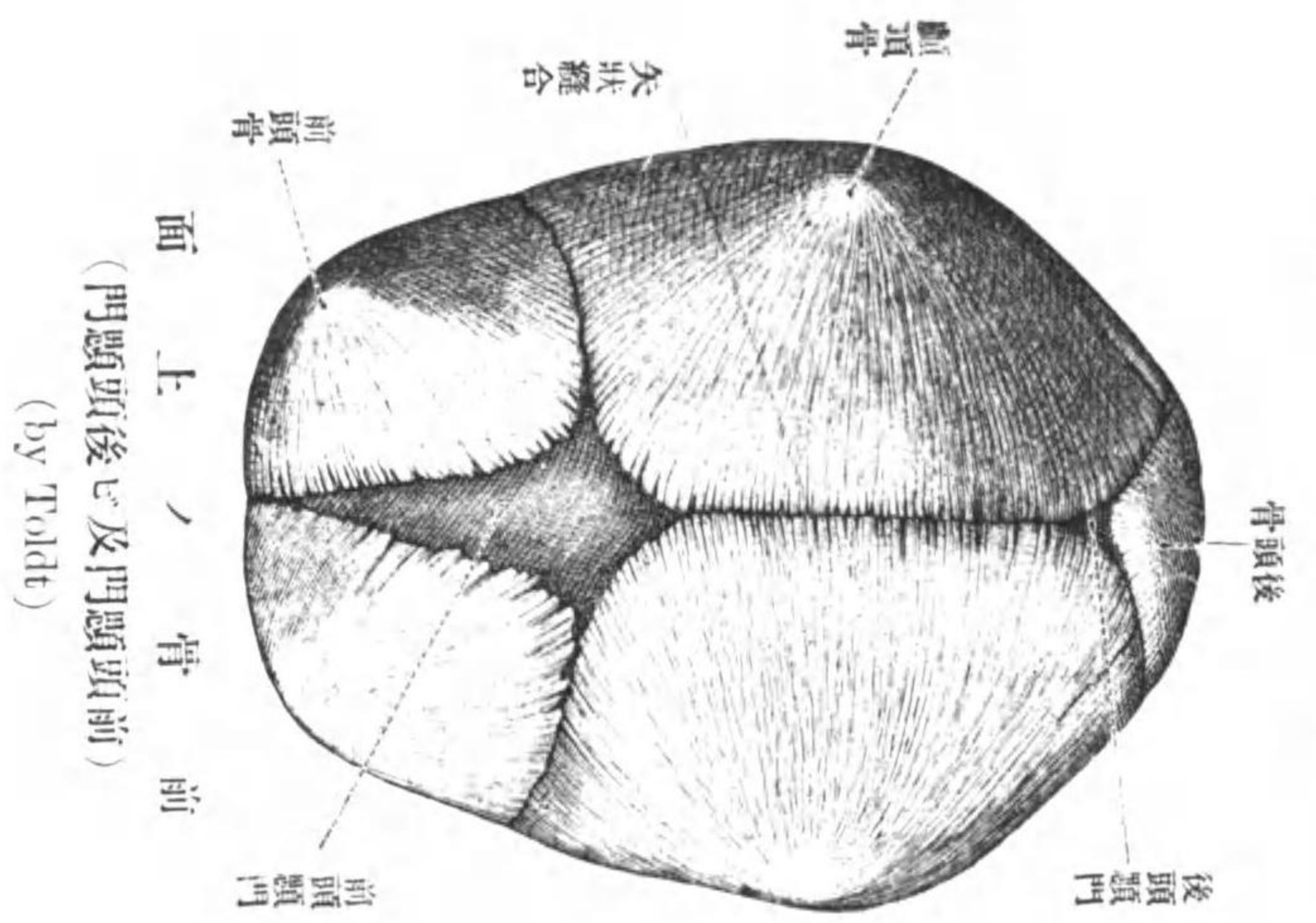
前縁ヨリ成ル。此窩ハ三又神經第二枝即チ上顎神經及ビ内顎動脈ノ末端部ガ存
 在シ多クノ枝ヲ出スガ故ニ實地上甚ダ必要ナリ。又此腔ノ他、
 ハ正圓孔ニ依リ頭蓋腔ニ通ジ、(2)上方方ハ下眼窠裂溝ニ依リ眼窩ニ通ジ、(3)内側
 ハ蝸蝶口蓋孔ニヨリ鼻腔ニ通ジ、(4)下方方ハ口蓋管ニヨリ口腔ニ通ジ、(5)後方ハ翼
 狀管ビヂエス氏管ニ依リ頭蓋底ニ通ズル外直接ニ外方ニ在リ、
 額下窩ニ通ズ

頭蓋縫合 The sutures of skull

頭蓋骨ヲ作ル骨ハ下顎骨及ビ舌骨ノ外ハ皆犬牙狀ニ縫合シタル如キ線ニテ
 互ニ結合ス此線ヲ縫合 The sutures ト名ケ其主ナル者ハ次ノ如シ。
 矢狀縫合 Sutura sagittalis 此者ハ兩側ノ顛頂骨ノ間ヲ前後ニ走ル
 冠狀縫合 Sutura coronalis 此者ハ前頭骨鱗狀部ト兩側ノ顛頂骨ノ間ヲ横走シ
 其中央部ニ於テ矢狀縫合ノ前端ト結合ス
 三角縫合 Sutura lambdoidea 此者ハ後頭骨鱗狀部ト兩側ノ顛頂骨トノ間ヲ横
 走シ其中央部ニ於テ矢狀縫合ノ後端ト結合ス
 此他ニモ數多ノ縫合アリ此等ノ者ハ皆之ヲ作ル骨名ニ依リ名ケラル例ヘバ

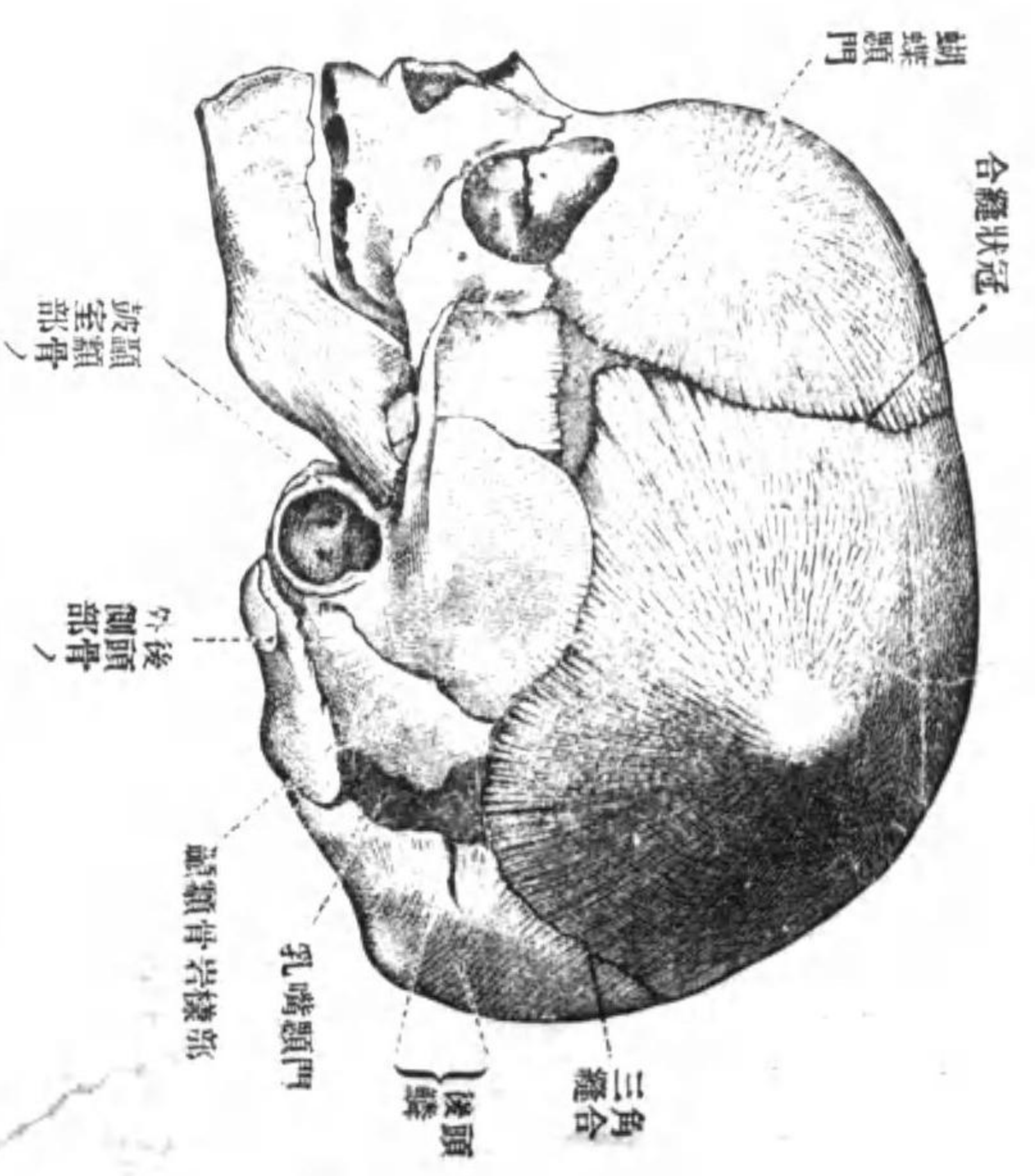
AO

圖 六 第



面 上 ノ 骨 前 (門頭頭後及門頭前)
(by Toldt)

圖 五 第



面 側 ノ 骨 蓋 頭 兒 生 初 (門頭乳及門顛蝶)
(by Toldt)

兩側ノ鼻骨間ニ存在スルモノヲ鼻骨間縫合、蝴蝶骨ト前頭骨トノ門ニ存在スルモノヲ前頭蝴蝶縫合ト云フカ如シ。屢々縫合ノ間ニ小骨片存在スルコトアリ之ヲ縫合骨 *Ossa suturaria* ト名ケ通常三角縫合中ニ最モ多ク且ツ最モ大ナル者存在ス。

顛門 Die Fontanelles

初生兒ノ頭蓋骨ニ於テハ骨カ未ダ充分發育セザルガ爲メニ所々ニ尙結締組織ヨリ成ル部分アリ之ヲ顛門 Die Fontanelles ト名ケ次ノ四ヲ區別ス。

前頭顛門或ハ大顛門 The fontanelles Fonticulus frontalis s. major

後頭顛門或ハ小顛門 Fonticulus occipitalis and minor

蝴蝶顛門 Fonticulus sphenoidalis

乳嘴顛門 Fonticulus mastoideus

前頭顛門ハ前頭骨ト兩側ノ顛頂骨トノ間ニ存在シ菱形ヲナシ殊ニ大ニシテ第一歳ノ終リ頃ニ消失ス。

後頭顛門ハ後頭骨ト兩側ノ顛頂骨トノ間ニ存在シ尖端ガ前方ニ向ヘル三角

頭蓋骨

形ヲナシ前頭顱門ニ比スレバ著シク小サク通常生後程ナク消失ス。
蝴蝶顱門ハ蝴蝶骨大翼ノ上端ニ存在シ不規則ナル形狀ヲ有ス
乳嘴門ハ顱顱骨乳嘴部ノ上端ニ位シ不規則ナル形狀ヲ有ス

第二章 軀幹骨 The Bones of the Trunk

軀幹骨ニハ脊柱、胸骨及ビ肋骨ノ三種ヲ區別ス

(一) 脊柱 The vertebral column

此者ハ體後壁ノ正中線ヲ縱走セル者ニシテ三十二個乃至三十四個ノ短骨ガ
關節及ビ靱帶ニ依リ互ニ聯結シテ成ル。此各個ノ短骨ヲ椎骨或ハ脊椎 Vertebrae
or spondyli ト名ケ之ニ次ノ五種類ヲ區別ス

- (1) 頸 椎 The cervical vertebrae 七個
- (2) 胸 椎 " thoracic " 十二個
- (3) 腰 椎 " lumbar " 五個
- (4) 薦 椎 " sacral " 五個

2/2
英 彼

- (5) 尾閭椎 : coccygeal : 三乃至五個

此等ノ諸椎骨中上方ニ在ル二十四個ハ椎間軟骨及ビ靱帶ニ依リ相互ニ連結
スレドモ薦椎以下ノ者ハ幼時ニ於テハ前者ト同ジク椎間軟骨及ビ靱帶ニ依リ
相互ニ連結スレドモ成人ニ至レバ此等ノ者ハ化骨スルガ故ニ骨ニ依リ相互ニ
連結スル様ニ成リ之レト同時ニ著シク其形狀ヲ變化ス即チ五個ノ薦椎ハ合シ
テ一個ノ薦骨ト成リ三乃至五個ノ尾閭椎ハ合シテ一個ノ尾閭骨或ハ尾骶骨ト
成ル。故ニ薦椎及ビ尾閭椎ヲ假椎ト稱シ之ニ對シテ上方ニ在ル二十四個ノ椎骨
ヲ眞椎ト稱スルコトアリ。而シテ眞椎中最上ニ在ル二個即チ第一第二ノ二頸椎
ハ相互及ビ頭蓋骨ト關節ニ依リ結合シ以テ頭蓋骨ヲシテ自由ニ前後左右ニ廻
旋スルコトヲ得セシム故ニ之ヲ特ニ廻旋椎ト名ケ其他ノ眞椎ハ脊柱ヲシテ只
僅カニ前後左右ニ彎曲スルコトヲ得セシムル者ナルヲ以テ廻旋椎ニ對シテ彎
曲椎ト名クルコトアリ

(甲) 眞椎 The true Vertebrae

眞椎一般ノ形狀。各椎骨ハ椎體 The vertebral body 及ビ椎弓 The vertebral archノ

頭蓋骨

頭蓋骨

(4) 二部ヨリ成ル。椎體トハ椎骨ノ前部ヲ占ムル短圓柱狀ノ部ニシテ上下ノ二面ニ依リ椎間軟骨ヲ距テ隣在ノ椎體ト結合ス。椎弓トハ椎體ノ後側ニ連レル弓狀部ナリ。此二部ノ間ニハ一大孔アリ之ヲ椎孔 The vertebral foramen ト稱シ凡テノ椎骨カ互ニ連結シテ脊柱ヲ作レル時ニハ管ヲ生ズ此管ヲ脊椎管 The vertebral canal ト名ケ其中ニ脊髓ヲ容ル

椎弓ノ椎體ニ連ル所ハ稍細ク成リ上下兩側ニ各一截痕ヲ有ス之ヲ上及ビ下椎骨截痕 The superior and inferior vertebral notches ト稱シ脊柱ニ於テハ相對シテ在存セル者カ合シテ其間ニ一孔ヲ生ズ之ヲ椎間孔 The intervertebral Foramen ト稱シ脊髓神經及ヒ脊髓動靜脈ガ通ズル所ニシテ其內端ハ脊椎管ニ連レリ。又椎弓ノ外側ヨリハ三突起ガ出デ後側ノ正中線ヨリハ一突起ガ出ヅ外側ヨリ出ヅル三突起中上方ニ向ツテ出ヅル者ヲ上關節突起 The superior articular process へ下方ニ向ツテ出ヅル者ヲ下關節突起 The inferior articular process ト云ヒ外方ニ向ツテ出ヅル者ヲ横突起 The transverse process ト云フ。上下ノ二關節突起ニハ各一關節面有リテ脊柱ニ於テハ相對シテ出デタル者ガ互ニ結合シ關節ヲ生ズ。横突起ハ關節

圖 八 第

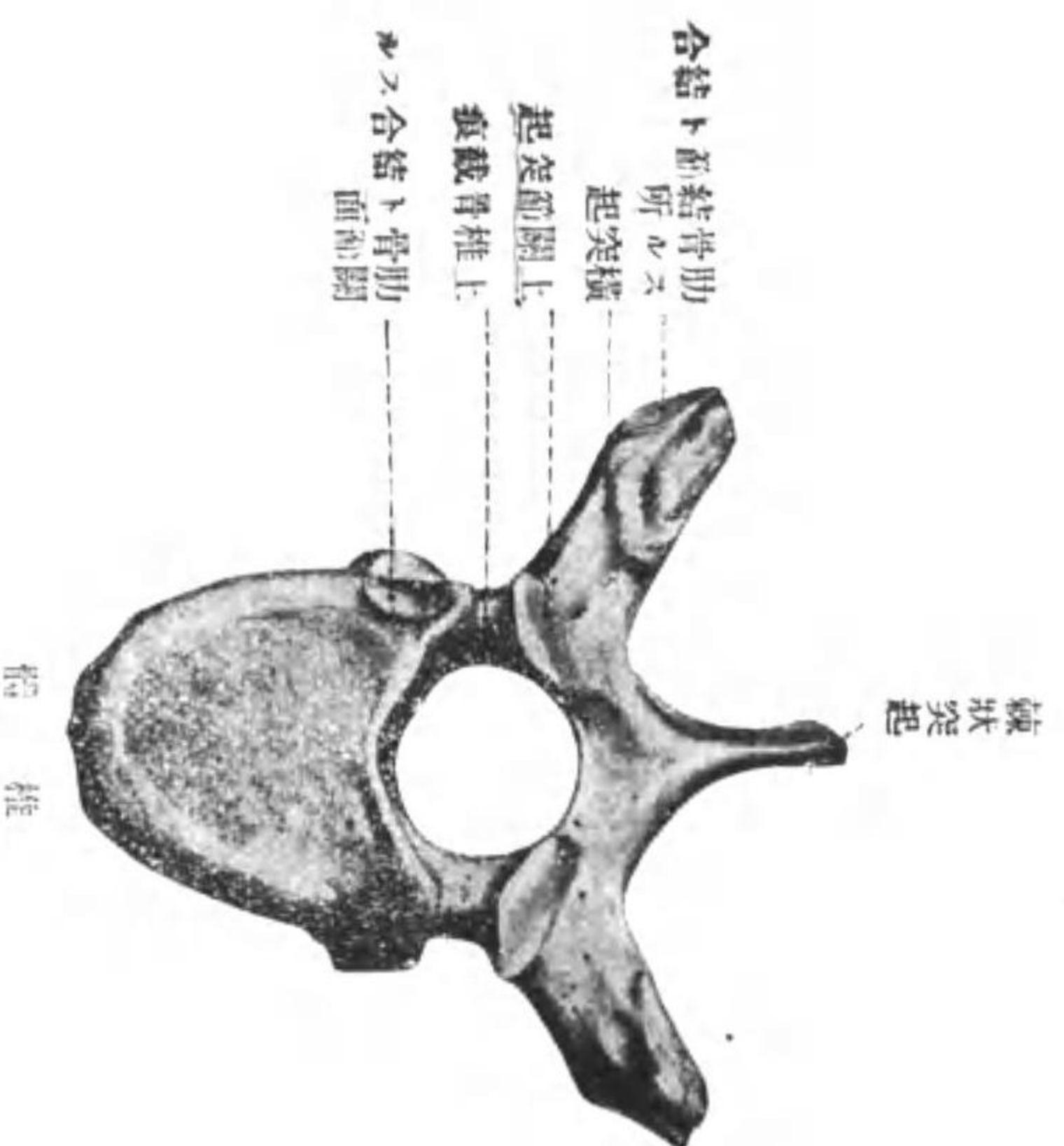


圖 七 第

面上ノ椎胸七第

(By Rauber)

面側ノ椎胸七第

(By Rauber)

突起ニ比スレバ著シク長シテ筋及ビ靱帯ガ附着スル所ヲ爲シ胸椎ノ横突起
 ハ其他肋骨トモ結合セリ。後側ノ正中線ヨリ出ヅル突起ハ棘狀突起 The spinous
 Process ト稱シ前ノ三突起ニ比スレバ著シク長大ニシテ筋及ビ靱帯ガ附着スル
 所ヲ爲ス

以上眞椎一般ニ就キテ述ベタル所ハ眞椎ノ各部ニ依リ各多少異レル所有ルガ
 故ニ次ニ各部分ニ就テ特有ナル點ヲ述ブベシ

(a) 頸椎[ⓐ] The cervical vertebrae 頸椎ノ體ハ他部ノ眞椎ニ比スレバ低且廣ニシテ
 横斷面ニテハ横楕圓形ヲ呈ス。此頸椎ニ最モ特有ナル點ハ横突起ニシテ此者ハ
 固有ノ横突起ト肋骨トカ結合シタル者ナリ其故ハ横突起ノ後部ハ椎弓ヨリ出
 ツレトモ前部ハ椎體ヨリ出ツルガ故ニ明ニシテ最下ノ頸椎ニ於テハ往往前部
 ガ特ニ宜ク發育シ餘計ノ肋骨ヲ生ゼルコトアリ而シテ此横突起ノ上面ニハ溝
 アリ此溝ハ脊髓神經ガ通過スル所ナルガ故ニ脊髓神經溝 The groove for spinal
 nerve ト稱シ其外端ニハ稍大ナル孔アリテ横突起ヲ貫ケリ此孔ヲ横(突起)孔 The
 transverse foramen ト名ケ椎骨動靜脈ガ通過スル所ナリ

頭蓋骨

第二ノ特有ナル點ハ棘狀突起ニシテ此者ハ他部ノ椎骨ノ棘狀突起ニスレバ著シク短ク且其尖端ガ左右ノ二部ニ分レ其間ニ棘上靱帶ヲ挾メリ。此棘狀突起ハ下方ニ在ル者程漸次ニ長ク成ルガ故ニ第七頸椎ニ在ル者ハ最モ長ク且胸椎ノ棘狀突起ニ似タル形狀ヲ有スルニ至リ隨ツテ其尖端ガ左右ノ二部ニ分レズシテ皮下ニ突出セリ故ニ第七頸椎ヲ尖椎 Vertebra Prominens 其棘狀突起ヲ項關節ト稱シ皮膚上ヨリ容易ニ觸ルルコトヲ得。其他ノ點ニ就テハ略ス

頸椎中第一第二ノ二個即チ載域及ビ樞軸ハ上述ノ如ク他ノ椎骨トハ作用ヲ異ニスルガ故ニ其形狀モ著シク異レリ故ニ此二個ニ就キ特別ニ述ブベシ

第一頸椎即チ載域 The Atlas。此者ハ頭蓋骨ト關節ヲ以テ結合シ之ヲシテ樞軸齒ノ周圍ニ廻轉セシムル者ニシテ其特有ナル點ハ椎體ガ無クシテ其代リニ前弓ヲ生ゼルコトナリ。之ニ前弓、側塊部及ビ後弓ノ三部ヲ區別ス

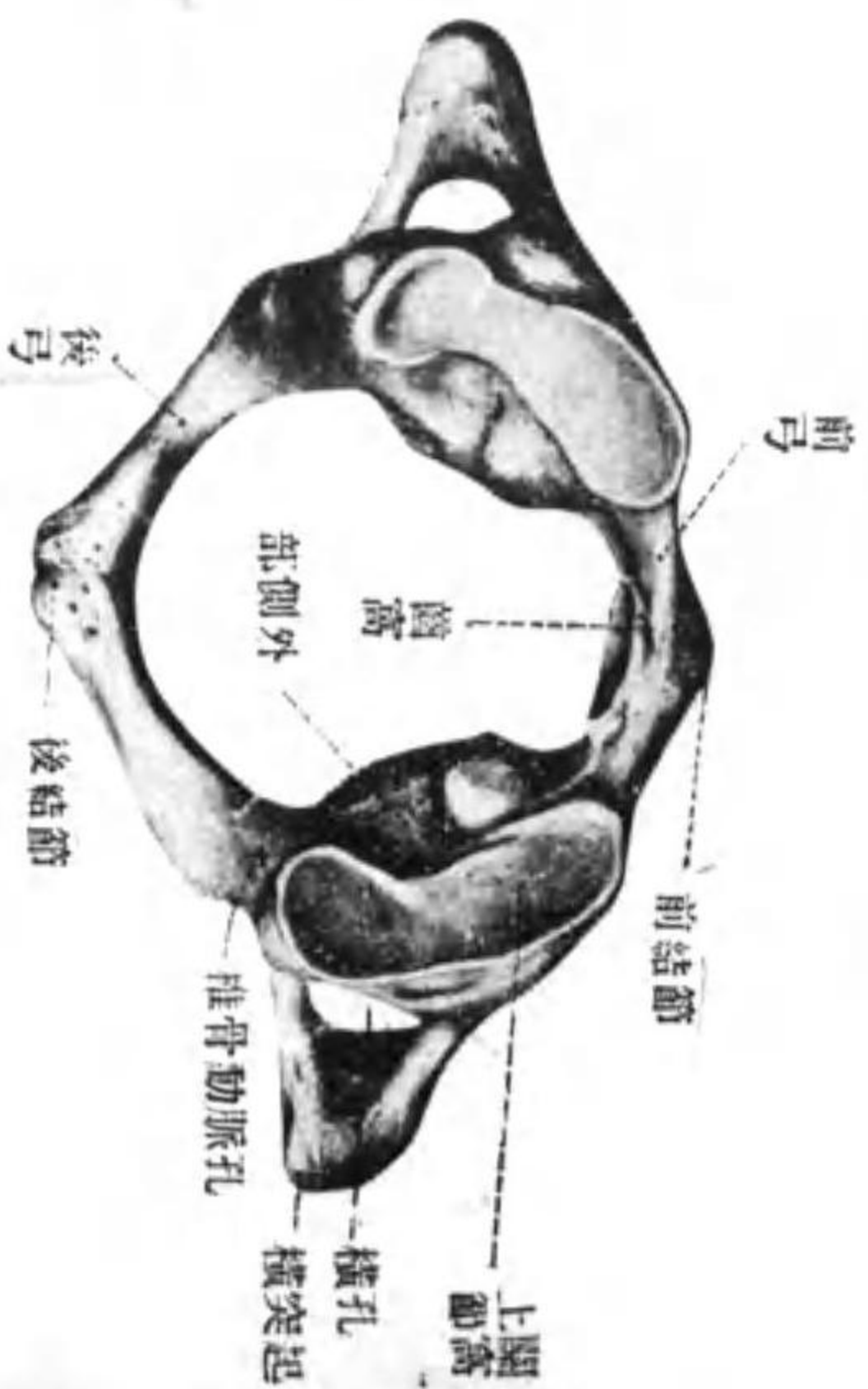
前弓 The anterior arch。此者ハ此骨ノ前部ヲ占メ其前面ノ中央ニ一結節ヲ有ス之ヲ前結節 The anterior tubercle ト云ヒ其後側ニハ關節面アリ之ヲ齒窩 The facet for the odontoid process ト云ヒ樞軸齒ノ前關節面ト結合スル所ナリ

ハニ

圖 十 第



圖 九 第



面 前 ノ 軸 樞

(by Ranber)

域 載

(by Ranber)

側塊部 The lateral masses。此部ハ兩側部ヲ占メ其上面ニ長橢圓形ノ關節面ヲ有ス此關節面ヲ上關節面ト稱シ後頭髁ト結合スル所ニシテ一般ニ稍陷凹シ其長軸ハ後外方ヨリ斜メニ前内方ニ走レリ。下面ニモ一關節面アリ之ヲ下關節面ト稱シ載域ノ上關節面ト結合スル所ニシテ殆ンド圓形ノ平面ヲ爲ス。内側ニハ載域橫靱帶ノ附着スル粗面有リテ外側ニハ橫突起アリ。橫突起ノ形狀ハ他ノ頸椎ノ橫突起ニ同シ

後弓 The posterior arch。此者ハ後部ヲ占メ其後面ノ中央部ニ他ノ椎骨ノ棘狀突起ニ當ル小突起アリ之ヲ後結節 The posterior tubercle ト云フ。其他上面ノ前部ニテ上關節面ノ後側ニハ橫走セル溝アリ之ヲ椎骨動脈溝 The groove for vertebral artery ト稱シ同名動脈及ビ第一頸神經ガ通過スル所ナリ

椎孔ハ他ノ椎骨ニ在ル者ニ比スレバ著シク大ナリ。之レ脊髓ヲ入ルル固有ノ部分ノ外ニ樞軸齒ヲ容ル、部分ヲ有セルガ故ニシテ載域橫靱帶ガ存在セル時ニハ前後ノ二部ニ分ル其前部ハ樞軸齒ヲ入ル、所ニシテ後部ハ椎孔ノ固有部即チ脊髓ヲ入ルル所ナリ

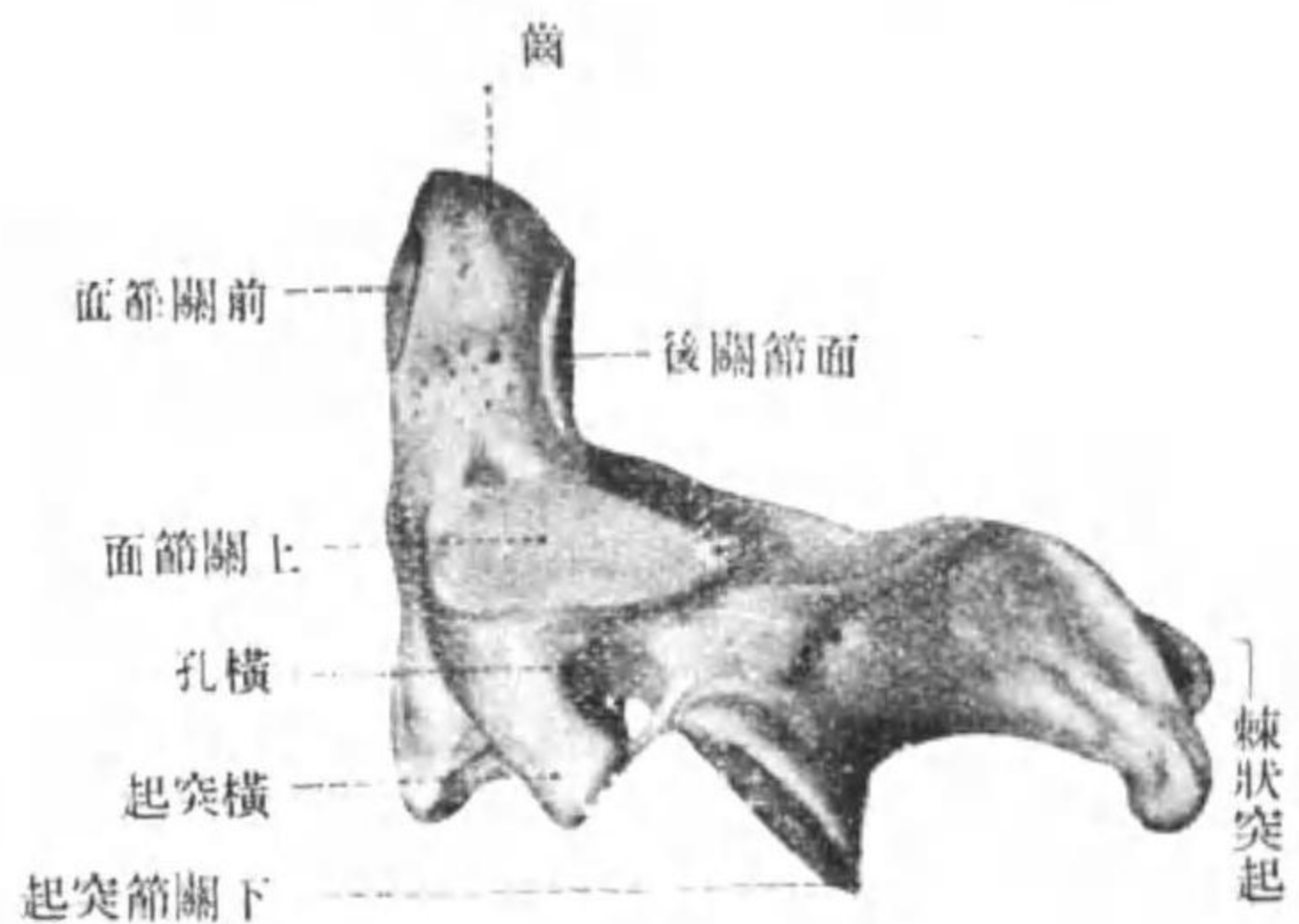
頭蓋骨

第二頸椎或ハ樞軸 The Axis or Epistrophæus。此者ガ特有ナル形狀ヲ爲ス所以ハ其上半ガ特有ナル點ヲ有スルガ故ナリ。特有ナル點トハ椎體ノ上端ヨリ上方ニ向ツテ出デタル圓錐形ノ突起ニシテ之ヲ樞軸齒 The odontoid process of axis ト云ヒ其下部ハ稍細ク成リ且前後兩側ニ關節面ヲ有ス之ヲ前及ビ後關節面ト稱シ前關節面ハ載域前弓ノ後面ニ在ル關節面ト結合スル所ニシテ後關節面ハ載域橫韌帶ノ前面ニ接スル所ナリ。此樞軸齒ノ兩側ニハ載域ノ下關節面ト結合スル圓形ノ關節面アリ之ヲ上關節面ト云フ。他ノ椎骨ニ見ル所ノ上椎骨截痕及ビ上關節突起ハ存在セズ

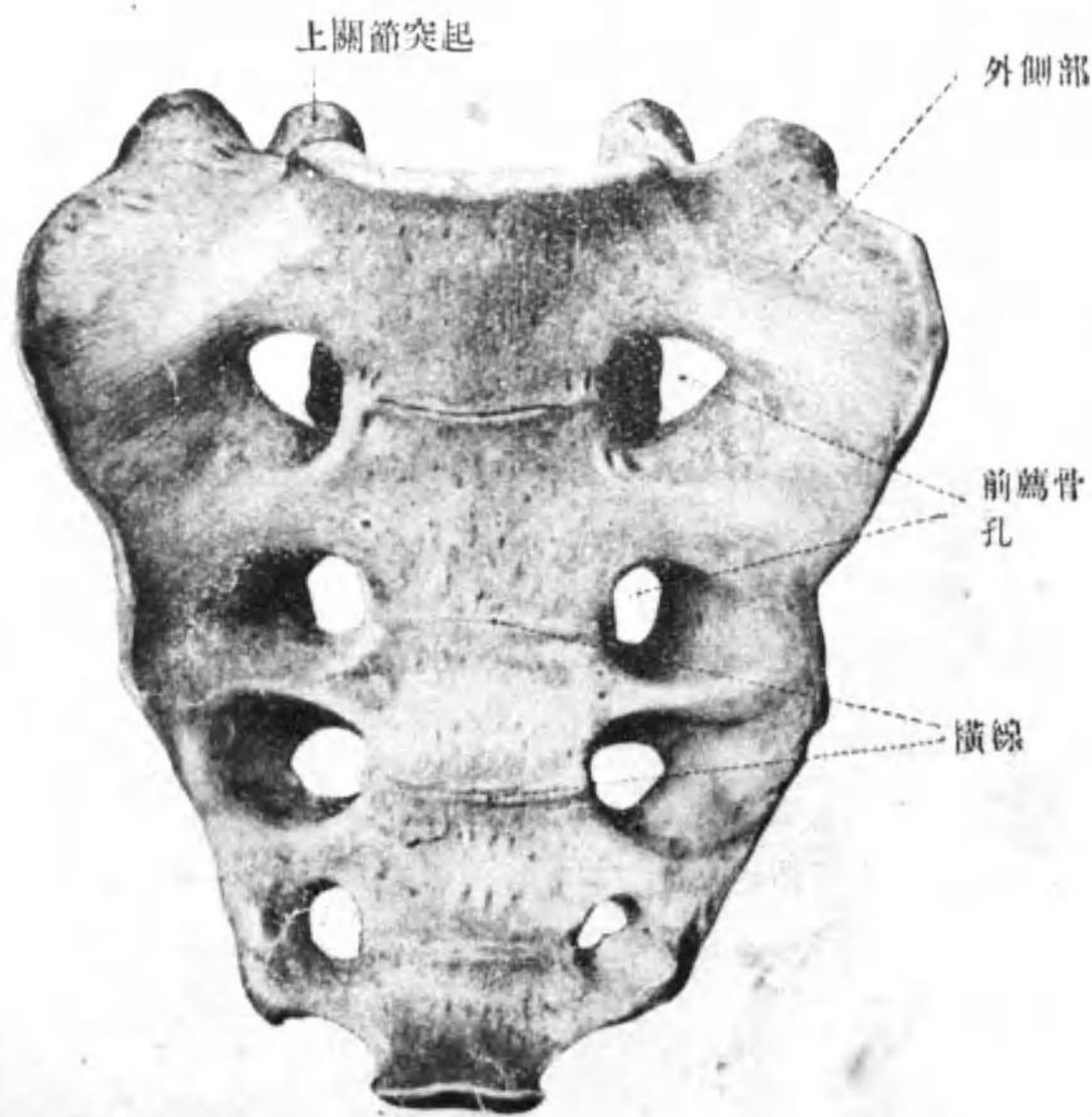
此骨ノ下半、橫突起及ビ棘狀突起ノ狀態ハ他ノ頸椎ニ於ケルト異ルコト無シ但シ棘狀突起ハ他ノ頸椎ニ於ケルヨリモ著シク強大ナリ

(b) 胸椎 The thoracic Vertebrae。胸椎ノ體ハ角ノ圓ク成レル三角柱ノ如キ狀ヲ爲シ其側面ノ後端ノ上下兩緣ニハ各一關節面ヲ有ス此者ハ胸椎ニ特有ナル點ノ一ニシテ肋骨小頭ト結合スル所ナリ此關節面ハ第二乃至第九胸椎ニ於テハ上下兩緣ニ各半個宛アリ之レ一肋骨小頭ガ二個ノ相隣在セル椎體及ビ其間ニ在

(by Rauber) 圖 一 十 第
面 側 ノ 域 載



(by Rauber) 圖 二 十 第
面 前 ノ 骨 薦



ル椎間軟骨ト結合スルカ故ニシテ其他ノ四胸椎中第一胸椎ハ上端ニ一個ノ完全ナル者及ビ下端ニ半分ノ者即チ合計一個半ノ關節面ヲ有ス其故ハ第一肋骨ガ第一頸椎體ノ上縁ノミト結合スルガ故ナリ。第十胸椎ハ上縁ニ半分ノ關節面ヲ有スルノミ之レ肋骨小頭ガ椎體ニ附着スル所ハ下方ノ者程漸次ニ餘計下方ノ椎骨ニ附着スル様ニ成リ其結果トシテ第十一肋骨ハ第十胸椎ニハ附着セズシテ第十一胸椎ノミニ附着スル様ニ成レルカ故ニシテ第十一及ビ第十二胸椎ハ中央部ノ高サニ近キ所ニ一個ノ完全ナル關節面ヲ有ス

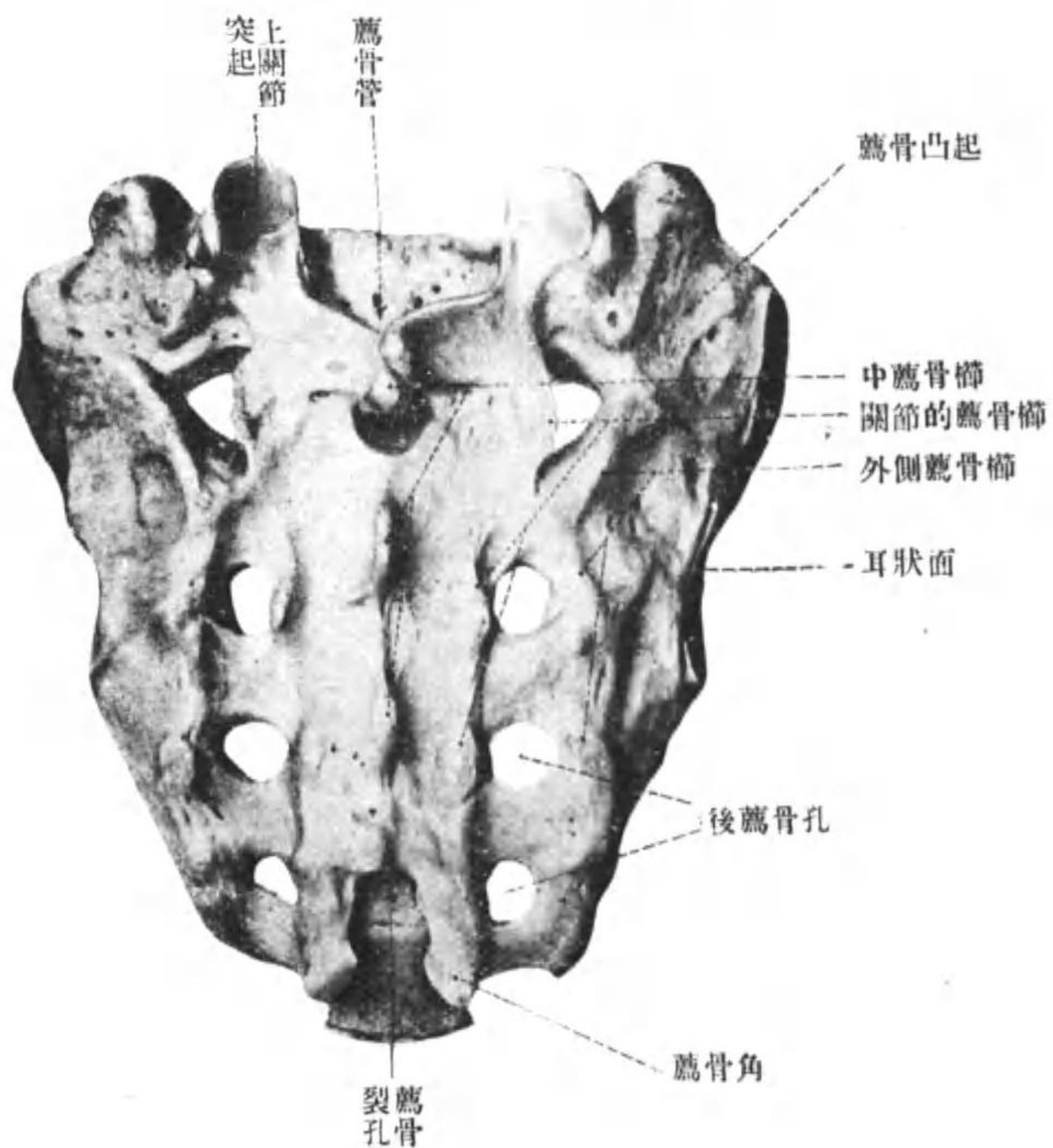
第二ノ特有ナル點ハ横突起ノ状態ニシテ此者ノ外側端ノ前面ニハ肋骨結節ト結合スル關節面ヲ有ス但シ此關節面ハ第十一及ビ第十二胸椎ノ横突起ニハ無シ之レ此二胸椎ニ於テハ肋骨ト關節ニ依リ結合セズシテ只靱帶ノミニ依リ結合セルカ故ナリ又此横突起ハ肋骨ガ長大ト成ル間即チ第一胸椎ヨリ第九胸椎ニ至ル迄ノ間ハ漸次ニ長大ト成レドモ其後ハ肋骨カ小ト成ルニ隨ヒ短ク成リ其レト同時ニ其形狀腰椎ノ横突起ニ類似シ最下ノ横突起ニ於テハ腰椎ノ横突起ニ於ケルガ如クニ内外下ノ三結節ニ分ル

頭蓋骨

第三ノ特有ナル點ハ棘狀突起ニシテ此者ハ他部ノ椎骨ニ屬スル棘狀突起ニ比スレバ著シク長ク斜メニ後下方ニ向ツテ下リ屋瓦狀ニ重リ胸部ノ中央ノ高サニ在ル棘狀突起ニ於テハ相互ノ間ニ少シモ間隙ヲ殘スコト無キモ其レヨリ上方ニ行クニ隨ヒ漸次ニ頸椎ノ棘狀突起ノ形ニ似下方ニ行クニ隨ヒ腰椎ノ棘狀突起ノ形ニ似ルニ至ルヲ以テ漸々ニ水平ノ位置ニ近ヅキ隨ツテ相互ノ間ニ多少間隙ヲ生ゼリ其他ノ點ニ就キテハ略ス

(c) 腰椎 The lumbar vertebrae 此者ノ體ハ頸椎及ヒ胸椎ノ體ヨリモ大ニシテ横断面ニテハ横橢圓形或ハ大豆形ヲ有ス之レ頸椎及ヒ胸椎ヨリモ餘計ノ重量ヲ荷フ必要有ルガ故ナリ此腰椎ニ最モ特有ナル者ハ頸椎ト同ジク横突起ニシテ頸椎ニ於ケルガ如クニ肋骨ト固有ノ横突起トガ癒合シテ出來タル者ナリ而シテ此横突起ハ腰部ニ於テハ頸部及ヒ胸部ヨリモ筋ガ宜ク發育セルガ故ニ宜ク發育シ且三部ニ分ル其上方ニ向ツテ出テタル者ヲ乳頭突起 The annular processト稱シ上關節突起ノ後側ニ附着ス下方ニ向ツテ出ヅル者ヲ副突起 The accessory processト稱シ横突起ノ基部ヨリ出ツ外方ニ向ツテ出ヅル者ハ固有ノ横突起

(by Rauber) 圖三十第
薦骨ノ後面



(by Rauber) 圖四十第
尾閭骨



ニシテ三部中最モ長シ。棘狀突起ハ脊柱ノ他部ノ者ヨリモ強大ナレトモ短ク且左右ニ扁平ニシテ殆ンド水平ニ後方ニ向ツテ出ヅ随ツテ相互ノ間ニ稍廣キ間隙ヲ有ス

(2) 假椎 The false Vertebrae

之ニ屬スル骨ニハ前述ノ如ク薦骨及ビ尾閭骨或ハ尾骶骨ノ二アリ

(a) 薦骨 The sacrum。此者ハ既述ノ如ク五個ノ薦椎ガ癒合シテ出來タル者ニシテ其形ハ楔狀或ハ杓子狀ヲ爲シ上端ハ厚廣ナレドモ下方ニ至ルニ隨ヒ薄狹ト成レリ。此者ニハ前面或ハ骨盤面、後面或ハ背面、基底、頂及ビ兩側縁ノ五ヲ區別シ内部ヲ薦骨管 The sacral canal ガ貫通セリ。就中前面或ハ骨盤面ハ一般ニ陷凹シ其中央部ニ四横線ヲ示ス此線ハ五個ノ薦椎ガ互ニ癒合シタル所ヲ示ス者ナリ。此線ノ兩端ニハ各一孔アリ之ヲ前薦骨孔 The anterior sacral foramen ト稱ス。後面或ハ背面ハ一般ニ凸面ヲ呈シ前面ニ比スレバ甚ダ不平坦ナリ之レ棘狀突起、關節突起、横突起及ビ此等ノ者ヲ互ニ結合セル靱帶ニ當レル突起ガ存在セルガ故ナリ而シテ關節突起及横突起ニ當レル突起ノ間ニハ縦ニ並ベル四孔アリ之ヲ

頭蓋骨

後薦骨孔 The posterior sacral foramina ト稱シ前薦骨孔ニ連レリ而シテ前薦骨孔及

ビ後薦骨孔ハ共ニ神經及ビ血管ガ通過スル所ナリ

基底ハ上端ヲ占メ其中央ニ橢圓形ノ面アリ之レ第一薦椎ノ體ニ當ル所ニシテ第五腰椎ノ體ノ下面ト結合ス此面ノ後側ニハ一大孔アリ之レ薦骨管ノ入口ナリ又此孔ノ兩側ニハ上方ニ出ヅル一突起アリ之レ第一薦椎ノ上關節突起ニシテ第五腰椎ノ下關節突起ト結合ス頂ハ下端ヲ占メ横橢圓形ノ面ニ依リ尾閥骨ノ上面ト結合ス

外側部ハ前後ノ兩薦骨孔ヨリ外側ニ在ル部ニシテ横突起、肋骨ノ遺物及ビ此等ノ者ヲ互ニ連結セル靱帶ガ化骨シ且癒合シテ出來タル者ナリ此部ノ上部ニハ耳狀ノ大關節面アリ之ヲ耳狀面 The auricular surface ト稱シ腸骨ノ同名面ト結合スル所ナリ

薦骨管ハ脊椎管ノ下端ノ薦骨内ヲ走レル部分ニシテ其下端ハ薦骨ノ後面ノ下端ニ近キ所ニ在ル裂孔狀ノ孔ニ開ケリ此孔ヲ薦骨裂孔 Hiatus sacralis ト稱ス

(b) 尾閥骨或ハ尾骶骨 The coccyx. 此骨ハ脊柱ノ下端ヲ爲ス者ニシテ甚シク萎

縮シタル椎骨ヨリ成リ其數ハ不定ニシテ三乃至六個アリ其形狀ハ第一尾閥椎ハ稍一般ノ椎骨ニ似タル形狀ヲ有スルモ其他ノ者ハ唯一小骨塊ヲ爲スノミ。

脊柱全體ニ就テ The spinal column in general.

脊柱ハ軀幹ノ主要ナル支柱ヲ爲ス者ニシテ上述ノ數多ノ椎骨カ椎間軟骨及ビ靱帶ニ依リ互ニ結合セラレテ出來タル者ナリ其狀態ハ鉛直ナラズシテ蛇行狀ニ彎曲シ其彎曲狀態ハ頭部及ビ腰部ノ如キ體壁ノ前部カ柔軟組織ヨリ成レル所ニ於テハ凸面ヲ前方ニ向ケルタル彎曲ヲ爲シ胸部及ビ薦骨部ノ如ク體壁ガ全體骨ヨリ成レル所ニ於テハ凸面ガ後方ニ向ヘル彎曲ヲ爲ス而シテ此等ノ諸彎曲ハ一般ニ弓狀ヲ爲シ互ニ移行スレドモ腰部ノ下端ト薦骨部ノ上端トノ間ニ於テハ例外ニシテ角ヲ爲シテ前ニ突出セリ此處ヲ岬角 (Promontory) ト稱シ産科婦人科學上ニハ甚ダ重要ナル所ナリ此ノ如キ脊柱ノ彎曲ハ八歳方直立シテ歩行スルニ至リタル後初メテ體ノ重力平均ヲ保ツ爲ニ出來タル者ナリ之レ初生兒及ビ胎兒ニ於テハ上述ノ如キ彎曲無ク只後方ニ向ツテ凸面ヲ呈セル一彎曲ガ存在スルノミナルガ故ニ明ナリ。

軀幹骨

軀幹骨

脊柱ヲ作ル諸椎骨ハ最上ノ者ヨリ下方ニ至ルニ隨ヒ漸次ニ大キク成レリ之レ下方ノ者程餘計ノ重量ヲ荷フ必要有ルガ故ニシテ其他脊柱ノ下端ハ上方ニ向ツテ漸次ニ退化セリ之レ尾閶骨及ヒ薦骨ノ下部ガ著シク萎縮シ且ツ尾閶椎ノ數ガ不定ナルガ故ニ明ニシテ胎生學上ヨリ見ルモ容易ニ之ヲ證明スルコトヲ得即チ胎生期ニ於テハ尾有レドモ此者ハ漸次ニ萎縮スルガ故ニ生ルル頃ニハ全ク消失セリ。

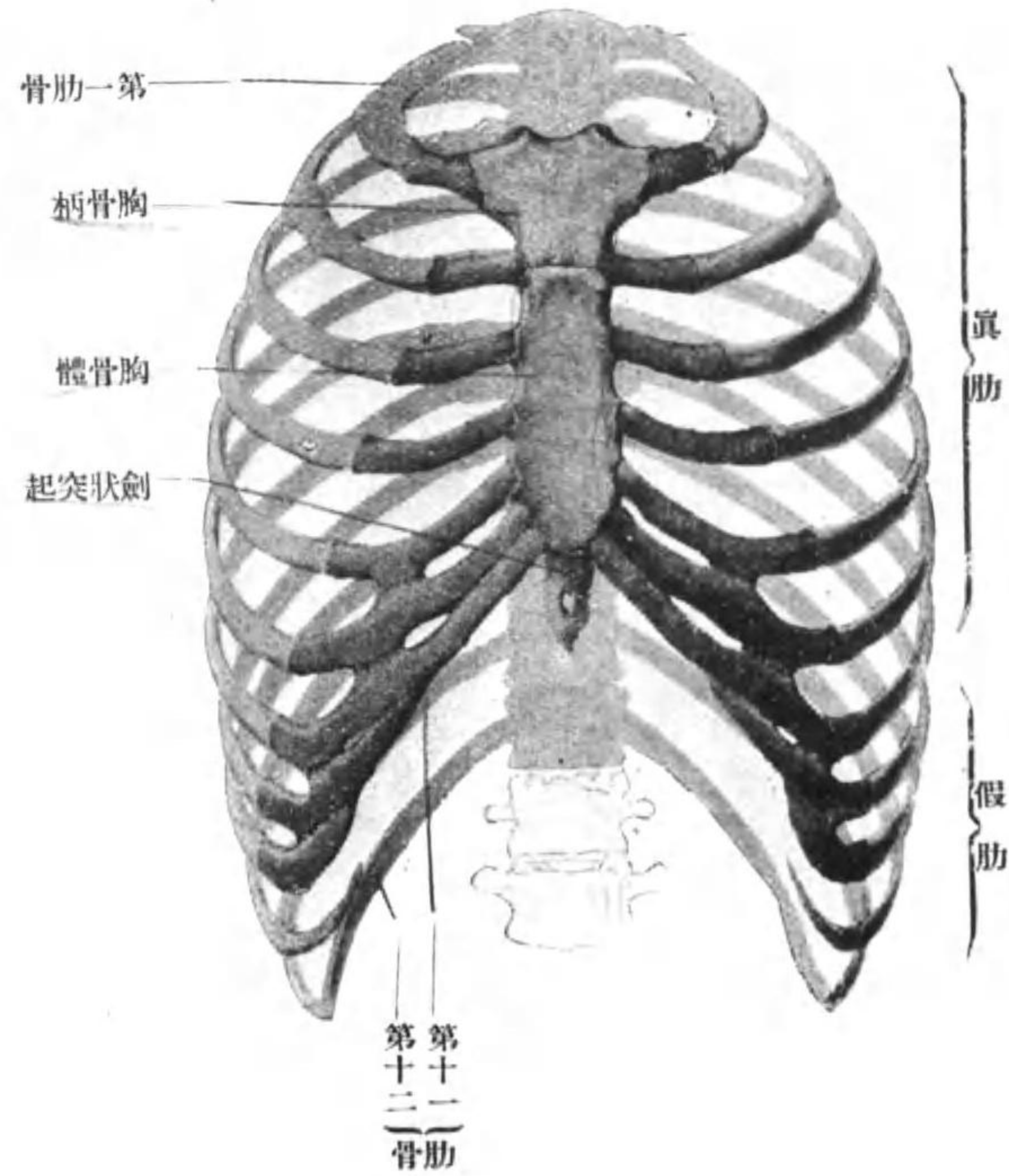
(1) 胸骨 The Sternum

此者ハ胸廓前側ノ正中線ニ在ル扁平骨ニシテ之ニ胸骨柄、胸骨體、及ヒ劍狀突起ノ三部ヲ區別ス。

胸骨柄 Sternal manubrium ハ上端ノ最大ナル部分ニシテ其上緣ニ三個ノ截痕ヲ有ス其中央ノ者ヲ頸截痕ト云ヒ皮膚上ヨリ觸ル、コトヲ得其兩側ニ在ル者ヲ鎖骨截痕ト云ヒ鎖骨ノ前端ト結合スル所ナリ、鎖骨截痕ノ下ニ一截痕アリ之ヲ肋骨截痕ト名ケ第一肋骨ノ前端ト結合スル所ナリ。

胸骨體 Sternal gladiosus ハ胸骨柄ノ下ニ在ル細長ナル部分ニシテ其兩側緣ニ各

第五十圖



胸廓前側ヨリ見タル者

六個ノ截痕ヲ有ス此者ハ肋骨截痕ニシテ第二乃至第七肋骨ト結合スル處ヲ爲ス此等ノ諸肋骨截痕中最上ノ者即チ第二肋骨ト結合スル所ハ胸骨柄ト胸骨體トノ中間ニ位シ最下ノ者即チ第七肋骨ト結合スル所ハ胸骨體ト劍狀突起トノ間ニ位ス。

劍狀突起^① Xiphoid ハ胸骨ノ下端ヲ占メ其形狀ハ不定ナレドモ多クハ匙狀ヲ爲シ孔ニ依リ貫カル、コト或ハ裂ケテ左右ノ二部ト成レルコトアリ。

(11) 肋骨 The Ribs.

此骨ハ扁平ナル長骨ニシテ胸廓ノ兩側壁ヲ爲ス其數ニハ十二對有リテ上下ニ列ベリ之ニ眞肋 True ribs 及ビ假肋 False ribs ノ二種ヲ區別ス。眞肋トハ其前端ガ直接ニ胸骨ト結合セル者ニシテ上方ニ在ル七對ノ肋骨ガ之ニ屬ス、假肋トハ之ニ反シテ其前端ガ直接ニ胸骨ト結合セザル者ニシテ下方ニ在ル五對ノ肋骨ガ之ニ屬ス此五對ノ肋骨中上方ニ在ル三對ハ前端ニ在ル軟骨ヲ以テ相互及ビ第七肋骨ノ軟骨ト結合シ之ニ依リテ間接的ニ胸骨ト結合スレドモ最下ノ二對ハ其前端ガ游離シテ終レリ故ニ此最下ノ二對ヲ浮動肋骨或ハ浮肋 Floating ribs

ト云フ。

各肋骨ニハ骨部ト軟骨部トノ二部ヲ區別ス骨部トハ後方ニ在ル大部分ヲ占ムル部軟骨部トハ前方ニ在ル小部分ヲ占ムル所ナリ。又各肋骨ニハ後端或ハ椎骨端體及ビ前線或ハ胸骨端ノ三部ヲ區別ス。

後端或ハ椎骨端ハ胸椎ト結合スル所ニシテ其端ハ稍膨大セリ之ヲ肋骨小頭。Head of rib ト稱シ其次ノ部ハ細ク成レリ此處ヲ肋骨頸 The Neck ト稱シ尙其次ノ部ハ再ビ稍膨大セリ之ヲ肋骨結節 The tubercle ト稱シ其先キハ體ニ移行セリ。肋骨小頭ニハ一關節面アリ之ヲ肋骨小頭關節面ト稱シ椎體ニ連ル面ニシテ第一第十一及ビ第十二ノ三肋骨ニ於テハ單一ナル關節面ヲ爲セトモ其他ノ者ニ於テハ橫楯ニ依リ上下ノ二部ニ分タル之レ第一第十一及ビ第十二ノ三肋骨小頭ハ唯一個ノ椎體及其間ニ在ル椎間軟骨ト結合スルガ故ナリ又肋骨結節ハ第十一及ビ第十二ノ二肋骨ノ外ハ皆關節面ヲ有ス之レ胸椎ノ橫突起ニ在ル關節面ト結合スル所ナリ。

肋骨體ハ肋骨ノ大部分ヲ占メ扁平ニシテ其上緣ハ圓ク下緣ハ之ニ反シテ銳

第 十 六 圖
肋 骨



ナリ此下縁ノ内面ニ溝ヲ有ス之ヲ肋骨溝 Sulcus costae(英肋骨下溝 Subcostal groove)ト云ヒ肋間神經及ビ肋間動靜脈ノ通過スル所ナリ。其他體ノ後部ハ外方ニ向ツテ凸面ヲ呈セル彎曲ヲ爲ス之ヲ肋骨角 Angle of ribト稱ス。

前。端。ハ。胸。骨。端。ノ。兩。側。縁。ニ。在。ル。肋。骨。截。痕。ト。結。合。ス。ル。所。ニ。シ。テ。軟。骨。部。ヨ。リ。成。レ。リ。

肋骨ノ長サハ第一ヨリ第七或ハ第八ニ至ル迄ハ漸次ニ増加シ其レヨリ後ハ再ビ減少ス又各肋骨ハ後上方ヨリ斜ニ前下方ニ向ツテ走ル者ニシテ其前端ノ胸骨ニ近キ所ハ角ヲ爲シテ稍上方ニ昇レリ此角ヲ爲ス所ハ第一第二ノ二肋骨ニ於テハ軟骨部ト骨部トノ境ニシテ其他ノ肋骨ニ於テハ軟骨部ニ在リ。

以上ハ肋骨一般ニ就キテ述べタル者ニシテ各肋骨ハ多少特有ノ點ヲ有スレトモ略ス。

(四)胸廓 The Thorax.

胸廓ハ十二個ノ胸椎、十二對ノ肋骨及ビ一個ノ胸骨ヨリ成リ其中ニ一大腔ヲ有ス之ヲ胸腔ト云フ。胸廓ノ形ハ之ヲ外面ヨリ見ル時ハ尖端ヲ上方ニ向ケタル

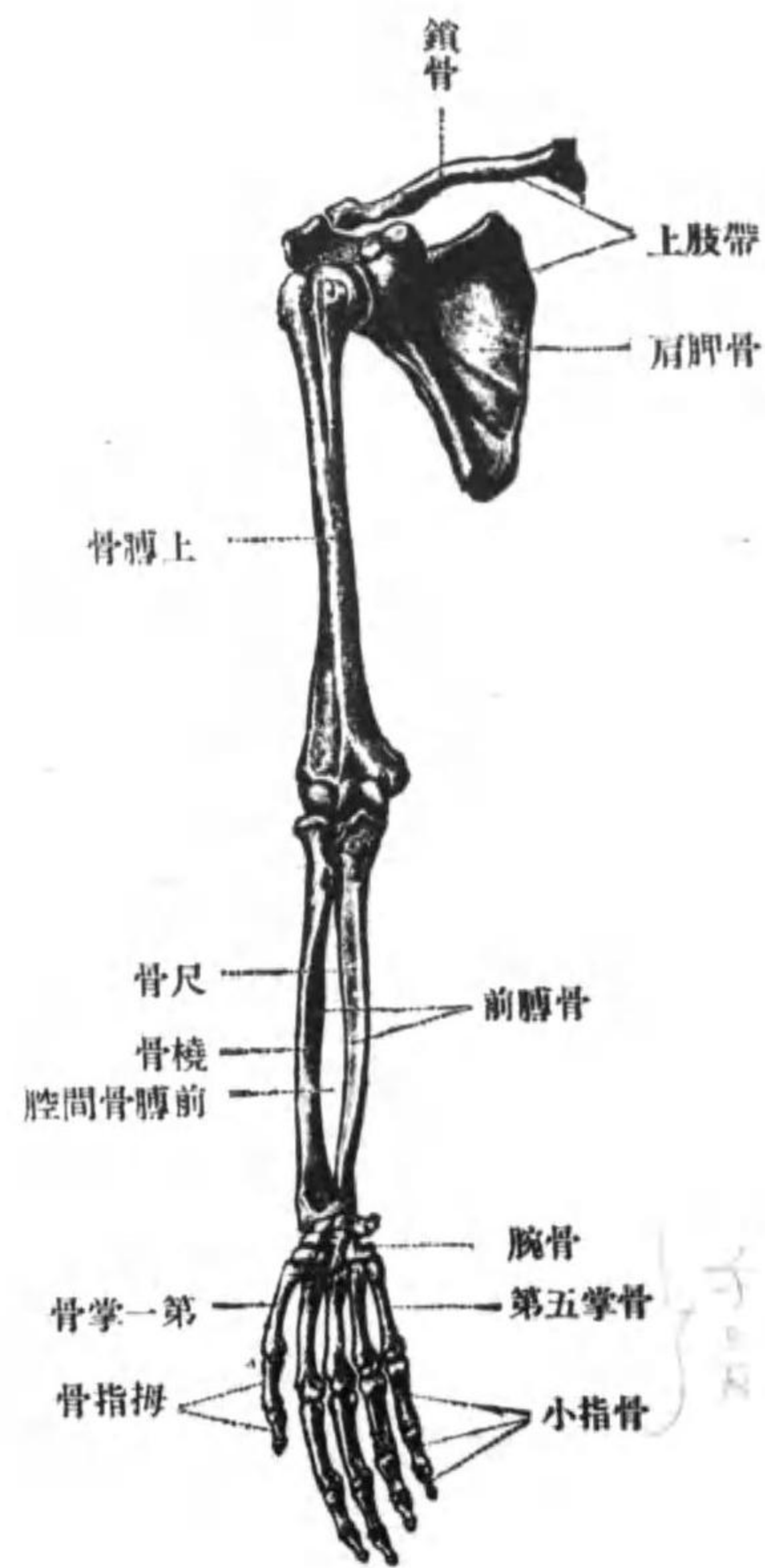
四肢骨

圓錐形ヲ爲シ横断面ニ就テ見ル時ハ脊椎體ガ前方ニ突出セルガ故ニ凹面ヲ後方ニ向ケタル大豆狀ヲ爲シ脊柱ノ兩側ニテハ肋骨角ノ所ガ後外方ニ向ツテ膨出セルガ故ニ溝ヲ生ズ之ヲ肺溝 Pulmonal groove ト稱シ其中ニ肺臟ノ一部ヲ容ル胸廓ハ其上下兩端ニ各一ノ入口ヲ有ス其上方ニ在ル者即チ胸腔上口ハ第一胸椎第一對ノ肋骨及ビ胸骨柄ノ上緣ヨリ境セラレ其ノ前緣ハ後緣ヨリモ著シク下リテ第二胸椎ノ下緣ノ高サニ在リ之レ胸骨ノ上緣カ第一胸椎ノ上緣ヨリモ著シク下レルカ故ナリ。下方ニ在ル者即チ胸腔下口ハ上口ヨリモ著シク大ニシテ第十二胸椎第十二肋骨第十一胸骨ノ尖端第十乃至第七肋軟骨ヨリ成レル肋骨弓及ビ胸骨ノ下端ヨリ境セラレ而シテ胸骨ノ下端ニハ兩側ノ肋骨弓ノ間ニ角アリ之ヲ胸骨下角ト稱ス。其他各肋骨ノ間ニハ裂溝狀ノ間隙アリ之ヲ肋間腔ト稱シ肋間筋及ビ肋間韌帶ニ依リ閉塞セララル。

第三章 四肢骨 The Bones of the Extremitys.

四肢骨ニハ上肢骨及ビ下肢骨ノ二種ヲ區別ス。

第七十圖 上肢



(甲) 上肢骨 The Bones of the upper Extremity.
 此者ニハ更ニ上肢帶、上膊骨、前膊骨及ヒ手骨ノ四種ヲ區別ス。

(一) 上肢帶 *Cingulum extremitas sup.*

此者ニハ肩胛骨及ヒ鎖骨ノ二骨ガ屬セリ。

(a) 肩胛骨 *The Scapula.*

此者ハ胸廓ノ後側ニ於テ第二乃至第六肋骨ノ高サニ位スル三角形ノ骨ニシテ此尖端ハ下方ニ向フ。之ニ前後ノ二面ヲ區別ス其後面ニハ高キ横隆起存在ス之ヲ肩胛棘 *Scapular spine* ト稱シ外側ニ至ルニ從ヒテ高クナリ其外端ハ著シク突出ス此者ヲ肩峰突起 *Acromion (Process)* ト名ケ其前縁ヲ以テ鎖骨ノ外側端ト結合ス。此肩胛棘ニヨリテ肩胛骨ノ後面ハ上下ノ二部ニ分タル其ノ上部ヲ棘上窩 *Supraspinous fossa* 下部ヲ棘下窩 *Infraspinous fossa* ト名ク共ニ同名筋ノ起ル所ナリ前面ハ一般ニ凹陷ス之ヲ肩胛下窩 *Supscapular fossa* ト名ケ同名筋ノ出ヅル所ヲ爲ス。其外此骨ノ外上角ニハ上膊骨頭ト結合スル所アリ之ヲ肩胛髁或ハ肩胛骨頭 *Condylus or capitulum scapulae* ト名ケ其外側ニ上膊頭ト結合スル橢圓形ノ關節面ヲ

有ス之ヲ關節窩 *Glenoid cavity* ト云フ肩胛骨頭ノ上側ヨリハ一突起出デ初メニハ上方ニ出テ次ニハ外方ニ屈曲ス此ヲ烏喙突起 *Coracoid process* ト名ケ數多ノ筋及ビ靱帶ガ附着スル所ヲ爲ス。

(b) 鎖骨 *The Clavicle.*

此者ハS字狀ニ彎曲セル長骨ニシテ胸廓ノ上端ノ前側ヲ横走シ其内側端ヲ以テ胸骨柄ト結合シ外側端ヲ以テ肩胛骨ノ肩峰突起ト結合ス。

(二) 上膊骨

此者ニハ次ノ一個ガ屬スルノミ。

上膊骨 *The Humerus.*

此者ハ一個ノ管狀骨ニシテ之ニ上下ノ兩端及ビ中央部ノ三部ヲ區別ス。

上端ニハ上内方ニ向ツテ出タル球狀部アリ此ヲ上膊骨頭 *head* ト名ケ肩胛骨ノ關節窩ニ連ル所ナリ其下部ニハ骨ノ稍々細クナリタル所アリ之レヲ解剖頸 *Anatomical neck* ト云フ尙其下側ニ二突起アリ之ヲ大結節及ビ小結節 *Greater and lesser tuberosity* ト名ケ共ニ筋肉ノ附着スル所ニシテ大結節ハ後側小結節ハ前側

ニ位ス。

下端ニハ内側ニ圓柱狀ノ關節面アリ此ヲ上膊骨滑車 *Trochlea* ト名ケ尺骨ノ半月狀截痕ト結合スル所ナリ其ノ外側ニハ球狀ノ關節面アリ之ヲ上膊骨小頭 *Capitulum* ト名ケ橈骨小頭ト結合スル所ナリ此二者ノ上側ニ於テ前面ニハ二陷凹部アリ其滑車ノ上ニ存在スルモノヲ烏喙窩 *Coronoid fossa* ト名ケ尺骨ノ烏喙突起ノ入ル所ニシテ小頭ノ上ニアル部分ヲ橈骨窩 *Radial fossa* ト名ケ橈骨小頭ノ入ル所ナリ後面ニハ滑車ノ上ニ一大陷凹部存在ス之ヲ鷹嘴窩 *Olecranon fossa* ト名ケ尺骨鷹嘴突起ノ入ル所ナリ其他此部ノ兩側ニハ骨ノ著シク突出セル部分アリ之ヲ内髁及ビ外髁 *Internal and external condyle* ト稱シ内髁ハ外髁ヨリ大ニシテ其後側ニ尺骨神經ノ通ズル溝即チ尺骨神經溝ヲ有ス。中央部ニ就キテハ略ス。

(三) 前膊骨

此者ニハ尺骨及ビ橈骨ガ附屬ス。

(a) 尺骨 *The Ulna.*

四肢骨

此者ハ前膊ノ内側ニ位スル長骨ニシテ之ニモ上下ノ兩端及ビ中央部即チ體ノ三部ヲ區別ス。

上端ニハ前後兩側ニ突出部存在ス其ノ前側ニアルモノヲ鳥喙突起 *Coronoid Process* 後側ニアル者ヲ鷲嘴突起 *Olecranon Process* ト名ケ此二突起間ニ半月狀陷凹部存在ス之ヲ半月狀截痕 *Incisura semilunaris* (英大S字狀窩 *Greater sigmoid cavity* ト名ケ上膊骨滑車ト結合スル所ナリ。鳥喙突起ノ外側ニハ橈骨小頭ト結合スル陷凹部アリ之ヲ橈骨截痕 *Incisura radialis* (英小s字狀窩 *Lesser sigmoid fossa*) ト稱ス、鷲喙突起ノ下方ニハ上膊筋ガ附着スル粗面即チ尺骨凸起 *Tuberositas ulnae* 存在ス。下端ハ圓形ヲナシテ終ル此處ヲ尺骨小頭 *Capitulum ulnae* ト稱シ其内側部ニハ一突起存在ス之ヲ莖狀突起 *Styloid process* ト名ケ外側ニハ橈骨ノ下端ト結合スル環狀ノ關節面アリ。中央部即チ體ニ就キテハ略ス。

(b) 橈骨 *The Radius*

此骨モ長骨ニシテ前膊ノ外側ニ位ス之ニ上下ノ兩端及ビ體ノ三部ヲ區別ス。上端ハ圓形ヲナス此處ヲ橈骨小頭 *Head* ト名ケ稍々陷凹シタル關節面ニヨリ

上膊骨小頭ト結合ス。此橈骨小頭ノ内側ニハ環狀關節面アリテ尺骨ノ上端ニ在ル橈骨截痕ト結合ス。橈骨小頭ヨリ稍々下前側ニハ二頭膊筋ノ附着スル凸起即チ二頭膊筋凸起アリ。

下端ハ上端ヨリモ著シク太ク其下面ニ腕骨或ハ手根骨ト結合スル關節面ヲ有ス之ヲ腕骨關節面ト稱ス。此端ノ外側部ニハ下方ニ向ヒテ出タル突起アリ之ヲ莖狀突起 *Styloid process* ト稱シ内側ニハ尺骨ノ環狀關節面ヲ入ルル陷凹部存在ス之ヲ尺骨截痕 *Incisura ulnaris* ト云フ體ニ就キテハ別ニ云フベキ程ノ者ナシ。

(四) 手骨 *The Bones of Hand*

此者ニハ手根骨或ハ腕骨、中手骨或ハ掌骨、及ビ指骨ノ三部ヲ區別ス。

手根骨或ハ腕骨 *The Carpus*。此者ニハ八個アリテ二列ヲナス之ヲ橈骨側ヨリ數フレバ其ノ第一列ニハ舟狀骨 *Scaphoid* 月狀骨 *Semilunar* 三角骨 *Triquetrum* (英 *Cuneiform*) 豆骨 *Pisiform* 第二列ニハ大多稜骨 *Multangularium majus* (英 *Trapezium*) 小多稜骨 *Multangularium minus* (英 *Trapezoid*) 有頭骨 *Capitatum* (英 *Magnum*) 及ビ有鉤骨 *Hamulus* (英 *Unciform*) アリ。此等ノ諸骨ハ互ニ結合シタル時ハ背側ハ凸面掌側ハ凹面ヲ呈

四肢骨

四肢骨

ス其ノ凹面ノ兩側ニ突起アリ此突起ノ橈骨側ニ存在スルモノヲ橈骨側腕骨隆起 *Eminentia carpi ulnaris* ト名ケ前者ハ舟狀骨及ビ大多稜骨ノ掌側ニアル突起ヨリ成リ後二者ハ豆骨ト有鈎骨ノ掌側ニ在ル突起即チ有鈎骨鈎ヨリ成ル。而シテ兩側ノ隆起間ハ溝ヲナス此者ヲ腕骨溝ト名ケ靱帶ノ緊張シタル時ハ腕骨管トナリ指ヲ屈スル筋及ビ正中神經ヲシテ其内ヲ通ゼシム。

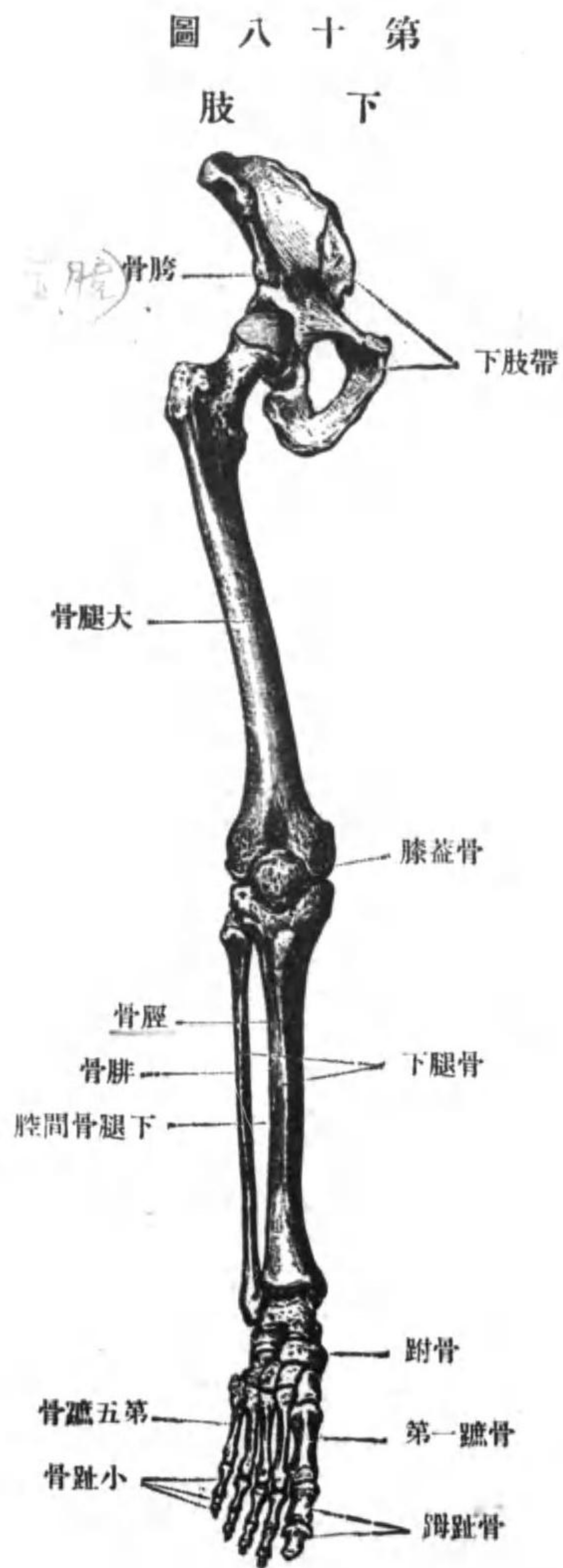
中手骨或ハ掌骨 *The metacarpus*。此者ニハ五個アリテ皆長管狀骨ニ屬シ第一掌骨ハ大多稜骨ト結合シ第二第三掌骨ハ小多稜骨有鈎骨ト結合シ第四第五掌骨ハ有鈎骨ト結合ス。

指骨 *The Phalanges*。此者ハ拇指ヲ除ク外ハ三節ヨリナリ拇指ノミハ二節ヨリナル即チ拇指ニハ中楯ヲ缺ケリ。

(2) 下肢骨 *The Bones of the lower Extremity.*

此者ニハ下肢帶、大腿骨、下腿骨、足骨ノ四種ヲ區別ス。

(1) 下肢帶 *Ingulum extremitas inferior.*



下肢帶ハ下肢ヲ薦骨ト結合セシムルモノニシテ左右各々一個存在ス此ヲ臑骨或ハ膀骨或ハ無名骨ト云フ。

臑骨或ハ膀骨又或ハ無名骨 The Hip-bone.

此骨ハ胎生學上ヨリ見ルトキハ腸骨、坐骨、及恥骨ノ三骨ガ結合シテ出來タルモノニシテ小兒ノ臑骨ニ於テハ尙軟骨ニヨリ結合セラレドモ大人ニ於テハ軟骨ハ化骨スルガ故ニ骨ニヨリ互ニ結合スルニ至ル。

此三骨ガ合シタル所ノ外面ニハ深キ半球狀ノ陷凹部アリ之ヲ髀臼 Acetabulum ト名ツケ大腿骨頭ノ嵌入スル所ナリ其下部ニ一大孔アリ之ヲ閉鎖孔 Obturator foramen ト云ヒ新鮮ナル骨ニ於テハ其大部分ハ閉鎖膜ニヨリ閉鎖セラル。尙此臑骨ヲ作ル三骨ニ就テ述ブレバ。

(a) 腸骨 Ilium.

腸骨ハ三骨中ノ最大ノ者ニシテ臑骨ノ上部ヲ占ム。之ニ内外ノ二面ヲ區別ス外面ハ臀筋ノ附着スル所内面ハ腸骨筋ノ附着スル部ナリ。此腸骨筋ガ附着スル所ノ後部ニハ耳狀ノ關節面アリ此ヲ耳狀面 Auricular surface ト名ツケ薦骨ノ耳

四肢骨

狀面ト結合スル所ナリ又内面ノ下部ニハ耳狀面ヨリ始マリ斜ニ前下部ニ走行セル線アリ此ヲ弧形線或ハ弓狀線 *Linea arcuata* (英 *Ilio-pubic ridge*) ト云ヒ其前縁ハ耻骨ノ上縁ニ連レリ。其他此骨ノ上縁ハ之ヲ腸骨櫛 *Crista iliaca* ト稱シ其前後兩端ハ尖レリ其前側ニアルモノヲ上、前、腸、骨、棘、及下、前、腸、骨、棘、ト云ヒ後側ニアルモノヲ上、後、腸、骨、棘、及下、後、腸、骨、棘、ト云フ。

(b) 坐骨 *Ischium*.

此骨ハ臑骨ノ後下部ヲ占メ坐スル時物體ニ接スル部分ナリ此坐骨ノ後下端ハ著シク肥厚シ且粗面ヲ呈ス此ヲ坐骨隆起ト云ヒ多クノ筋肉及靭帶ノ附着スル所ナリ。此者ノ上側ニテ後方ニ向テ尖銳ナル突起アリ此ヲ坐骨棘 *Spina ischia-dica* ト名ツケ薦坐棘靭帶ノ附着スル所ナリ。後腸骨棘ト坐骨隆起トノ間ハ一般ニ凹面ヲ呈ス此ヲ坐骨截痕 *Incisura ischiadica* ト云ヒ坐骨棘ニヨリテ上下ノ二部ニ區分セラル其上部ヲ大坐骨截痕下部ヲ小坐骨截痕ト云フ。

(c) 耻骨 *Pubes*.

此骨ハ臑骨ノ前下部ヲ占メ其前側ニ關節面アリ此ヲ耻骨聯接面 *Symphysial*

surface ト云ヒ兩側ノ耻骨ノ互ニ結合スル所ナリ又此耻骨ノ上縁ニハ稍々隆起セル部分存在シ其後端ハ弧形線ト連絡ス此ヲ耻骨櫛 *Pecten ossis pubis* ト云フ。

骨盤 *The Pelvis*.

骨盤ハ薦骨尾閏骨及兩側ノ臑骨ヨリナリ薦骨ト臑骨トハ耳狀面ニ依リ互ニ結合シ兩側ノ臑骨ハ耻骨聯接面ニヨリ互ニ結合ス。骨盤内部ノ腔即骨盤腔 *The Cavity of the Pelvis* ニハ上下ノ二部ヲ區別ス此二部ノ境界ハ第五腰椎ノ下縁ニ在ル岬角ヨリ初マリ弧形線及耻骨櫛ヲ通ゼル線ニシテ此線ヲ分界線 *Linea terminalis* ト云フ此分界線ヨリ上部ハ大骨盤 *Pelvis major* ト云ヒ腹腔ノ下部ヲナシ後部及兩側ハ骨ヨリナレドモ前部ハ柔軟組織ヨリナル。下部ハ小骨盤 *Pelvis minor* ト云ヒ骨盤ノ固有部ニシテ骨盤内臓ヲ藏ス而シテ其壁ハ全部骨ヨリ構成セラル。

(二) 大腿骨

此處ニハ次ノ骨アルノミ。

大腿骨 *The Femur*.

此骨ハ全身中ノ最大管狀骨ニシテ此ニ上下ノ兩端及中央部即體ノ三部ヲ區

四肢骨

四肢骨

別ス。

上端ニハ球狀部存在シ上内方ニ突出ス此ヲ大腿骨頭 Head ト名ケ臈骨ノ髌臼内ニ入ル所ナリ此頭ノ中央ヨリ稍々下方ニ大腿圓靱帶ノ附着スル小陷凹アリ。大腿骨頭ノ次ニ稍々細キ部分アリ此ヲ頸 Neck ト云ヒ尙其下側ニハ内外兩側ニ大ナル突起アリ外側ニアルモノヲ大轉子 Greater trochanter 内側ニアルモノヲ小轉子 Lesser trochanter ト名ツケ共ニ筋肉ノ附着スル所ナリ。體ハ圓柱狀ノ部分ニシテ其後側ニ σ 字狀線アリテ筋肉ノ附着スル所ヲ爲ス之ヲ粗糙線 Linea aspera ト云フ。下端ハ脛骨ト結合スル所ニシテ其下側ニハ二隆起アリ此ヲ内髌及外髌 Internal and external condyle ト云フ。其前側ニハ膝蓋骨ト結合スル面存在ス之ヲ膝蓋骨面ト云フ。又内外髌ノ上側ニハ稍骨ノ隆起セルモノアリ之ヲ内上髌及外上髌 Internal and external Epicondyle ト云フ。

膝蓋骨 Patella 此骨ハ四頭股筋ノ腱内ニ包マレタル一種子狀骨ニシテ其形狀ハ栗實形ヲナシ後面ニ在ル滑カナル面ヲ以テ大腿骨或ハ股骨ノ膝蓋骨

面ト結合ス。

(三) 下腿骨

此骨ニハ脛骨腓骨ノ二骨アリ。

(a) 脛骨 The Tibia.

此骨ハ下腿ノ内側ニ位スル管狀骨ニシテ腓骨ニ比シ著シク太シ之ニ上下ノ兩端及中央部即體ノ三部ヲ區別ス。上端ハ大腿骨ノ下端ト結合スル所ニシテ中央ニアル突起ニヨリ左右ノ兩半ニ分タル之ヲ内髌及外髌 Internal and external condyle ト云ヒ中央部ノ突起ヲ髌間隆起 Eminentia intercondyloidea ト云フ。内髌及外髌ノ邊緣ハ銳線ヲナス之ヲ髌下緣ト云ヒ其外後側ニハ腓骨ノ上端ト結合スル關節面存在ス。前側ニハ粗ナル隆起アリ之ヲ脛骨凸起 Tuberositas tibiae ト云ヒ膝蓋靱帶ノ附着スル所ナリ。體ハ殆ンド三角形ヲナシ其前角ハS字狀ニ曲リ皮下ニ突出ス。下端ハ其下面ニ足根骨ト結合スル關節面ヲ有シ其内側ニハ突起アリ此ヲ内髌 Internal malleolus ト云フ。外側ニハ腓骨ノ下端ヲ入ル、陷凹部アリ。

(b) 腓骨 The Fibula.

此骨ハ下腿ノ外側ニ位スル管狀骨ニシテ脛骨ニ比スレバ著シク細シ此者ニ

四肢骨

四肢骨

モ上下ノ兩端及中央部即體ノ三部ヲ區別ス。上端ハ稍々膨大スルヲ以テ腓骨、小頭ト云ヒ脛骨ノ上端ト結合スル關節面ヲ有ス。下端モ稍々膨大シ脛骨ノ下端ヨリモ少シ下方ニ突出ス之ヲ外踝 External malleolus ト云フ。

(四)足骨 The Bones of the Foot

足骨ニハ足根骨(跗骨)中足骨(趾骨)及趾骨ヲ區別ス。

足根骨或ハ跗骨 Tarsus.

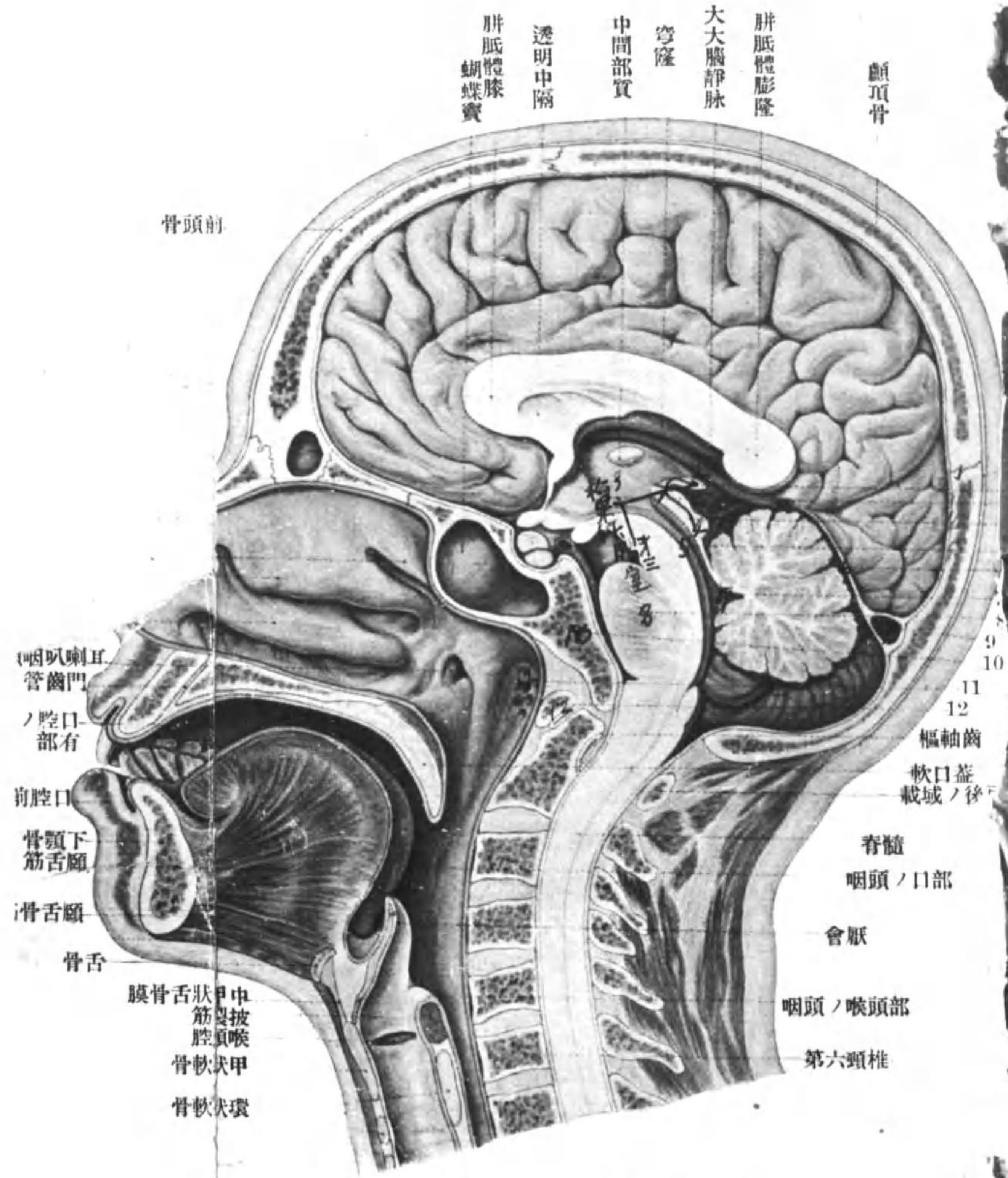
此骨ニハ距骨 Talus(英 Abtragalus)跟骨 Calcaneum 舟狀骨 Scaphoid 第一乃至第三楔狀骨 Cuneiform I-III 及骰子骨 Cuboid ノ七骨アリ此等ノ諸骨ハ手根骨ニ於ケルガ如ク二列ニ配列セズシテ距骨及ヒ跟骨ハ上下ニ重ナリ距骨ノ前側ニハ舟狀骨存在シ舟狀骨及跟骨ノ前側ニハ第一乃至第三楔狀骨及骰子骨ガ一列ニ配列ス、尙此處ニ在ル骨ニ就キ略述スレバ、

距骨ハ下腿骨ト足骨トヲ結合セシムルモノニシテ上下兩側及前側ニ關節面ヲ有ス其上側ニアル者ヲ距骨滑車 Trochlea tali ト云ヒ中央部及左右ノ兩側部ノ三部ニ分ル其中央部ハ脛骨ノ下端ニ存在スル關節面ト結合スル所ニシテ左右ノ兩

系統解剖學附圖

面 階 狀 矢 ル ケ 於 ニ 線 中 正 ノ 頭

(By Oskar Schulze)



- | | |
|-------------|--------------|
| 1 後 頭 骨 | 7 第 四 腦 室 |
| 2 松 毬 體 | 8 橋 體 |
| 3 第 三 腦 室 | 9 橫 竇 |
| 4 四 疊 體 | 10 斜 臺 |
| 5 大 腦 導 水 管 | 11 咽 頭 扁 桃 腺 |
| 6 小 腦 天 幕 | 12 載 域 / 前 弓 |

系 維 綱 階 學 樹 圖

側部ハ内髌及外髌ノ關節面ト結合スル所ナリ、下面ニ在ル者ハ跟骨ノ上面ト結合スル所、前側ニアル者ハ圓形ニシテ舟狀骨ノ後側ニアル關節面ト結合スル所ナリ。

跟骨ハ足ノ下後部ヲナス部分ニシテ著シク後方ニ突出ス其突起セル所ヲ跟骨隆起 *Tuber calcanei* ト云ヒ踵ヲ生ズル所ニシテ其下面ハ内外ノ二突起ニ分ル。此骨ニハ上面及前面ニ關節面アリテ上面ノモノヲ以テ距骨ト結合シ前面ノモノヲ以テ骰子骨ト結合ス。

舟狀骨ハ舟狀ヲナシ其後側ノ關節面ヲ以テ距骨ト結合シ前側ニアル關節面ヲ以テ第一乃至第三楔狀骨ト結合シ外側ニアル關節面ヲ以テ骰子骨ト結合ス。第一乃至第三楔狀骨ハ共ニ楔形ヲナシ後側ニアル關節面ヲ以テ舟狀骨ト結合シ前側ノ關節面ヲ以テ第一乃至第三趾骨ト結合シ第三楔狀骨ノ外側ノ關節面ヲ以テ骰子骨ト結合ス。

骰子骨ハ舟狀骨及第三楔狀骨ノ外側ニ位シ後側ノ關節面ヲ以テ跟骨ト結合シ前側ノ關節面ニテ第四及第五趾骨ト結合ス

四肢骨

中足骨或ハ蹠骨 Metatarsus 及趾骨 Phalanges.

此等ノ者ノ状態ハ中手骨及ヒ指骨ニ於ケルト全ク同一ナリ。

116

第二篇 關節及靱帶學 Articulation and Syndesmology

骨ハ結締織或ハ關節ニヨリ結合ス結締織ニテ結合セルモノヲ結合联接 Sy-
 narthrosis ト云ヒ結締織ノ量ニヨリ此ヲ縫合 Suture 及結締織聯合 Symplisis ノ二種
 ニ分ツ。縫合ハ結締織ノ量極メテ僅少ナルヲ以テ結合部ハ線狀ヲナス頭蓋骨ニ
 於ケルモノハ此種ニ屬ス此種ノ結合ニ於テハ骨ハ不動ナリ。結締織聯合ハ骨ヲ
 結合スル結締織ノ量稍々多キモノニシテ斯カル結合ヲナセル骨ハ稍々可動性
 ナリ。此結締織ハ種々ノ變化ヲ爲スモノニシテ完全ナル結締織ニテナル時ハ靱
 帶聯合 Syndesmosis ト云ヒ軟骨ニ變化セル時ハ軟骨聯合 Synchondrosis ト云フ。結締
 織ノ一部軟骨ニシテ一部分結締織ヨリナル時ハ此ヲ單ニ結締織聯合ト云フ
 骨ノ關節ニ依リ結合セラレタル者ヲ關節聯合 Diarthrosis ト云ヒ關節ヲ作ル骨
 端ノ一ハ凸面ヲ呈ジテ關節頭ヲナシ他ノ一ハ陷凹シテ關節窩ヲナシ周圍ヨリ
 骨膜ノ續キヨリナレル膜ニテ被包セラル此ヲ關節囊 Capsula articularis, Capsular
 ligament ト云ヒ内部ニアル間隙ヲ關節腔 Articular cavity ト云フ關節腔内ニ存在ス

關節及靱帶

117

關節及靭帶

ル骨端ハ軟骨ニテ被ハレ以テ骨端ヲ平滑ナラシム。關節囊ノ内面ニハ滑液ト稱スル一種ノ粘稠ナル液體ヲ分泌スル膜即滑膜(滑液膜) Synovial membrane ニテ被ハル此滑膜ハ關節囊ノ内面ヲシテ滑ラカナラシメ以テ關節ノ運動ニ際シ摩擦ヲ減ス。關節囊ハ屢々關節腔ニ突起ヲ出スコトアリ其形狀ハ種々ニシテ絨毛狀或ハ皺襞狀ヲナセルコトアリ皺襞狀ヲナセルモノハ時トシテ軟骨組織ヲ其中ニ有スルコトアリ此ヲ關節半月狀板 Meniscus articularis ト云ヒ關節ヲナス骨ノ兩端カ中央部ニ於テ觸接スル時ハ此關節半月狀板ハ環狀ヲナセトモ骨端ノ觸接セサル時ハ圓板狀ヲナシ關節腔ヲ二部ニ分ツ此ヲ關節盤 Discus articularis ト稱ス。關節囊ハ所々強キ結締織ニヨリ強メラレタル部分アリ此ヲ補助靭帶或ハ副靭帶 Ligamenta collateralia ト云ヒ關節ノ運動ヲ害スルコトナク只關節ノ限度以上ニ運動スルヲ制限スルモノナリ。

關節ノ種類 The Various kinds of articulations

關節ハ此ヲ作ル骨端數ニヨリテ單關節 Articulatio simplex ト復關節 Articulatio composita トノ二種ヲ區別ス。單關節トハ關節ヲ作ルニ與ル骨カ二個ノ場合ニシ

テ復關節トハ三個以上ノ場合ヲ云フ。又運動ノ軸ノ數ニヨリテ單軸性關節二軸性關節及三軸性關節ノ三種ヲ區別シ關節ヲ作ル骨ノ結合狀態ニヨリ次ノ種類ヲ區別ス。

一、球狀關節或ハ自由關節 Arthrodia。此者ハ關節頭及關節窩カ球狀ヲナシ凡テノ方向ニ自由ニ動クモノニシテ肩關節ハ之ニ屬ス。

二、杵臼關節 Enarthrodia。此者ハ球狀關節ニ類似スレトモ關節窩カ深キニ失スルカ故ニ其運動稍々制限セラレタルモノナリ股關節ハ此種ニ屬ス。

三、橢圓形關節或ハ髁狀關節 Articulatio ellipsoidea s. condyloidea。此者ハ關節頭カ橢圓形ヲナシ關節窩モ此ニ相應スル形ヲ有スルモノニシテ關節運動ハ長軸ト短軸トノ周圍ニ行ハル此關節ノ適例ハ後頭載域關節下顎關節等ナリ。

四、鞍狀關節 Articulatio sellaris。此者ハ關節窩及頭カ共ニ鞍背狀ヲナスモノニシテ此種類ノ關節ハ鞍背ノ前後及左右ノ二軸ノ周圍ニ運動スルコトヲ得此種ノ關節ノ適例ハ拇指腕掌關節ナリ。

五、蝶番關節 Ginglymus。此者ハ關節頭カ圓柱狀ヲナシ圓柱ノ長軸ハ此モノカ附

關節及靭帶

關節及靭帶

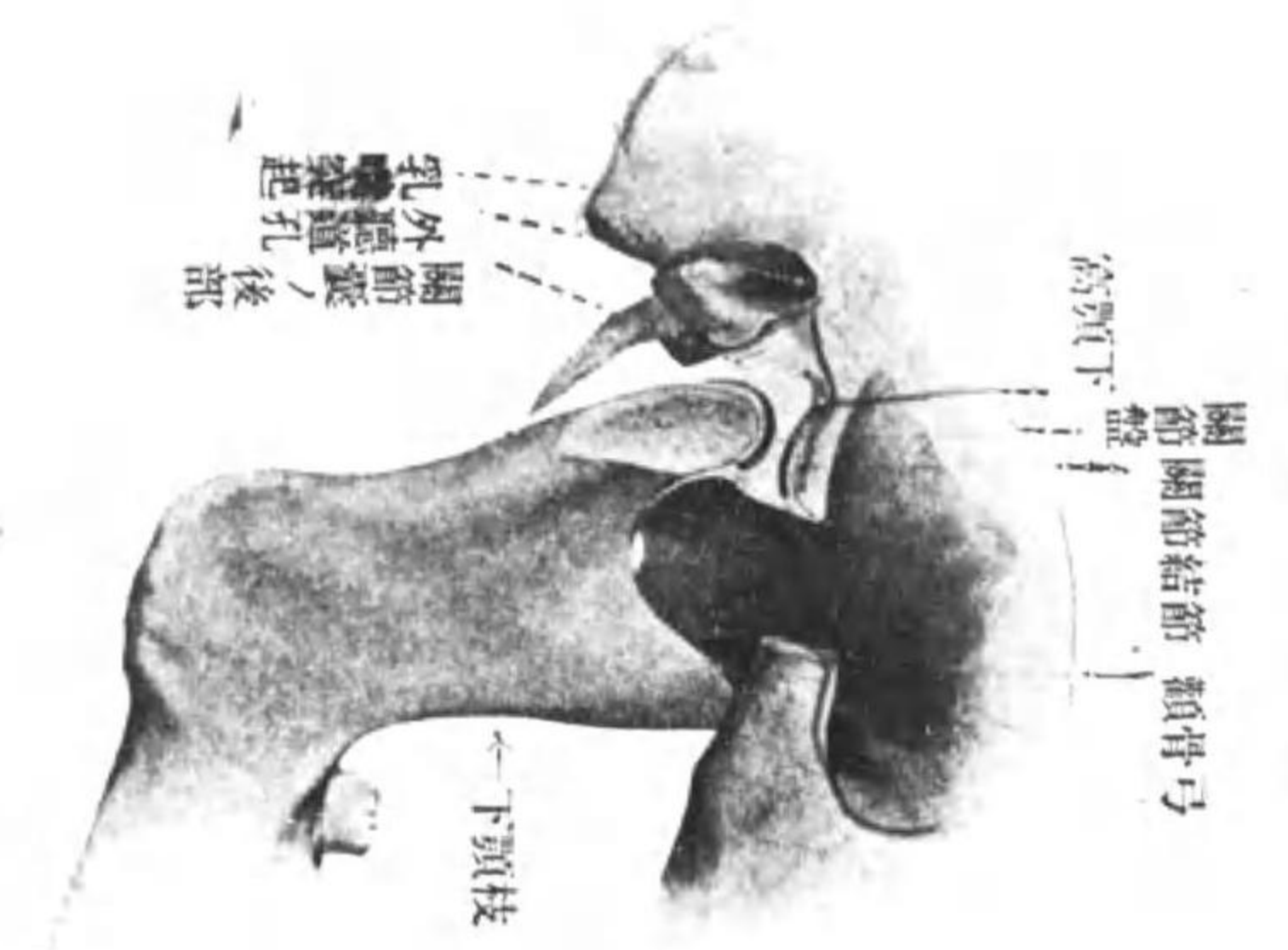
着スル骨ノ長軸ト直角ヲナシ關節窩カ此ニ相當シタルモノニシテ此種類ノ關節ニ於ケル運動ハ關節頭ノ長軸ノ周圍ニ行ハル此種ノ關節ノ適例ハ指關節ナリ。

六螺旋狀關節 *Articulatio cochlearis*。此者ノ關節頭及關節窩ハ共ニ前關節ト同形ヲ爲セドモ其關節面ハ正形ヲナサズシテ螺旋狀ヲナスモノナリ此種ノ關節ノ適例ハ膝關節及肘關節ナリ。

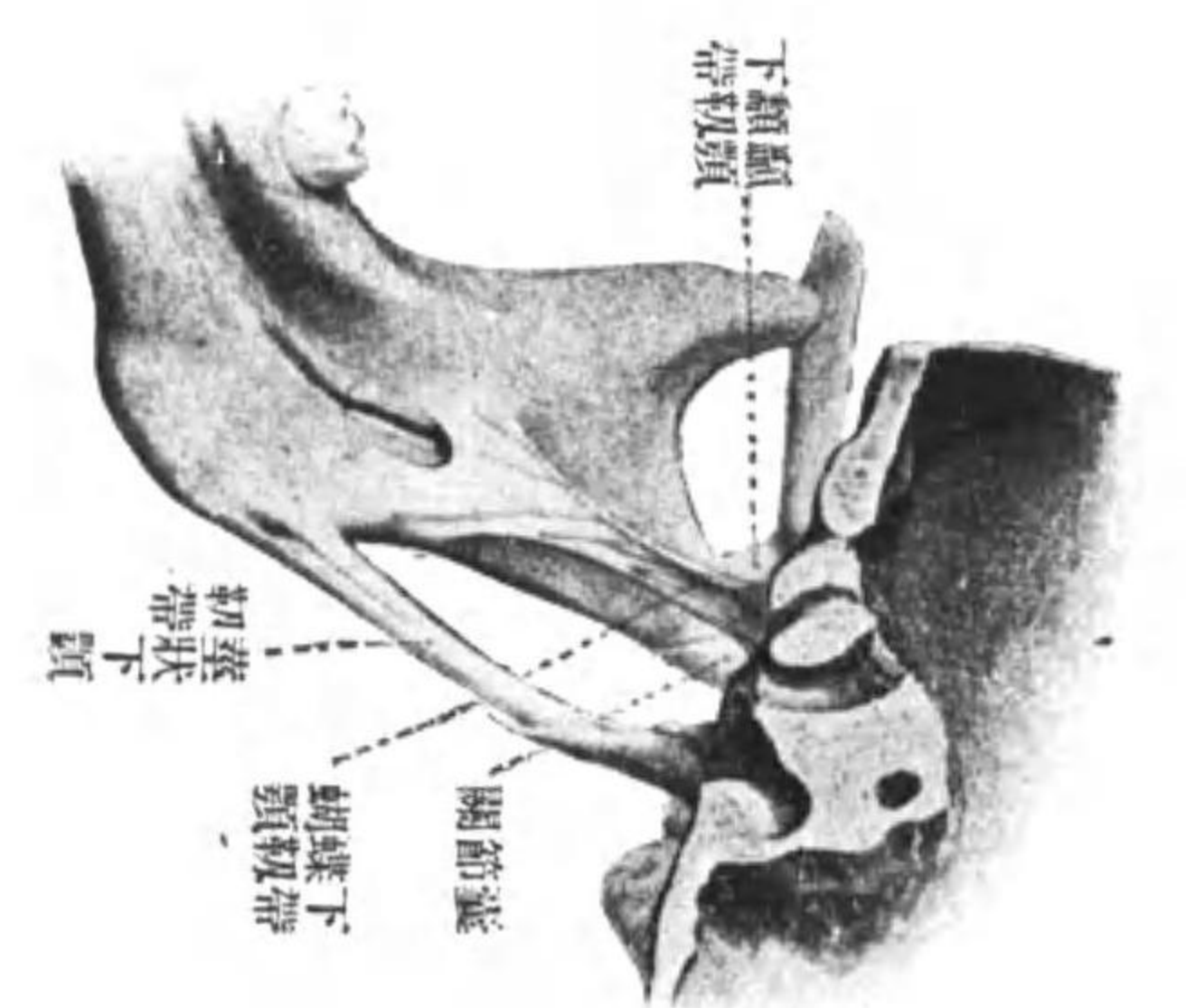
七車軸關節 *Articulatio trochlearis*。此者ハ關節面カ圓柱狀ヲナスモ圓柱ノ長軸カ此ヲ有スル骨ノ長軸ト平行シタルモノナリ此モノニ於テハ關節ノ運動ハ骨ノ長軸ノ周圍ニ行ハル此種ノ關節ノ適例ハ前膊骨相互ノ結合ナリ。

凡ソ關節ニ於テハ相對シタル二關節面ハ常ニ同大同形ヲ呈スルモノニ非ス不同ナル時ハ關節窩ノ周圍ニ硬性ノ結締組織ヲ附着シテ關節窩ヲ大ニス此結締組織ヲ關節唇 *Labrum glenoidale* ト云フ。又二關節面ガ同大同形ニシテ短キ關節囊ニヨリ互ニ結合セラル、コトアリ此ヲ叢合關節 *Amphiarthrosis* ト稱シ其運動範圍ハ甚微少ナリ。

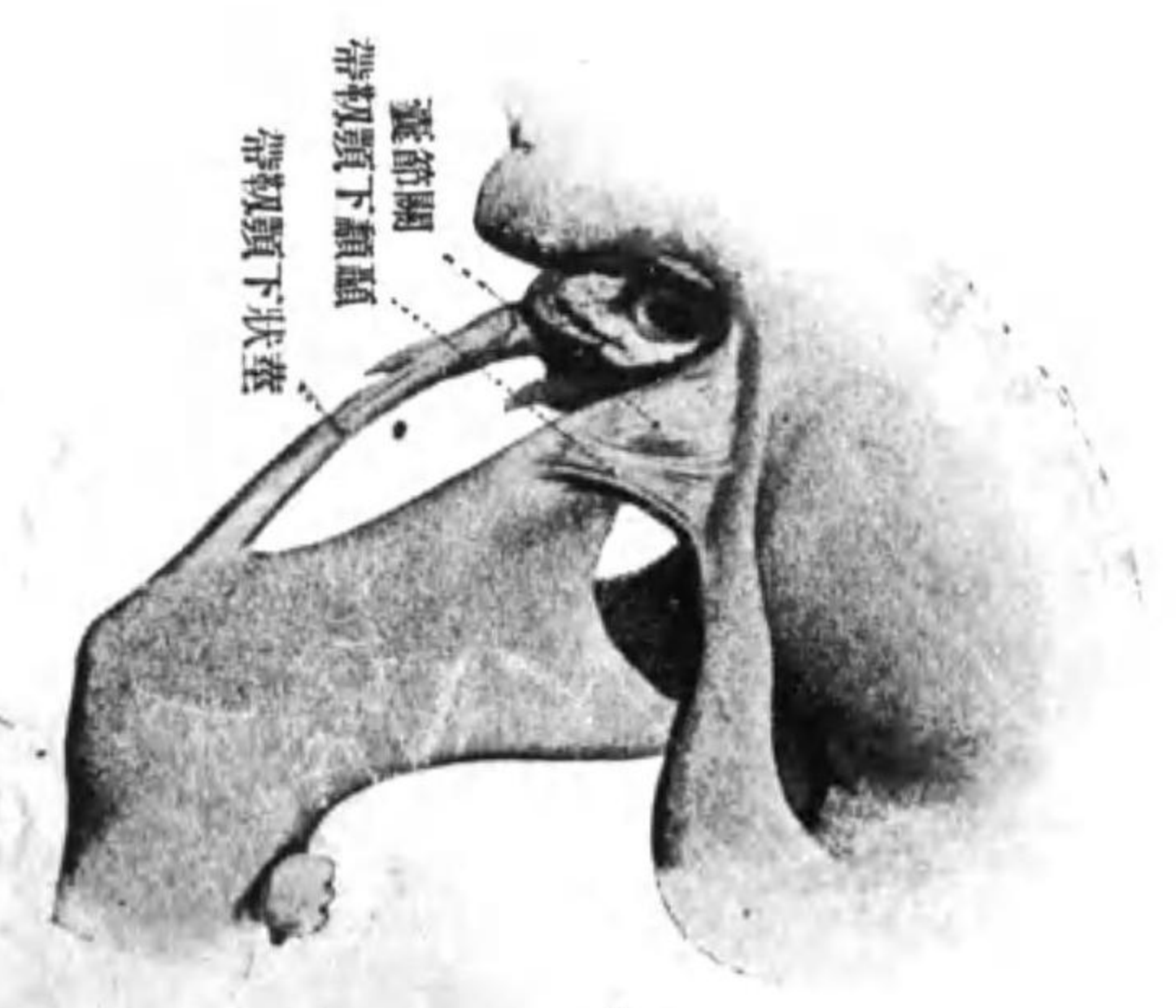
圖一十二第 見テ關節ノ節關節下 (by Spaltholz)



圖一十二第 (面内) 節關節下 (by Spaltholz)



圖九十第 (面外) 節關節下 (by Spaltholz)



頰蓋ノ關節及ビ靱帶
 頰蓋ノ關節及ビ靱帶
 頰蓋ノ關節及ビ靱帶

各論

第一章 頭蓋ノ關節及ビ靱帶

頭部ニ於テハ下顎骨及ヒ舌骨ノ外ハ縫合ニ依リ互ニ結合シ下顎骨ハ下顎關節ニ依リ舌骨ハ靱帶ニ依リ他ノ頭蓋骨ト結合ス縫合ニ就テハ既ニ述ヘタルカ故ニ下顎關節及ヒ舌骨ニ屬スル靱帶ニ就キ述フレハ。

一 下顎關節 *Articulatio mandibularis*。此關節ハ下顎骨ノ髁狀突起ト頰蓋骨ノ下顎窩トノ間ニ生セル關節ニシテ關節ノ種類ハ髁狀關節或ハ橢圓形關節ニ屬ス。
 關節囊ハ下顎窩及關節隆起ノ周圍ヨリ起リ下端ハ下顎骨髁狀突起ノ頸部ニ附着ス。此關節ニ於テハ關節頭及關節窩ノ大サ及形ハ能ク一致セサル爲メニ關節腔内ニ關節盤 *Discus articulare* 存在シ關節腔ヲ上下ノ二部ニ分ツト同時ニ關節頭ト腔トヲ一致ヒシム。此下顎關節ハ次ノ四靱帶ニヨリ強メラル。
 (1) 頰蓋下顎靱帶 *Lig. temporo-mandibulare*。此靱帶ハ頰蓋骨ノ下縁及外面ヨリ出テ關節囊ノ外側ヲ強メ下顎骨ノ頸部ニ附着ス。

頭蓋ノ關節及ビ靱帶

脊柱ノ靱帶及ビ關節

(2) 蝴蝶下顎靱帶 Lig. spheno-mandibulare。此靱帶ハ關節ノ内側ニ位シ蝴蝶骨大翼ノ角棘ヨリ出テ關節囊ノ内面ヲ強メナカラ下顎小舌ニ附着ス。

(3) 莖狀下顎靱帶 Lig. stylo-mandibulare。此靱帶ハ莖狀突起ノ下端ヨリ出テ下顎角ノ後縁ニ附着ス。

(4) 翼狀下顎靱帶 Lig. pterygo-mandibulare。此靱帶ハ蝴蝶骨ノ翼狀突起ノ下端ニ存在スル翼狀鉤ヨリ出テ下顎骨ノ内面ニアル顎舌骨線ノ後端ニ附着ス。此靱帶ハ前ノ三靱帶ニ比スレバ著シク弱キモ胎生學上甚タ趣味有ル者ニシテメッセル氏軟骨ノ萎縮シタル者ニ當レリ。

(1) 舌骨ニ屬スル靱帶 舌骨ハ莖狀突起ノ下端ヨリ出テ舌骨小角ニ至ル靱帶ニヨリテ頭蓋骨ト結合ス此ヲ莖狀舌骨靱帶 Lig. stylo-hyoidemum ト云フ此靱帶モ胎生學上甚ダ趣味有ル者ニシテライヘルト氏軟骨ノ萎縮シタル者ニ當レリ。

第二章 脊柱ノ靱帶及ビ關節

此者ニハ彎曲椎ニ屬スル者回旋椎ニ屬スル者及ビ假椎ニ屬スル者ノ三種ヲ

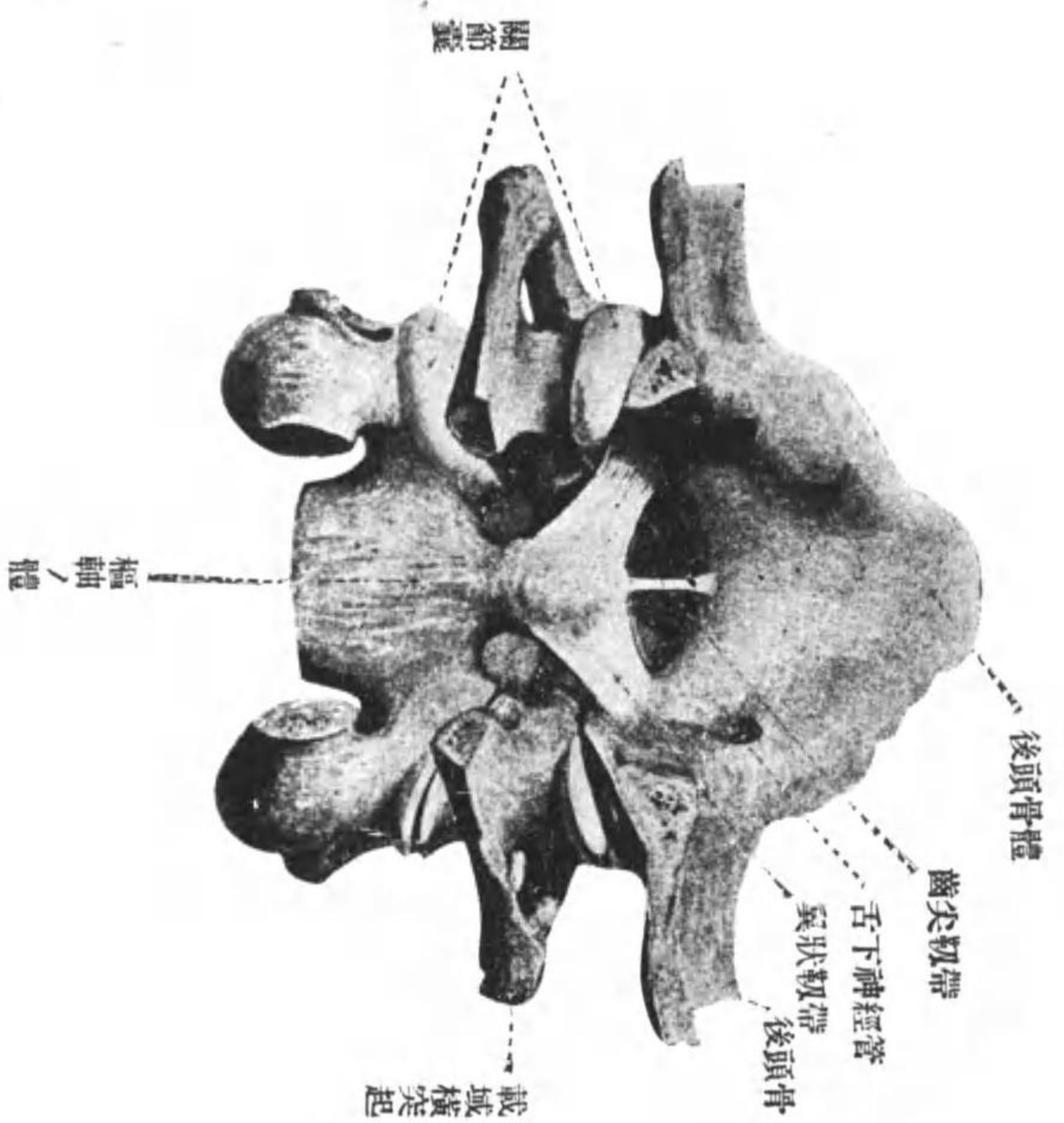
III

圖三十二第

ノ椎旋廻ビ及骨頭後)者ルヌ屬ニ椎旋廻

(者ルタ見ヲ壁前ノ管椎脊ニ除切ヲ部後

(by Spaltholz)



圖三十二第

面斷中正ノ椎腰

(by Spaltholz)



區別ス。

(甲) 彎曲椎ニ屬スルモノニハ更ニ椎體ニ屬スル者ト椎弓ニ屬スルモノトヲ區別ス。椎體ニ屬スルモノニハ椎間(纖維樣軟骨前縱韌帶及後縱韌帶ノ三種アリ。

(1) 椎間(纖維樣軟骨 Fibrocartilaginea intervertebralis) ハ椎體ノ上下二面ト同形ヲナス圓板狀ノ薄板ニシテ之ニ中央部ト周圍部トヲ區別スルヲ得。其中央部ヲ

髓核 Nucleus pulposus ト云ヒ膠樣ノ性ヲ有シ其中ニ軟骨細胞ヲ有ス、周圍部ハ纖維輪 Annulus fibrosus ト云ヒ強キ結締組織纖維ガ螺旋狀ヲナス

前縱韌帶及後縱韌帶 Lig. Longitudinale ant. et post. ハ椎體ノ前側及後側ヲ直下ニ走行シ椎骨ヲ互ニ結合スルモノニシテ其上端ハ後頭骨ニ起始シ下端ハ薦骨ニ至ル、此二韌帶ガ椎骨及椎間軟骨ニ對スル關係ハ椎骨ノ中央部ニハ結合スルコトナク上下ノ兩緣及椎間軟骨ニ堅ク結合ス。

椎弓ニ屬スルモノハ兩側ノ關節突起ヲ互ニ結合スル關節囊ノ外ニ上下二椎弓間ノ間隙ヲ充スモノ棘狀突起ヲ互ニ結合スルモノ及横突起ヲ互ニ結合スルモノ等アリテ其椎弓間ニ存在スルモノヲ脚間韌帶或ハ黃色韌帶

脊柱ノ韌帶及關節

脊柱ノ靱帶及關節

Ligg. intervertebraia s. flava ト云ヒ棘狀突起間ニ存在シテ此ヲ互ニ結合スルモノヲ棘起間靱帶及棘起上靱帶 Ligg. interspinata et supraspinata ト名ク。棘起間靱帶及ヒ棘起上靱帶ハ頸椎ニ於テハ殊ニ能ク發育シテ三角形ノ膜ヲナシ後頭骨ノ外後頭結節及外後頭櫛ニ附着ス此ヲ項靱帶 Ligg. nuchae ト云フ。又横突起間ニアリテ此ヲ互ニ結合スルモノヲ横突起間靱帶 Ligg. intertransversalia ト稱ス。

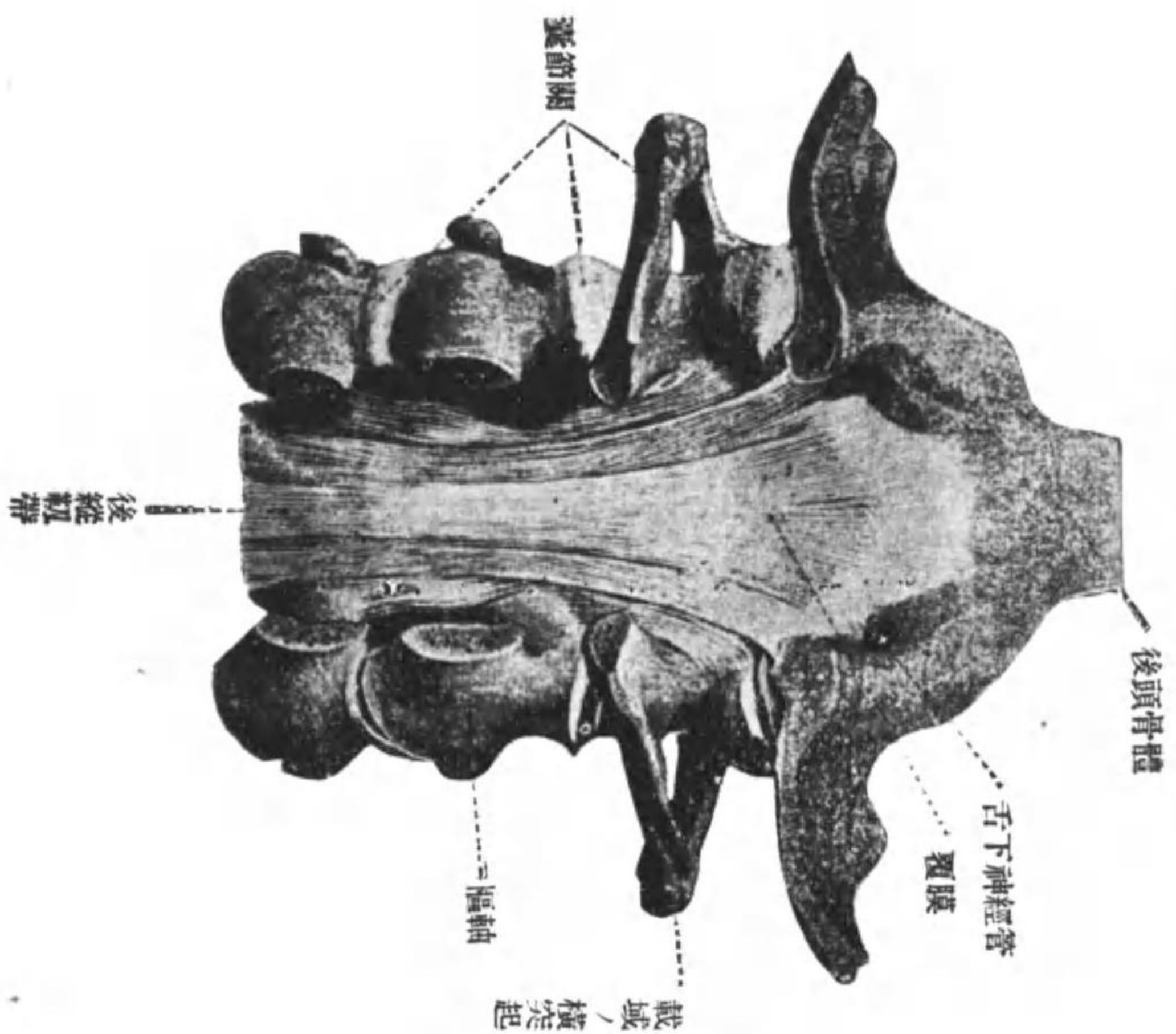
(乙) 回旋椎ニ屬スルモノニハ關節ニ後頭載域關節及載域樞軸關節ノ二種アリ。後頭載域關節 Articulatio atlanto-occipitalis ハ後頭靱ト載域ノ上關節面トニ依リ出來タル關節ニシテ橢圓形關節或ハ裸狀關節ニ屬シ此ニヨリ頭ハ前後左右ニ廻轉シ得ルナリ。

載域樞軸關節 Articulatio atlanto-epistrophica ハ三個ノ關節ガ合シタル者ニシテ其一ハ中央ニ位シ樞軸齒ト載域前弓トノ間ニ生セル關節他ノ二ハ兩側ニ位シ載域ノ下關節面ト樞軸ノ上關節面トノ間ニ生セル關節ナリ。三關節共ニ關節囊ハ緩キカ故ニ頭ハ自由ニ樞軸齒ノ周圍ニ自由ニ廻轉スルコトヲ得。

圖五十二第

膜 覆

(by Spaltholz)



圖四十二第

帶靱ルニ屬ニ椎旋廻

(by Spaltholz)



韌帶ニハ左ノ數種アリ。

(1) 齒尖韌帶 *Lig. acipis dentis*。此モノハ樞軸齒ノ上端ヨリ出デ後頭骨體ノ大後頭孔ヲ境スル所ニ附着ス。

(2) 翼狀韌帶 *Lig. alaria*。此モノハ樞軸齒上部ノ兩側ヨリ出デ外上方ニ走り後頭髁ノ内側ニ附着ス。

(3) 載域橫韌帶 *Lig. transversum atlantis*。此モノハ載域ノ側塊部ノ内面ニ緊張セル韌帶ニシテ樞軸齒ノ基部ヲ横走ス此韌帶ノ中央部ヨリハ上下ニ向ツテ突起ヲ出ス其上方ニ向テ出デタルモノハ齒尖韌帶ノ後側ヲ通ジ後頭骨體ノ内面及齒尖韌帶ノ上端ニ附着ス下方ニ向ツテ出デタルモノハ樞軸體ノ後側ニ附着ス此二突起及橫韌帶ヲ合シテ觀察スル時ハ十字形ヲナス故ニ之ヲ載域十字形韌帶トモ云フ。

(4) 覆膜 *Membrana tectoria*。覆膜ハ前三韌帶ヲ後側ヨリ被フ膜ニシテ後頭骨體ノ内面ヨリ起リ載域及ビ樞軸體ノ後側ヲ通ジテ直下シ後縱韌帶ニ連續ス。故ニ後縱韌帶ノ上端ニ外ナラズ。

脊柱ノ韌帶及ビ關節

肋骨ト胸椎及隣骨トノ結合

(5) 前載域後頭膜 Membrana atlanto-occipitalis anterior° (6) 後載域後頭膜 Membrana atlanto-occipitalis posterior° (7) 載域樞軸膜 Membrana atlanto-epistropheica° 此三韌帶ハ樞軸ノ前弓及後弓ガ側塊部ヨリ細キガ故ニ此モノト後頭骨トノ間及此モノト樞軸トノ間ノ間隙ヲ充ス者ニシテ前載域後頭膜ハ前弓ト後頭骨トノ間後載域後頭膜ハ後頭骨ト後弓トノ間載域樞軸膜ハ載域ノ後弓ト樞軸ノ椎弓トノ間ニアリ。

(丙) 假椎ニ屬スル者ハ略ス。

第三章 肋骨ト胸椎及胸骨トノ結合

肋骨ハ其後端ヲ以テ胸椎ト結合シ前端ヲ以テ胸骨ト結合ス。(甲) 其肋骨ト胸椎トノ結合ヲ肋骨椎骨關節ト云ヒ之ヲ肋骨小頭關節及肋骨横突起關節ノ二種ニ分ツ。

肋骨小頭關節 Articulatio capituli costae ハ肋骨小頭ト胸椎體ノ側面ニ存在スル關節面トノ間ニ生ゼル關節ニシテ肋骨小頭ハ骨學ニ於テ述ベシガ如ク第二乃至

第十二ニ於テハ二個ノ椎骨及其間ニアル椎間軟骨ト結合シ第十一及第十二ノ三肋骨ニ於テハ單一ノ椎骨ト結合ス此關節囊ハ椎骨ノ前面ヨリ生ズル放射狀韌帶ニヨリ強メラル。

肋骨横突起關節 Articulationes costo-transversarium ハ肋骨結節ト横突起ノ尖端トノ間ニ生ゼル關節ナリ。

此肋骨椎骨關節ニハ横突起ト肋骨頸トノ間ニ存在シテ此ヲ互ニ結合スル韌帶アリ此ヲ肋骨頸韌帶 Lig. colli costae ト云フ其他上下ニ列ベル横突起及ビ肋骨頸ノ間ニ在ル間隙ヲ充シ且此等ノ者ヲ互ニ結合セル韌帶及ビ横突起ノ尖端ヨリ出デ肋骨結節ニ至レル韌帶アリ其名ハ略フ。

(乙) 肋骨ノ前端ト胸骨トノ關節ハ肋骨(胸骨)關節 Articulatio costo-sternalis ト云ヒ第一乃至第七肋骨ノ軟骨部ノ前端ハ胸骨ノ兩側縁ニアル肋骨載痕ニ於テ直接ニカ或ハ關節ヲ以テ胸骨ト結合シ關節囊ハ緊ク且前後兩面ニ補助韌帶ヲ有ス此補助韌帶ハ胸骨ノ前面或ハ後面ニ至レバ同側ノ者及ビ反對側ノ者ガ互ニ交叉シテ膜ヲ作り之ヲ被ヘリ。

肋骨ト胸椎及胸骨トノ結合

上肢ニ屬スル關節及ビ靱帶

第四章 上肢ニ屬スル關節及ビ靱帶

(甲)上肢帶

上肢帶ハ鎖骨ノ前端ニヨリ胸骨ト結合スルノミニシテ其他ノ部分ニ於テハ軀幹ト結合スルコトナシ。關節ニハ胸(骨)鎖骨關節及肩峰鎖骨關節ノ二アリ。

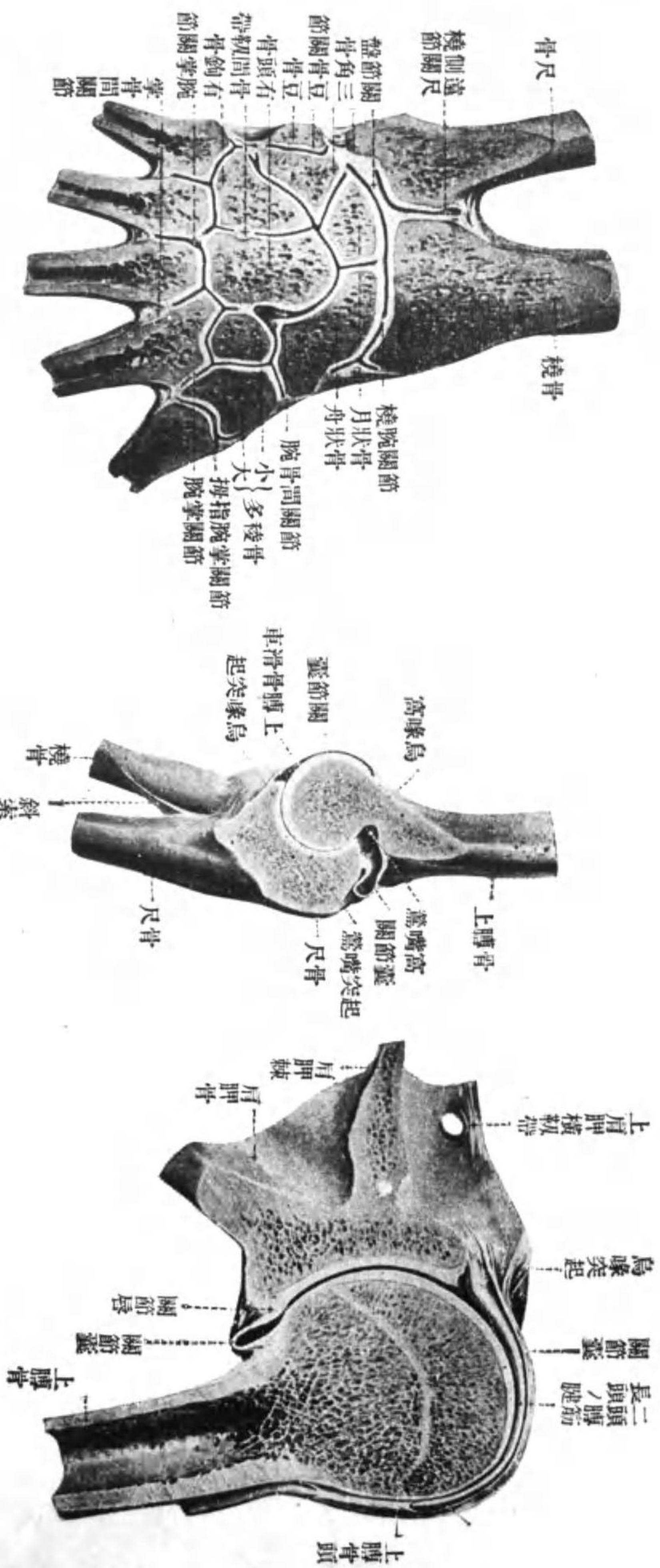
胸骨鎖骨關節 *Articulatio sterno-clavicular* ハ鎖骨ノ内端ト胸骨ノ鎖骨截痕トノ間ニ出來タル關節ニシテ關節囊ハ緊シ又鎖骨ノ下側ト第一肋骨トノ間ニハ強キ靱帶アリテ此二者ヲ結合セリ此靱帶ヲ肋(骨)鎖(骨)靱帶 *Lig. costo-clavicular* ト云フ。

肩峰鎖骨關節 *Articulatio acromio-clavicular* ハ鎖骨ノ外端ト肩峰突起トノ間ニ出來タル關節ニシテ關節囊ハ前後ノ兩側稍々厚シ。其他鎖骨ト肩岬骨トハ肩岬骨ノ鳥喙突起ヨリ出デ鎖骨ノ外側部ニ至ル強キ靱帶ニヨリ互ニ結合セラル此靱帶ヲ鳥喙鎖骨靱帶 *Lig. coraco-clavicular* ト云フ。

(乙)肩關節 *Articulatio humeri*

1110

圖六十二 第 肩 關節 圖七十二 第 肘 關節 圖八十二 第 手 關節



肩關部ハ肩胛骨ノ外上角ニアル關節窩ト上膊骨頭トノ間ニ生ゼル關節ニシテ球狀關節或ハ自由關節ニ屬シ凡テノ方向ニ自由ニ運動スルコトヲ得而シテ關節窩ハ關節頭ヲ入ル、爲ニハ餘リ小ナルガ故ニ其周圍ニ關節唇ヲ附着セシメ以テ關節頭ヲ入ル、ニ適セシム。關節囊ハ甚ダ緩クシテ關節窩ノ周圍ヨリ出テ關節頭ノ下部ニアル稍々細キ部即チ解剖頸ニ附着ス。

(丙)肘關節 *Articulatio cubiti.*

肘關節ハ上膊骨ノ下端ト橈骨及尺骨ノ上端トノ間ニ生ゼル關節ニシテ複關節ニ屬シ次ノ三關節ヨリナル。

- (1) 上膊尺骨關節 *Articulatio humero-ulnaris.* 此關節ハ上膊骨滑車ト尺骨ノ上端ニア
ル半月狀截痕トノ間ニ生ゼシ關節ナリ。
- (2) 上膊橈骨關節 *Articulatio humero-radialis.* 此關節ハ上膊骨小頭ト橈骨小頭トノ間
ニ生ゼル關節ナリ。
- (3) 近側橈尺關節 *Articulatio radio-ulnaris proximalis.* 此關節ハ尺骨ノ橈骨截痕ト橈
骨ノ環狀關節面トノ間ニ生ゼシ關節ナリ。

上肢ニ屬スル關節及ビ靱帶

上肢ニ屬スル關節及ビ靱帶

關節囊ハ此三關節ヲ共同ニ包ミ前後ハ緩ケレトモ左右ハ緊シ故ニ屈伸ハ容易ナレドモ左右運動ハ殆ンド出來ズ而シテ肘關節ノ屈伸ハ上膊尺骨關節ニ依リテ出來前膊ノ廻前及ビ廻後ハ近側及ビ遠側橈尺關節ニ依リ出來ル者ナリ。

(丁)前膊骨相互ノ結合

橈骨及尺骨ハ近側橈尺關節、遠側橈尺關節及ビ骨間膜ニテ互ニ結合セラル。近側橈尺關節ノ出來方ハ前述ノ如クニシテ橈骨頸ノ周圍ニハ尺骨ノ橈骨截痕ヨリ出テ橈骨頭ヲ圍繞スル靱帶アリテ橈骨ノ上端ヲ尺骨ト結合ス此靱帶ヲ橈骨輪狀靱帶 *Lig. anulare radii* ト云フ。

遠側橈尺關節 *Articulatio radio-ulnaris distalis* ハ尺骨下端ノ外面ニアル關節環狀面ト橈骨下端ノ内側ニアル尺骨截痕トノ間ニ出來タル關節ニシテ腕關節ヨリハ軟骨板ニヨリ全ク區別セラル。

骨間膜 *Membrana interossea* ハ尺骨及橈骨ノ骨間櫛ノ間ニ張レル強キ膜ニシテ橈骨及尺骨ノ體ト殆ンド全部ヲ互ニ結合ス。

(戊)手關節 *Articulationes manus*

手關節ハ數多ノ關節ガ集アリテ出來タルモノニシテ次ノ種類ヲ區別ス。

(1) 橈腕關節 *Articulatio radio-carpæ*。此關節ハ橈骨ノ下端ト腕骨ノ第一列ヲナス三骨即舟狀骨月狀骨三角骨ノ三骨ノ間ニ生ゼシ關節ニシテ橈骨ノ下端ハ關節窩ヲナシ第一列ノ腕骨ハ靱帶ニヨリテ強ク結合セラレ關節頭ヲナス尺骨ハ僅ニ此關節ニ干與スルノミナリ。

(2) 腕骨間關節 *Articulatio intercarpæ*。此關節ハ二列ヲナス腕骨ノ間ニ出來タル關節ニシテ關節腔ガ骨ノ間ニ侵入スル故ニ不規則ナル形ヲナス。

(3) 豆骨關節 *Articulatio ossis pisiformis*。此關節ハ豆骨ト三角骨トノ間ニ生ゼル關節ナリ。

(4) 腕掌關節 *Articulatio carpo-metacarpæ*。此關節ハ第二乃至第五掌骨ノ基底部ト第二列ヲナス腕骨ノ下端(但シ大多稜骨ヲ除ク)トノ間ニ生ゼシ關節アリ。

(5) 拇指腕掌關節 *Articulatio carpo-metacarpæ pollicis*。此關節ハ第一掌骨ト大多稜骨トノ間ニ生ゼシ關節ニシテ鞍狀關節ニ屬シ拇指ノ屈伸及内外轉ヲ得セシム。此等ノ諸關節ハ共同ノ靱帶ニヨリ強ク結合セラル之ニハ骨間ニアルモノ、背

上肢ニ屬スル關節及ビ靱帶

下肢ノ關節及靱帶

側ニアルモノ、掌側ニアルモノ、及内外兩側ニアルモノヲ區別ス。就中最モ必要ナルモノハ掌側ニ存在スル横腕關節 *Lig. carpi transversum* ニシテ此モノハ撓骨側及尺骨側腕骨隆起間ニ張り其下ニ一管ヲ作ル此管ヲ腕骨管 *Canalis carpeus* ト云ヒ前膊ヨリ掌ニ來ル屈指筋ノ腱及正中神經ノ通ズル所ナリ。其他ノ靱帶ニ就キテハ畧ス。

(己)指掌關節 *Articulationes metacarpo-phalangeae.*

此關節ハ掌骨ノ前端即掌骨頭ト指骨第一節ノ基部トノ間ニ生ゼシ關節ニシテ指ノ基部ノ屈伸ヲナス。

(庚)指關節 *Articulationes digitorum manus.*

此關節ハ指骨ノ三節間ニ出來タル關節ニシテ關節ノ種類ハ指掌關節ト同一ニシテ指ヲ屈ス。

此二關節ニ屬スル靱帶ハ略ス。

第五章 下肢ノ關節及靱帶

(甲)下肢帶

下肢帶ハ骨學ニテ述ベシガ如ク兩側ノ膀骨或ハ臑骨ヨリナリ臑骨ニアル耳狀面ニヨリ薦骨ノ耳狀面ト結合シ兩側ノ耻骨ノ前面ニ存在スル耻骨聯合面ニヨリ兩側ノ臑骨ヲシテ互ニ結合セシム。此二關節ノ周圍ニハ強キ靱帶アリテ關節ヲ保護ス其外此下肢帶ニハ次ノ必要ナル靱帶アリ。

(1) 鼠蹊靱帶 *Lig. inguinale*。此靱帶ハ前腹壁ノ下端ト大腿前側ノ上端トノ間ニ位シ上前腸骨棘ヨリ起リ耻骨結節ニ附着ス此靱帶ハ皮膚上ヨリ觸知シ得ベシ閉鎖膜 *Membrana obturatoria*。此ハ閉鎖孔内ニ緊張セルモノニシテ其大部分ヲ閉塞シ上端ニ孔ヲ殘ス之ヲ閉鎖管 *Canalis obturatorius* ト云フ。

(2) 薦坐隆起靱帶 *Lig. sacro-tuberisum*。此靱帶ハ坐骨隆起ヨリ出テ扇狀ニ廣ガリ尾閭骨及薦骨ノ外側縁ニ附着ス。

(3) 薦坐棘靱帶 *Lig. sacro-spinosum*。此靱帶ハ坐骨棘ヨリ起リ薦坐隆起靱帶ノ前方ヲ通過シ薦骨及尾閭骨ノ外側縁ニ附着ス。

(4) 薦坐隆起靱帶及薦坐棘靱帶ハ合シテ薦坐骨靱帶ト稱スルコトアリ而シテ此

ラル。關節囊ハ大腿骨ノ内髌及外髌ニアル關節面ノ周圍ヨリ起リ下端ハ脛骨髌下縁ニ附着ス。此關節ニ特有ナル點ハ關節囊ノ前部ガ膝蓋骨及之レニ附着スル四頭股筋腱ヨリナルコトナリ其外此關節囊ノ内外兩側ハ大腿骨ノ内上髌及外上髌ヨリ起リ鉛直ニ下リ脛骨ノ上端或ハ腓骨ノ上端即腓骨小頭ニ附着スル靱帶ニヨリ強メラル。

(丁) 下腿骨相互ノ結合

脛骨及腓骨ハ橈骨及尺骨ニ於ケルト同ジク上下ノ兩端ニアル關節及二骨ノ全長ヲ互ニ結合スル強キ膜即チ下腿骨間膜 *Membrana interossea cruris* ニ依リ互ニ結合セラル。

(戊) 足關節

足關節ハ手關節ト同ジク數多ノ關節ノ合セルモノニシテ次ノ者アリ。

(1) 距下腿關節 *Articulatio talo-cruvalis*。此關節ハ距骨ノ上面ニアル距骨滑車ト脛骨及腓骨ノ下端トノ間ニ出來タル關節ニシテ距骨滑車ハ内外中ノ三關節面ニ分レテ其中央部ニハ脛骨ノ下端ニアル關節面之レニ接シ内外兩側ニハ内髌

下肢ノ關節及靭帶

及外踝ガ觸レ此ニ依テ此關節ハ前後ニハ容易ニ動クコトヲ得ルモ左右ニハ殆ンド動キ得ザル様ニ成レリ。

(2) 距跟關節 *Articulatio talo-calcanea*。此關節ハ距骨ノ下向ニアル關節面ト跟骨ノ上面ニアル關節面トノ間ニ出來タル關節ナリ。

(3) 距舟關節 *Articulatio talo-navicularis*。此關節ハ舟狀骨ノ後側ト距骨ノ前側ニアル關節面トノ間ニ出來タルモノニシテ屢々距跟關節ト一連ヲナス故ニ距跟關節及距舟關節ヲ合シテ距跟舟狀關節 *Articulatio talo-calcaneo-navicularis* ト稱スルコトアリ。

(4) 跟骹關節 *Articulatio calcaneo-cuboidea*。此關節ハ跟骨ノ前側及骹子骨ノ後側ニアル關節面ノ間ニ出來タル關節ニシテ此關節ト距舟關節トハ殆ンド一直線ヲナシ外科的手術ノ時此所ヨリ前方ノ部ヲ切斷スル事アリ。此二關節ヲ合シテシニハルト Chopart 氏關節ト云フ。

(5) 舟楔關節 *Articulatio naviculo-cuneiformis*。此關節ハ舟狀骨ノ前面ト三個ノ楔狀骨ノ後端トノ間ニ出來タル關節ニシテ骹子骨ノ内面ノ一部又之レニ與レリ。

44
①
筋學 Myology

(6) 跗蹠關節 *Articulatiores tarso-metatarsea*。此關節ハ楔狀骨及骹子骨ノ前端ト五個ノ蹠骨ノ後端トノ間ニ出來タル關節ニシテ三個ニ分ル其第一ハ第一楔狀骨ト第一蹠骨トノ間第二ハ第二第三楔狀骨ト第二第三蹠骨トノ間第三ハ骹子骨ト第四第五蹠骨トノ間ナリ。

此等ノ諸關節ノ周圍ニハ背側蹠側及ビ兩側ニ數多ノ靭帶存在シテ之レヲ互ニ結合シ又各骨ノ間ニモ關節腔ノ間ニ當ル所ニ靭帶存在シテ之レヲ互ニ結合ス此等ノ靭帶ニ就キテハ略ス。

蹠趾關節 *Articulatiores metatarso-phalangeae*。此者ニハ五個アリテ各蹠骨ノ前端ト之レニ附着スル趾骨トノ間ニ出來タル關節ニシテ其狀態ハ全ク手ニ於ケル掌指關節ト同一ナリ。

趾骨關節 *Articulatiores digitorum pedis*。此モノハ趾ノ三節ノ間ニ出來タル關節ニシテ其狀態ハ蹠趾關節ト全ク同一ナリ。